ワークスペース環境管理™ 2206

Workspace Environment Management は、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops™ の展開において最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これはソフトウェアのみの、ドライバー不要のソリューションです。

新機能

2206の新機能

このリリースには、以下の新機能が含まれており、ユーザーエクスペリエンスを向上させるために問題に対処しています。

プロセス階層制御

このリリースでは、プロセス階層制御機能が導入されています。この機能により、特定の子プロセスが親プロセスを介して起動できるかどうかを制御できます。親プロセスを定義し、その子プロセスの許可リストまたはブロックリストを指定することで、ルールを作成します。その後、ユーザーごとまたはユーザーグループごとにルールを割り当てます。以下のルールタイプが利用可能です。

- **パス**。実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。発行元情報に基づいてルールを適用します。
- **ハッシュ**。指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。

この機能が動作するためには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。詳細については、「プロセス階層制御」を参照してください。

メモリ管理の機能強化

このリリースには、メモリ管理機能の機能強化が含まれています。この機能には、メモリ管理を実行するための2つの追加オプションが用意されています。

- **合計利用可能メモリが超過した場合に最適化しない (MB)**。このオプションを使用すると、WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。
- **特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする**。このオプションを使用すると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

詳細については、「メモリ管理」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- 新しいノードである**プロセス階層制御**が、**セキュリティ**で使用できるようになりました。このノードには、特定の親子プロセスを介して子プロセスを開始できるかどうかを制御できるタブが含まれています。
- **合計利用可能メモリが以下の場合に最適化しない**オプションが、**システム最適化 > メモリ管理 > メモリ管理**で使用できるようになりました。このオプションを使用すると、Workspace Environment Management™ がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。
- 新しいタブである**メモリ使用量制限**が、**システム最適化 > メモリ管理**で使用できるようになりました。このタブでは、特定のプロセスのメモリ使用量制限を構成できます。

修正された問題

Workspace Environment Management™ 2206 には、Workspace Environment Management 2203 と比較して、以下の修正された問題が含まれています。

- **Administration Console > Administration > Logging > Agent** で、Workspace Environment Managementに追加したエージェントマシンの登録ステータスを表示すると、一致するものが表示されません。
- **Administration Console > Administration > Logging** で管理ログまたはエージェントログを表示すると、開始日より前の終了日を選択できます。また、特定の日付のエージェントログを表示しても、結果は表示されません。
- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとすると、失敗する場合があります。
- Microsoft AppLockerコンソールからエクスポートしたAppLockerルールをWEMにインポートすると、ハッシュタイプのルールはインポートできません。
- WEMインフラストラクチャサービスを2112以降にアップグレードした後、ユーザーが環境で問題が発生していない場合でも、Windowsイベントログに次のエラーが表示されることがあります。`System.NotImplementedException: The method or operation is not implemented`。

既知の問題

- VUEMRSAV.exe を使用して、現在ユーザーのアクション グループを介して適用されたアクションに関する結果を表示すると、**適用されたアクション**タブにアクションの誤ったソースが表示される場合があります。例: 2つのアクション グループ (`Group1` と `Group 2`) がユー

ザーに割り当てられ、`Group1` に `Application1` が含まれています。また、**適用されたアクション**タブには、`Group2` に `Application1` が含まれていない場合でも、`Application1` が `Group2` からのものであると表示される場合があります。(デフォルトでは、VUEMRSAV.exe はエージェントのインストール フォルダーにあります: %ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMRSAV.exe。)

サードパーティに関する通知

Workspace Environment Management™ の現在のリリースには、以下のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Workspace Environment Management サードパーティに関する通知

非推奨

この記事のお知らせは、段階的に廃止されるプラットフォームおよびWorkspace Environment Management™の機能について事前にお知らせし、お客様がタイムリーなビジネス上の意思決定を行えるようにすることを目的としています。Citrix®は、お客様の使用状況とフィードバックを監視し、それらがいつ廃止されるかを決定します。お知らせは、その後のリリースで変更される可能性があり、すべての非推奨の機能や機能が含まれていない場合があります。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、「製品ライフサイクルサポートポリシー」を参照してください。

非推奨と削除

次の表は、非推奨または削除されたプラットフォームおよびWorkspace Environment Management (WEM) の機能を示しています。

*非推奨*の項目は、すぐに削除されるわけではありません。Citrixは、このリリースでは引き続きサポートしますが、将来のCurrent Releaseで削除されます。アスタリスク（*）が付いている項目は、次回のCitrix Virtual Apps and Desktops Long Term Service Release (LTSR) リリースまでサポートされます。

*削除済み*の項目は、Workspace Environment Managementで削除されたか、サポートされなくなったものです。

項目	発表日	削除日	代替
キャッシュ同期ポートのサポート（Workspace Environment Management 1909以前に適用。Workspace Environment Management 1912以降のキャッシュデータ同期ポートに置き換えられました）。	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912以降にアップグレードしてください。注：Workspace Environment Management 2103以降を使用している場合は、Workspace Environment Managementエージェントを1912以降にアップグレードしてください。
VMware Persona設定のサポート。	1906	**1909**	
以下のOSプラットフォームでのWEMインフラストラクチャサービスのサポート：Windows Server 2008 R2 SP1、およびWindows Server 2012。	4.7	**1808**	
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、Windows 7 SP1 32ビットおよび64ビット、Windows 8.x 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2	4.7	**1808**	

項目	発表日	削除日	代替
SP1、および Windows Server 2012。			
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート：Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、およびWindows Server 2008 SP2。	4.7	**1808**	
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1からWEM 4.xへのインプレースアップグレード。*	4.5	WEM 3.5.2にアップグレードし、その後WEM 4.xにアップグレードします。	
Windows XP SP3 32ビットおよび64ビットでのすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート: Windows XP SP3 32-bit and 64-bit, Windows Server 2003 32-bit and 64-bit, Windows Server 2003 R2 32-bit and 64-bit	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
GPOを介した既存の（バージョン4.3以前の）エージェントのサイトへの割り当てとバインドのサポート。	4.3		エージェントをWorkspace Environment Management 4.3以降にアップグレードしてください。

項目	発表日	削除日	代替
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート: Windows XP SP3 32-bit and 64-bit, Windows Server 2003 32-bit and 64-bit, Windows Server 2003 R2 32-bit and 64-bit	4.2	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート: Windows Vista SP1 32-bit and 64-bit, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2	4.2	4.5	
Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.0、または4.5.1上のすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2 にアップグレードしてください。

クイックスタートガイド

このガイドでは、Workspace Environment Management™ (WEM) のインストール方法と構成方法について説明します。段階的なインストールと構成の手順、および推奨されるベストプラクティスが記載されています。

概要

WEM は、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これはソフトウェアのみで、ドライバー不要のソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

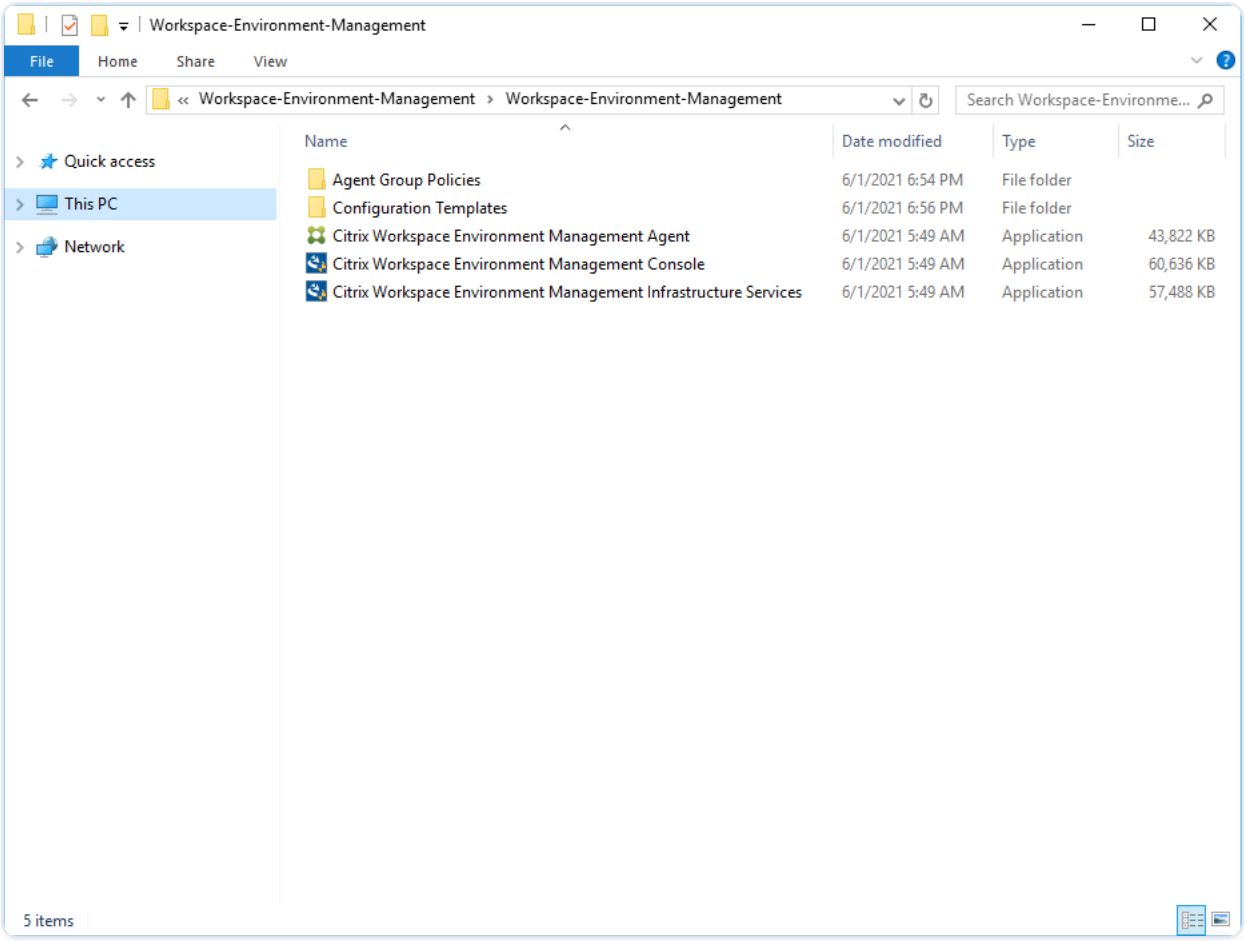
Citrix® は、WEM の最新バージョンをインストールすることをお勧めします。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの 3 つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。次の手順では、これらのコンポーネントのインストール方法と構成方法について詳しく説明します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- エージェント

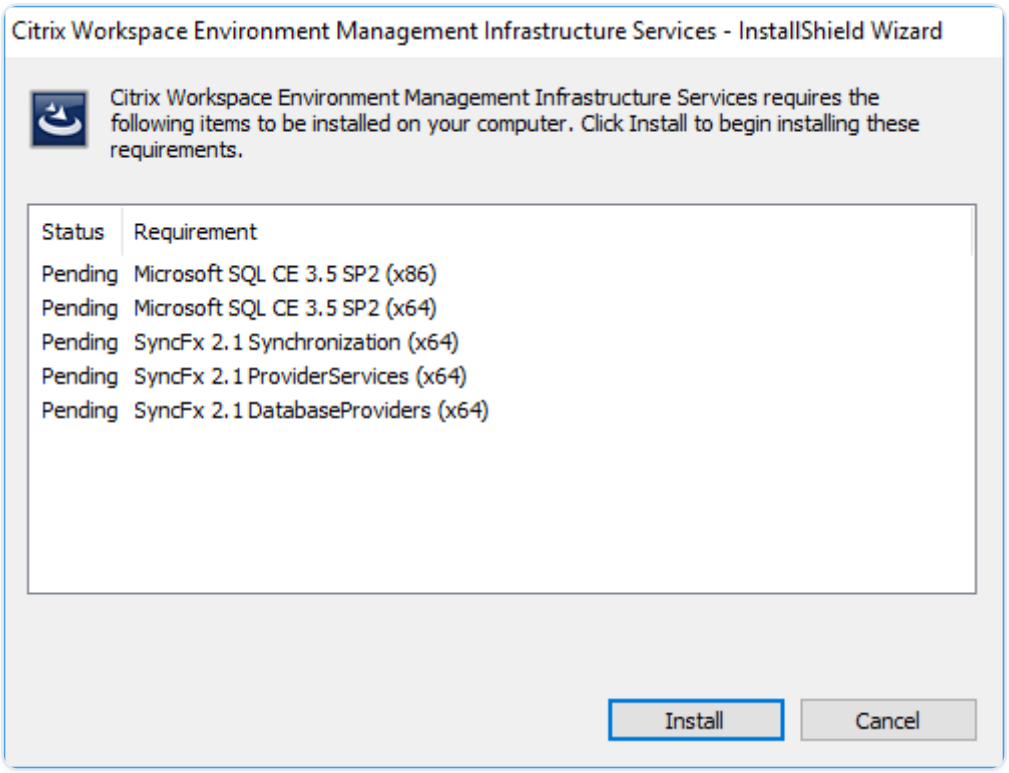
> **注:**
>
> - 上記のコンポーネントをドメインコントローラーにインストールしないでください。
> - インフラストラクチャサービスは、Delivery Controller™ がインストールされているサーバーにはインストールしないでください。

ステップ 1: インフラストラクチャサービスをインストールする

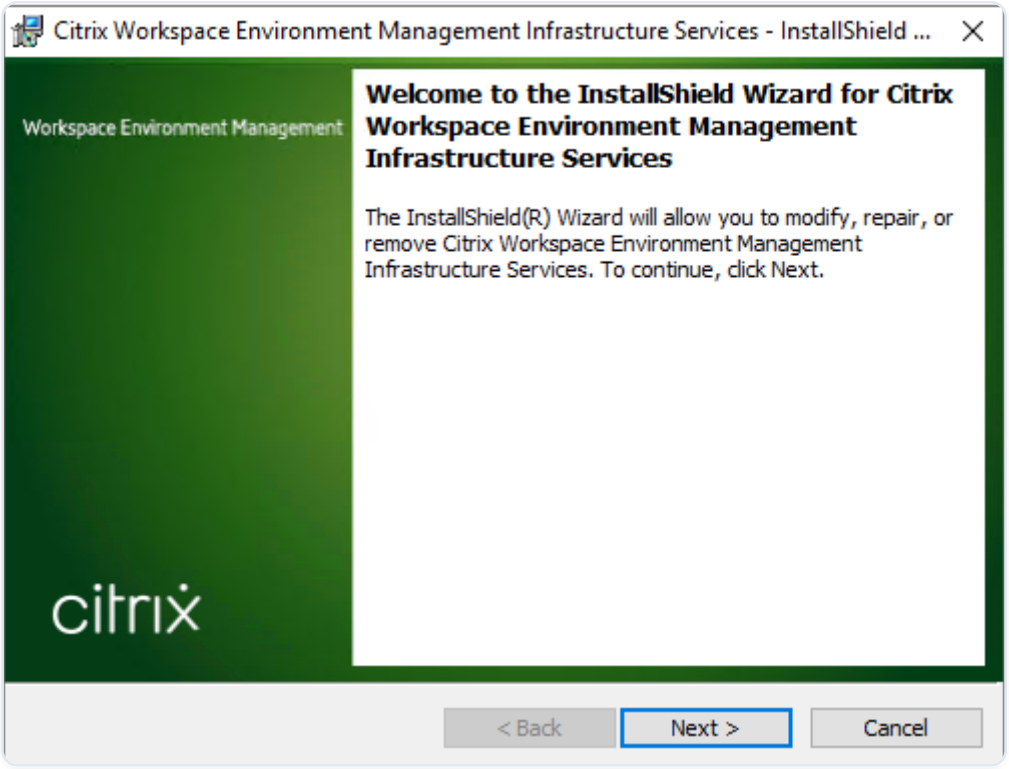
1. 最新の WEM インストーラーを Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium Edition Components ダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードします。zip ファイルを任意のフォルダーに展開します。



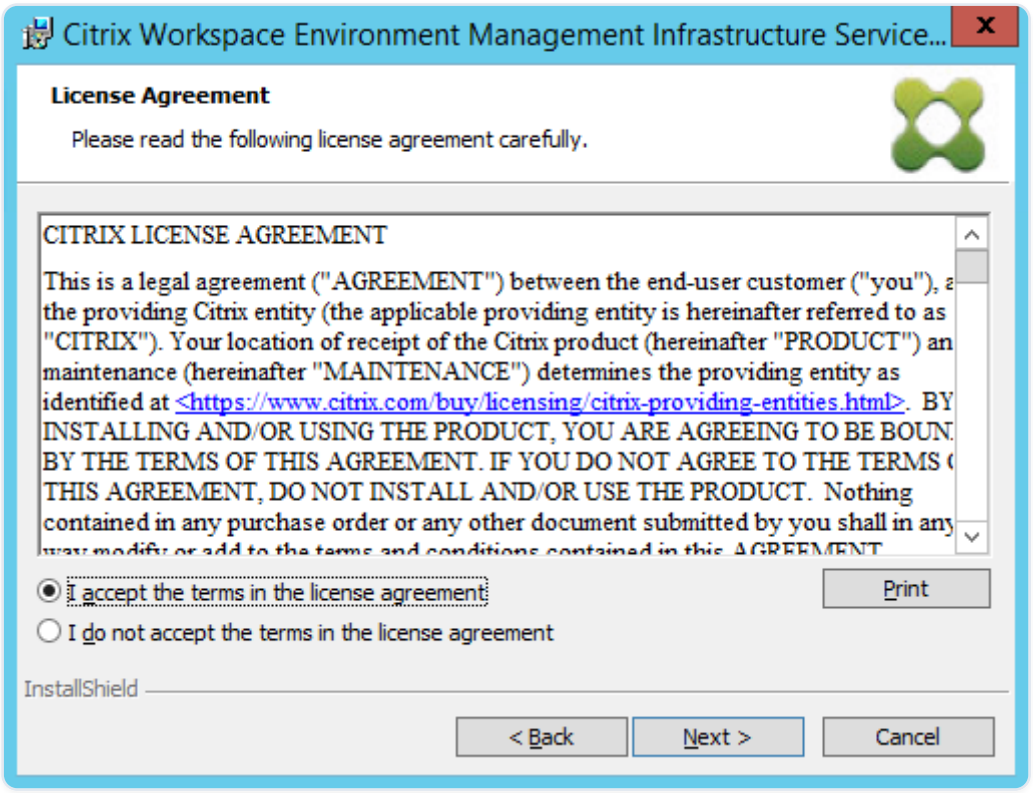
2. インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe** を実行します。
3. 「**インストール**」をクリックします。



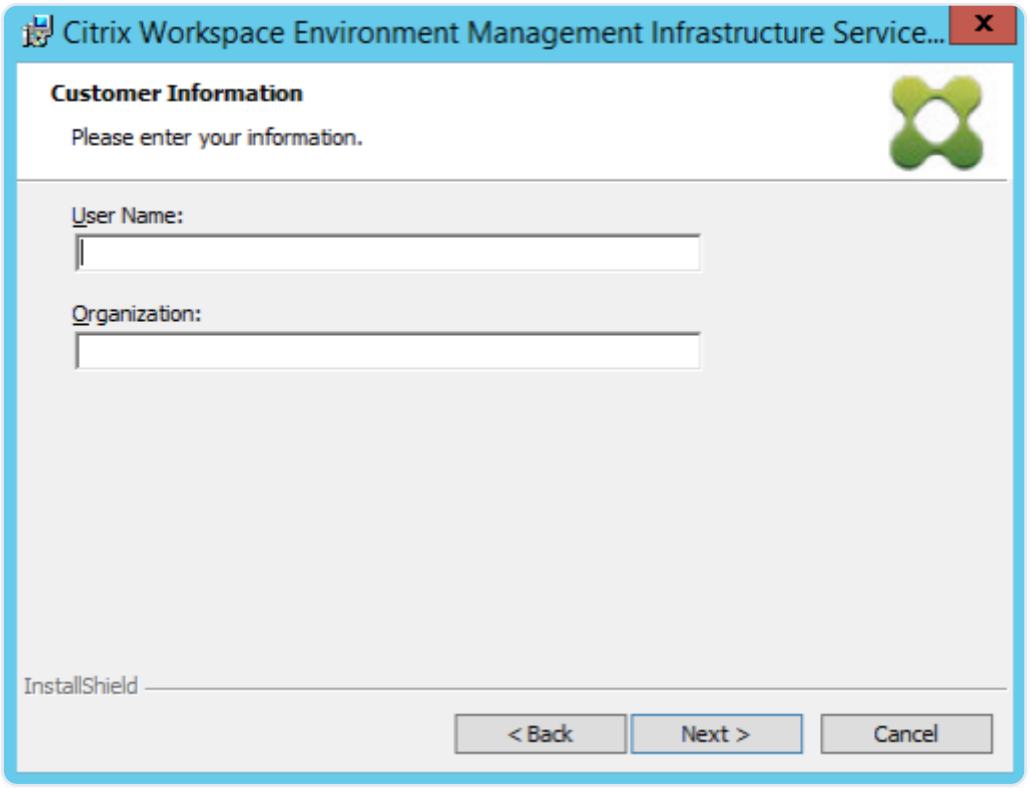
4. **次へ**をクリックします。



5. 「使用許諾契約の条項に同意します」を選択し、**次へ**をクリックします。



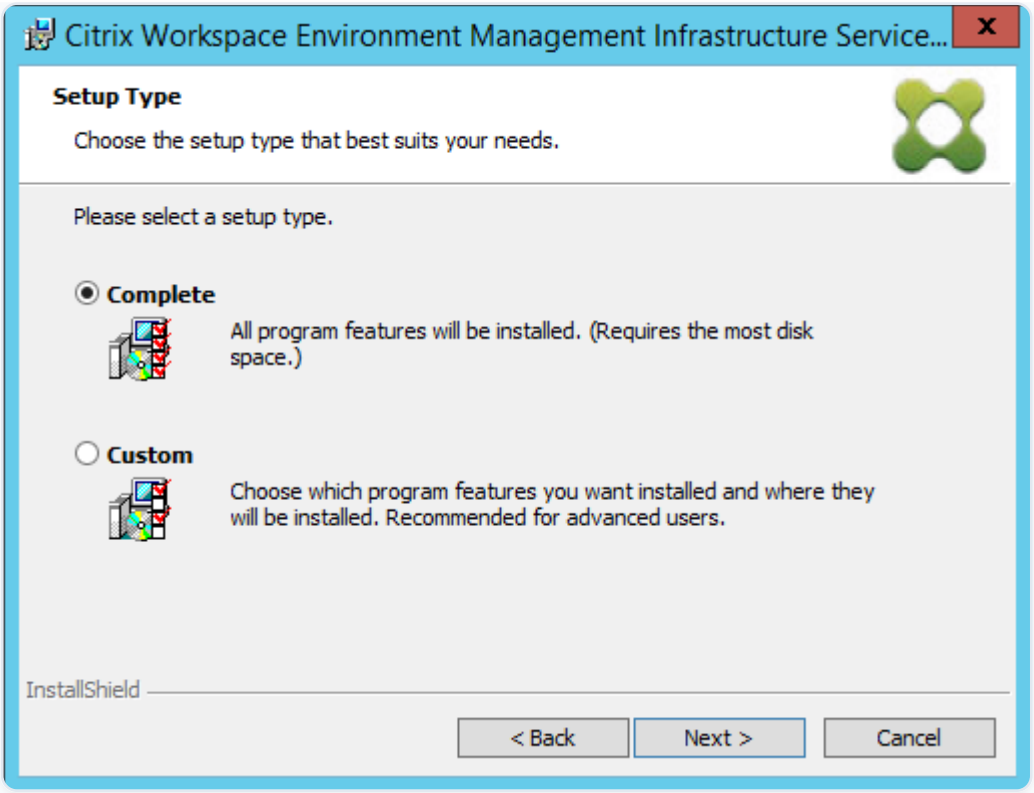
6. ユーザー名と組織を入力し、**次へ**をクリックします。



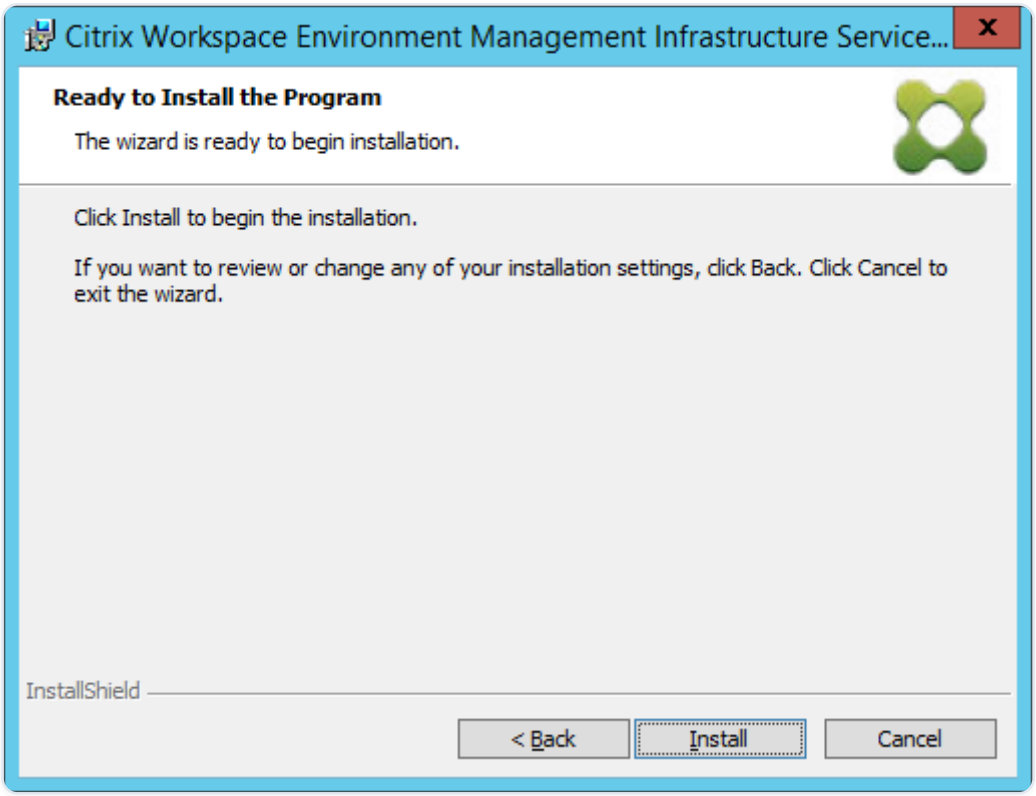
7. **完了**を選択し、**次へ**をクリックします。

> **注:**

インストールフォルダーを変更したり、SDKのインストールを防止したりするには、**カスタム**を選択します。

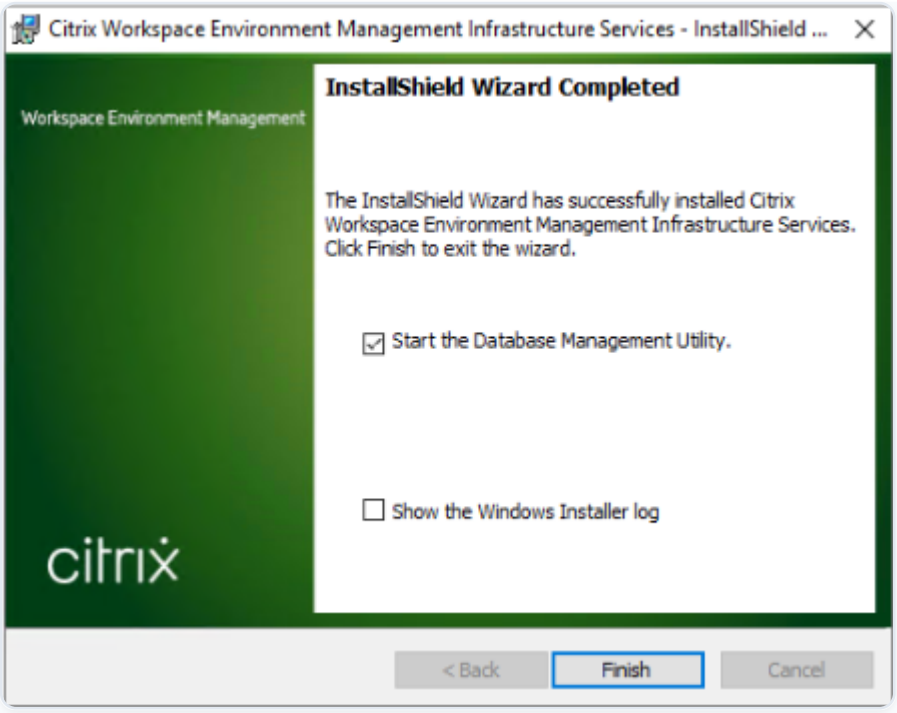


8. 「プログラムをインストールする準備ができました」ページで、**インストール**をクリックします。



9. **完了**をクリックし、手順2に進みます。

> **注:**
>
> デフォルトでは、**データベース管理ユーティリティの起動**オプションが選択されており、ユーティリティは自動的に起動します。ユーティリティは、**スタート**メニューの**Citrix** \> **Workspace Environment Management** \> **WEM Database Management Utility**からも起動できます。



手順2：WEMデータベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、「**Create Database**」をクリックして展開用のWEMデータベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

> **注:**
>
> SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、システム管理者権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。

> WEMデータベースの作成 01(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-01.png)

2. ようこそページで、「**Next**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 02(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-02.png)

3. データベース情報ページで、必要な情報を入力し、「**Next**」をクリックします。

   > **注:**
   >
   > - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
   > - ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動入力されたファイルパスが正しいことを確認してください。
   >
   > WEMデータベースの作成 03(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-03.png)

4. データベースサーバー資格情報ページで、必要な情報を入力し、「**Next**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 04(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-04.png)

5. VUEM管理者で、「**Select**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 05(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-05.png)

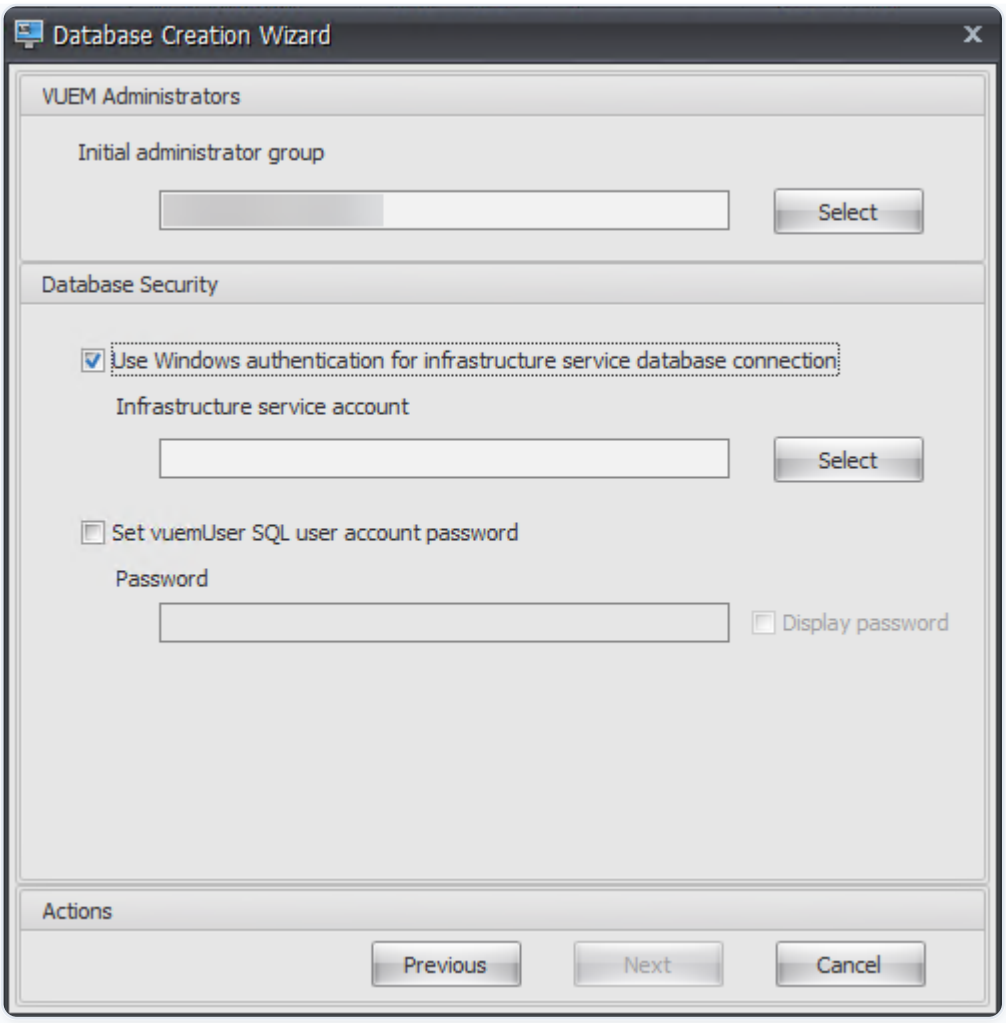
6. グループの選択ウィンドウで、管理コンソールへの管理権限を持つユーザーグループを入力し、「**Check Names**」をクリックし、「**OK**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 06(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-06.png)

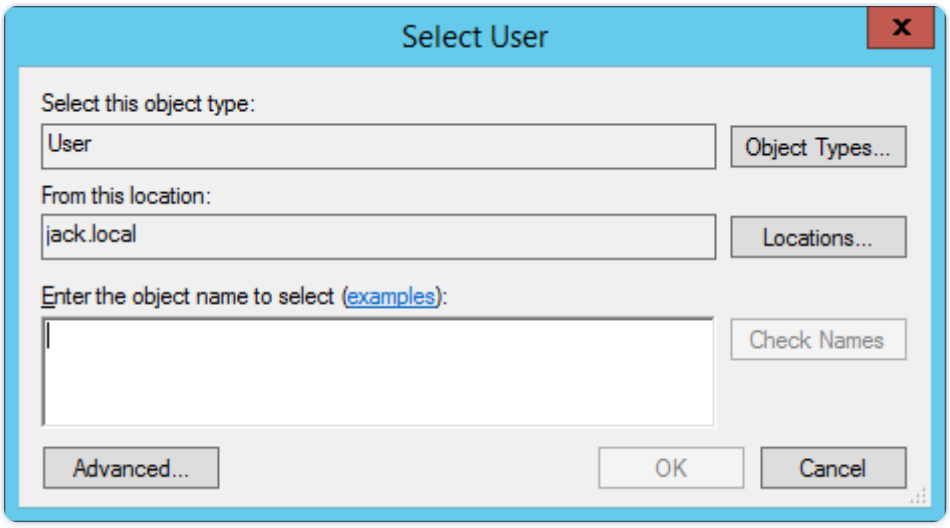
7. 「データベースセキュリティ」の下で、「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」を選択し、「**選択**」をクリックします。

   > **注:**

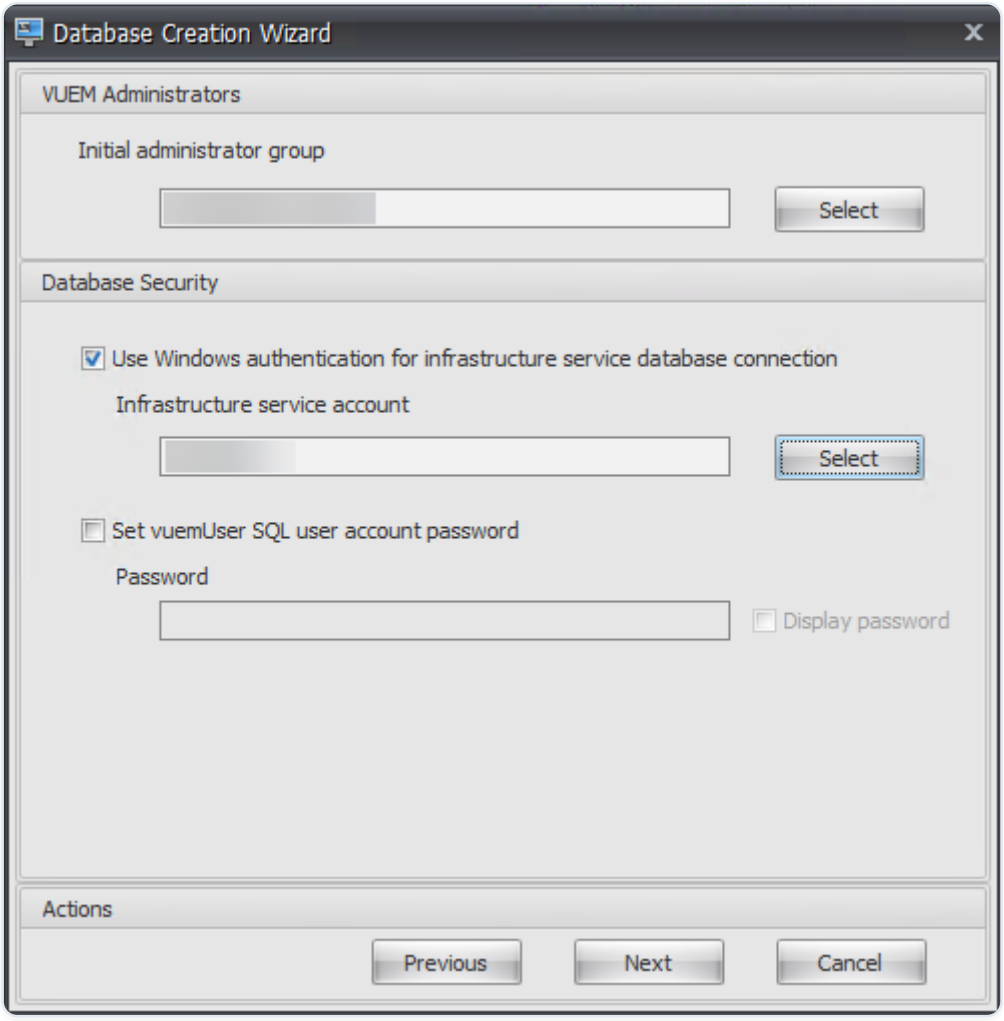
- 「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」も「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」も選択しない場合、SQLユーザーアカウントがデフォルトで使用されます。
- 独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを使用するには（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）、「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」を選択します。



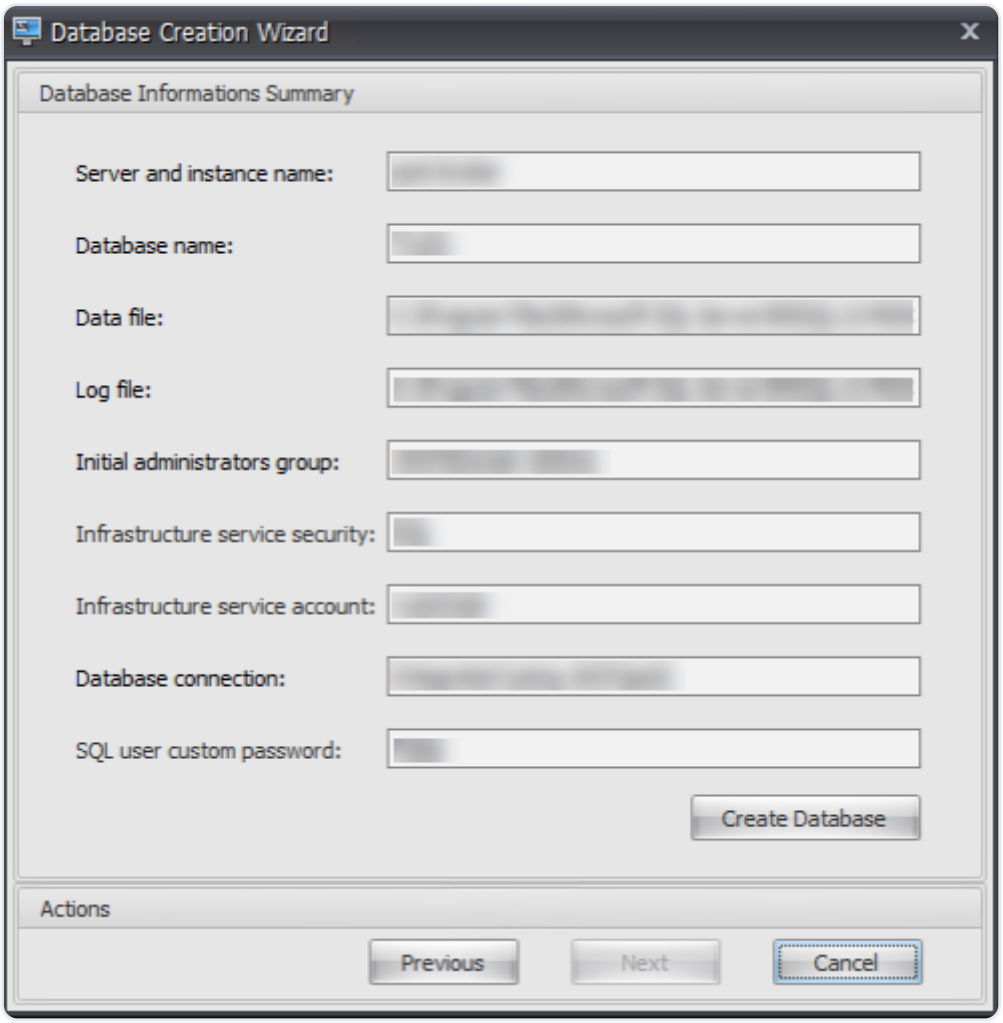
8. 「ユーザーの選択」ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックしてから「**OK**」をクリックします。



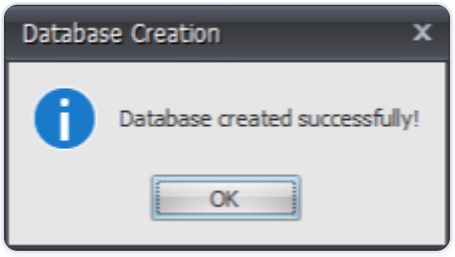
9. **次へ**をクリックします。



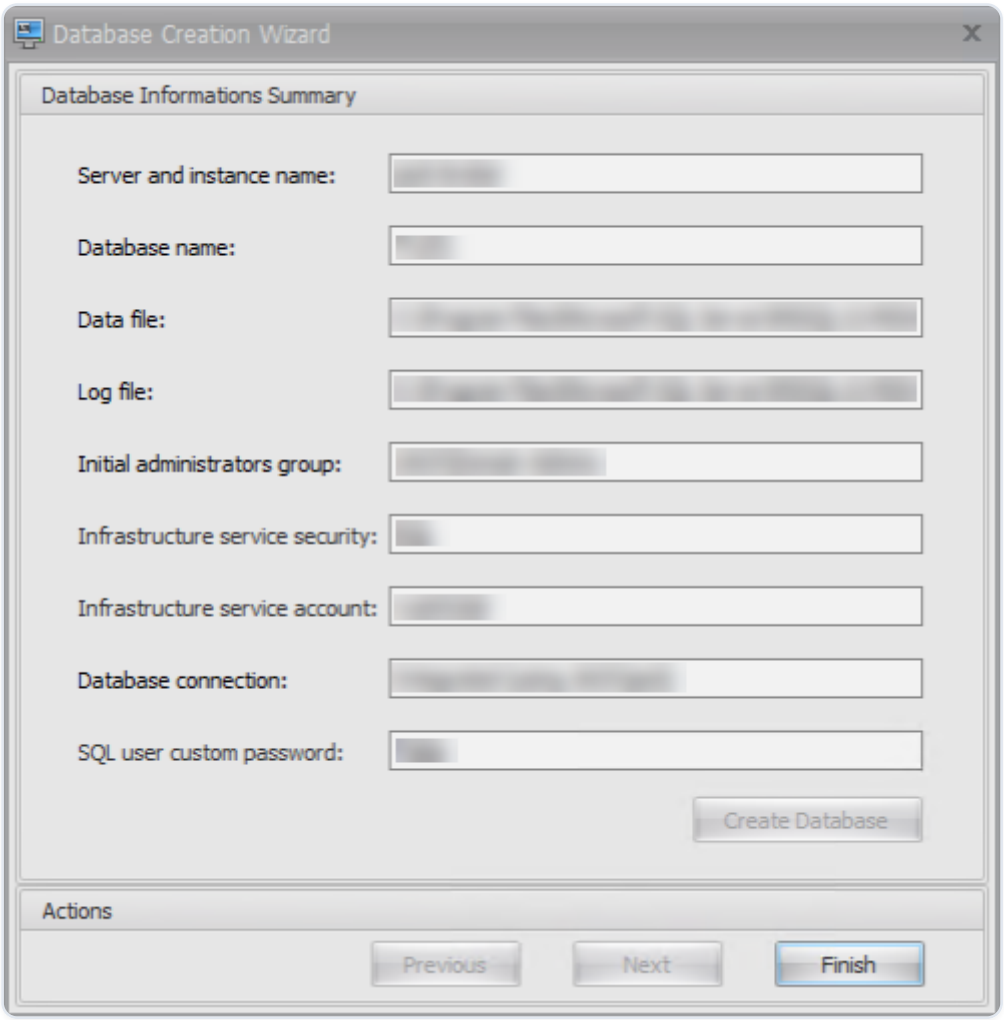
10. 「データベース情報サマリー」ページで、「**データベースの作成**」をクリックします。



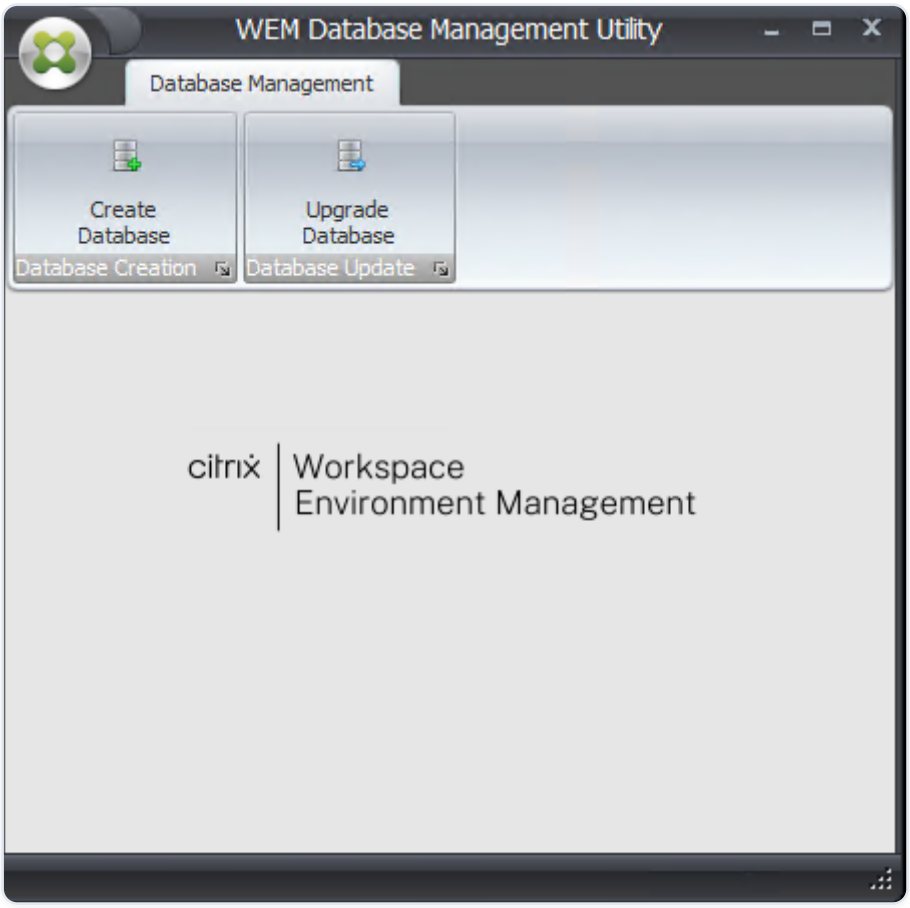
11. **OK**をクリックします。



12. 「データベース情報サマリー」ページで、「**完了**」をクリックします。



13. 「**WEMデータベース管理ユーティリティ**」を閉じます。



14. 「アプリケーションの終了」ダイアログで、「**はい**」をクリックします。

> **注:**
>
> データベース作成中にエラーが発生した場合は、詳細についてインフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

> WEMデータベースの作成 14(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-creating-a-wem-database-14.png)

ステップ3：インフラストラクチャサービスを構成する

1. **スタート**メニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
2. **データベース設定**タブで、必要な情報を入力します。

インフラストラクチャサービスの構成 01(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-01.png)

3. **詳細設定**タブで、**Windowsアカウントの偽装を有効にする**を選択し、**参照**をクリックします。

> **注:**
>
> ステップ2でのWEMデータベース作成時に行った選択に応じて、**Windowsアカウントの偽装を有効にする**または**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**を選択します。

インフラストラクチャサービスの構成 02(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-02.png)

4. ユーザー名を入力し、**名前の確認**をクリックしてから**OK**をクリックします。

インフラストラクチャサービスの構成 03(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-03.png)

5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。

インフラストラクチャサービスの構成 04(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-04.png)

6. **デバッグモードを有効にする**を選択します。

インフラストラクチャサービスの構成 05(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-05.png)

7. 「**Licensing**」タブで、「**Global license server override**」を選択し、ライセンス情報を入力して、「**Save Configuration**」をクリックします。

> **注:**
>
> - Citrix License Server名には、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - Citrix License Serverポートの場合、デフォルトポートは27000です。

インフラストラクチャサービスの構成 06(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-06.png)

8. 「**はい**」をクリックします。

   インフラストラクチャサービスの構成 07(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-infrastructure-services-07.png)

9. 「**WEM Infrastructure Service Configuration**」ユーティリティを閉じます。

ステップ4：管理コンソールのインストール

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

   WEMインストーラーフォルダー(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installer-folder.png)

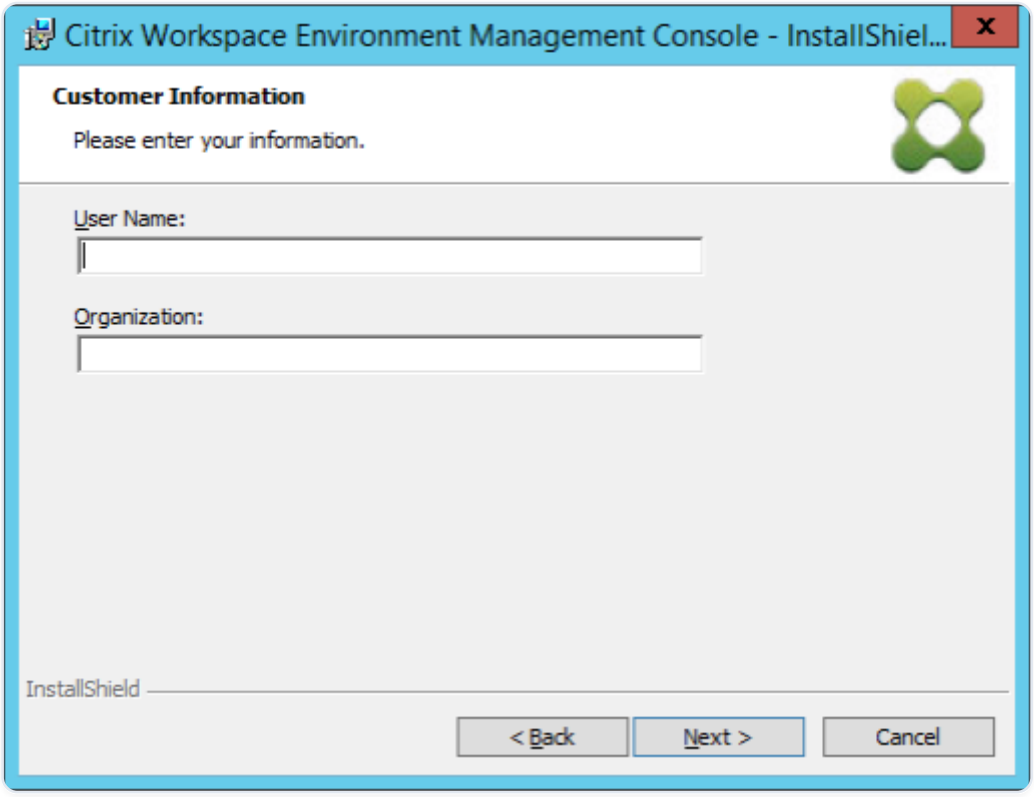
2. ようこそページで、「**次へ**」をクリックします。

   管理コンソールのインストール 01(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-administration-console-01.png)

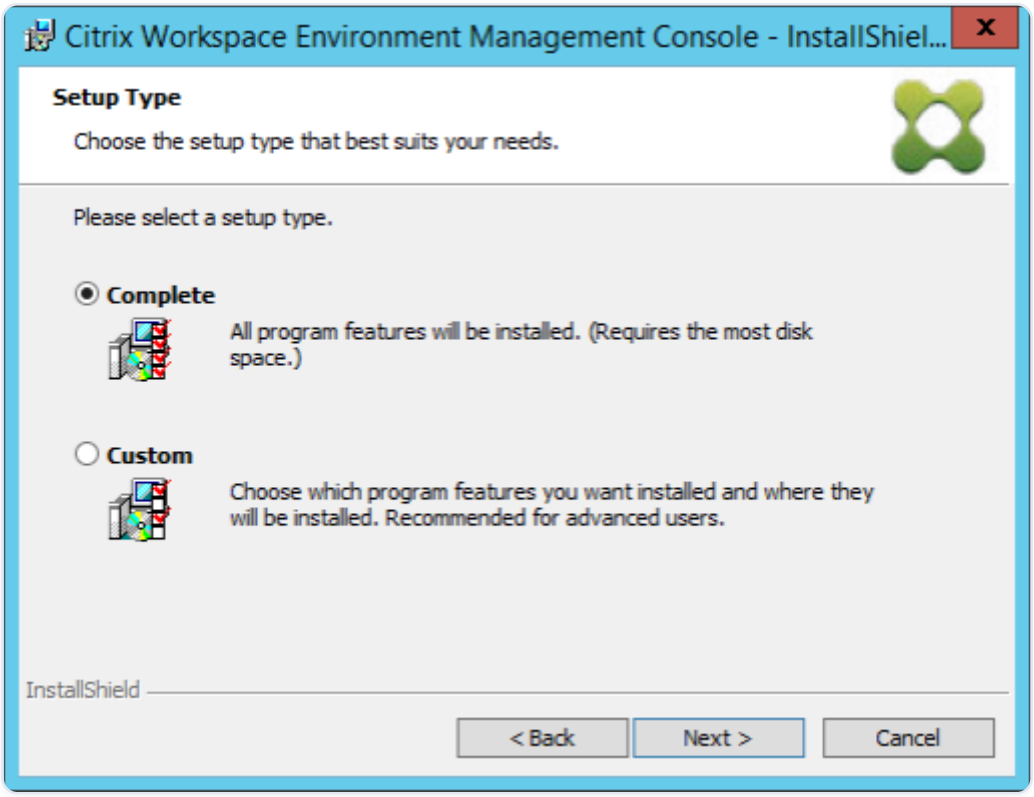
3. ライセンス契約ページで、「ライセンス契約の条項に同意します」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

   管理コンソールのインストール 02(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-administration-console-02.png)

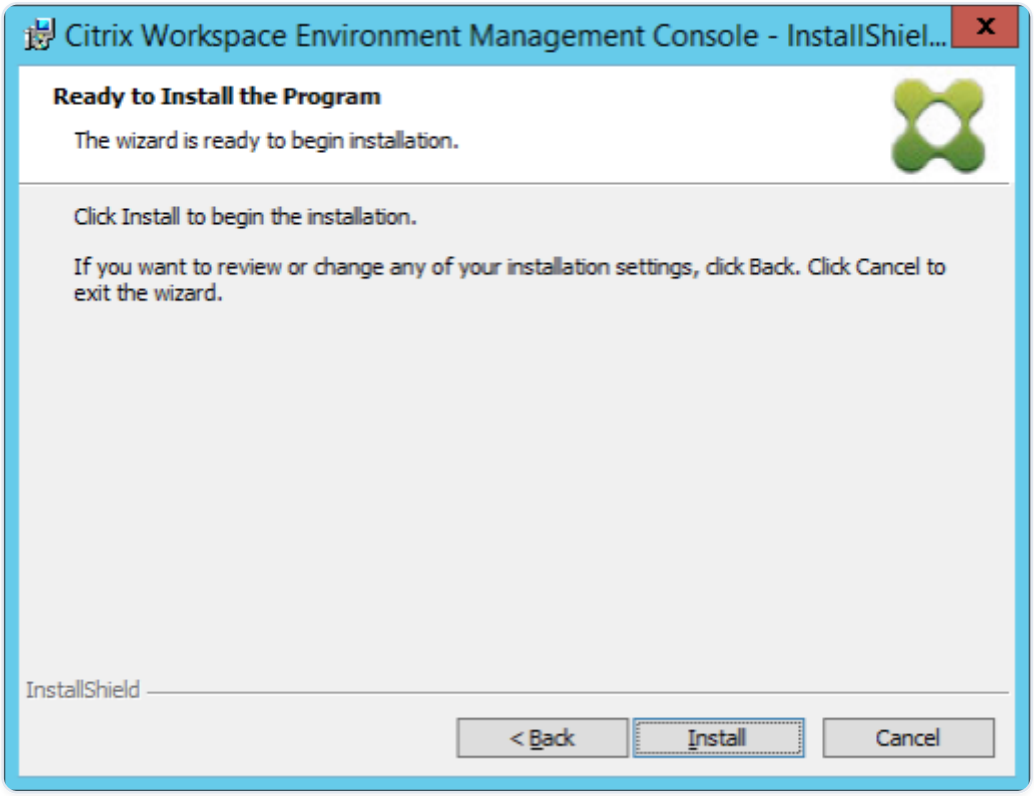
4. お客様情報ページで、必要な情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。



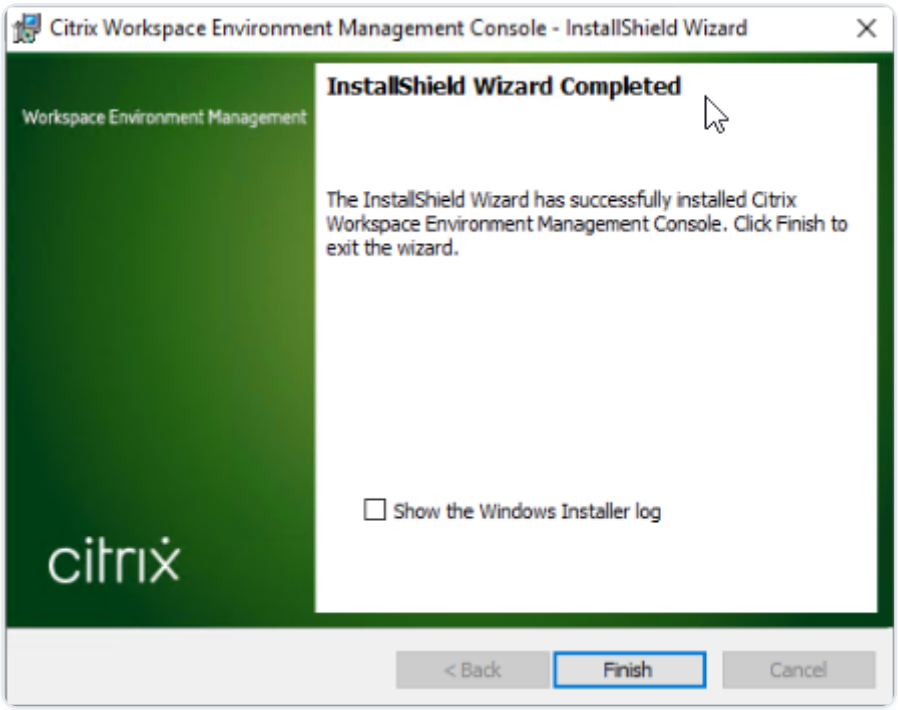
5. 「セットアップの種類」ページで、「**完了**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。



6. 「プログラムをインストールする準備ができました」ページで、「**インストール**」をクリックします。

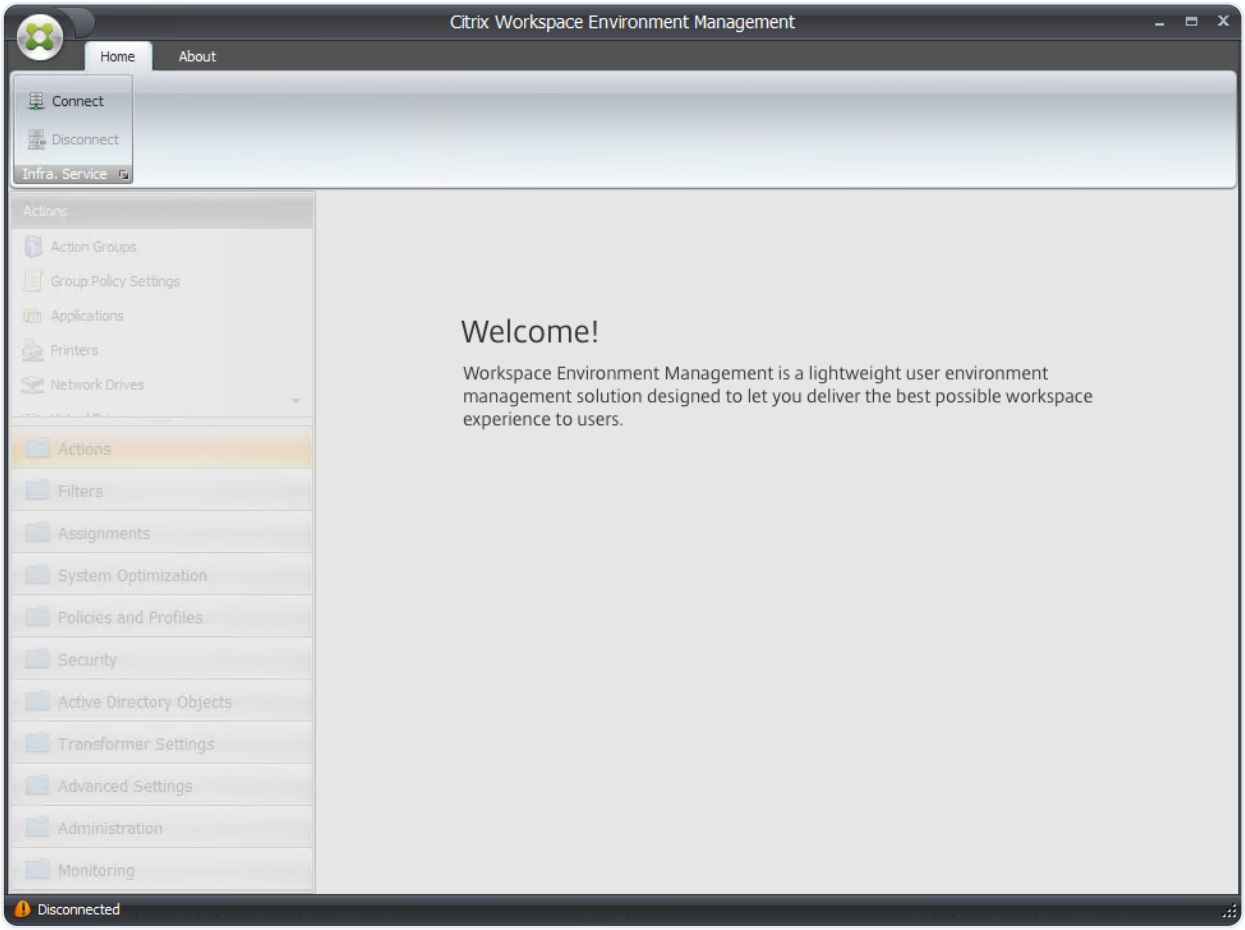


7. 「**完了**」をクリックしてウィザードを終了します。



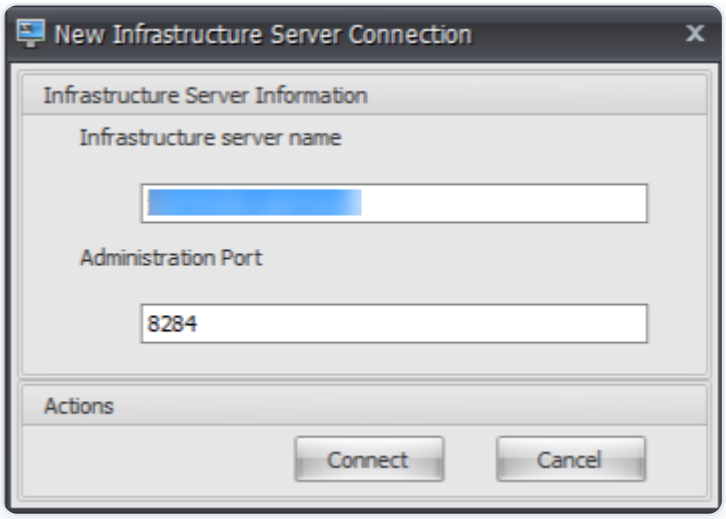
ステップ5：構成セットを構成する

1. 「**スタート**」メニューから「**WEM Administration Console**」を開き、「**接続**」をクリックします。

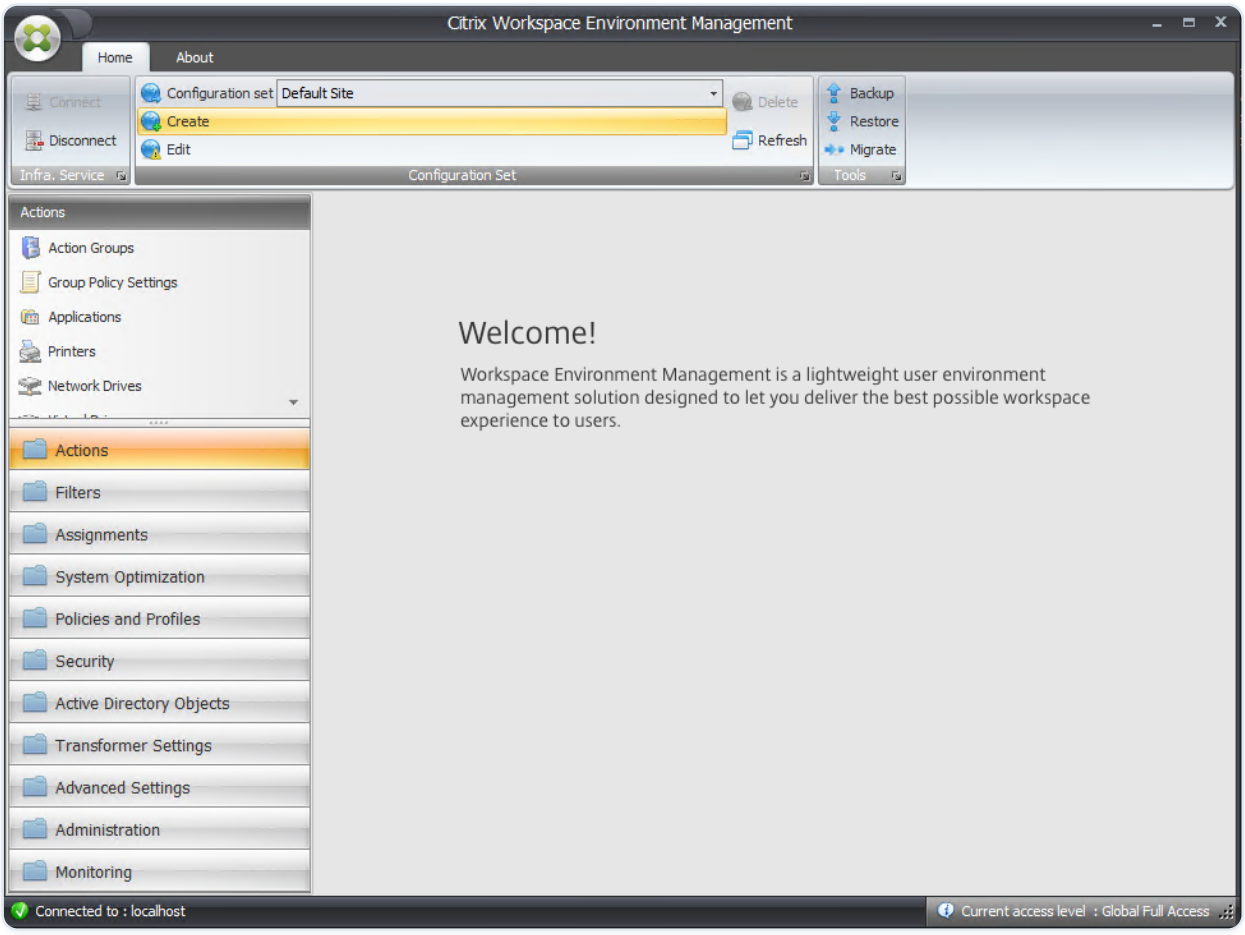


2. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで、情報を確認し、「**接続**」をクリックします。

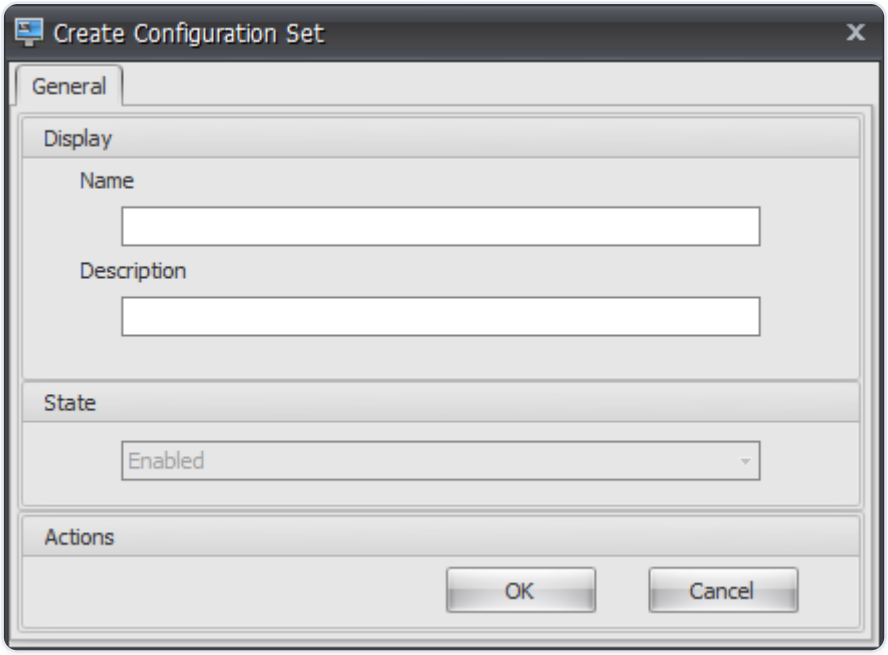
> **注:**
>
> - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - 管理ポートには、デフォルトポートの8284を使用します。



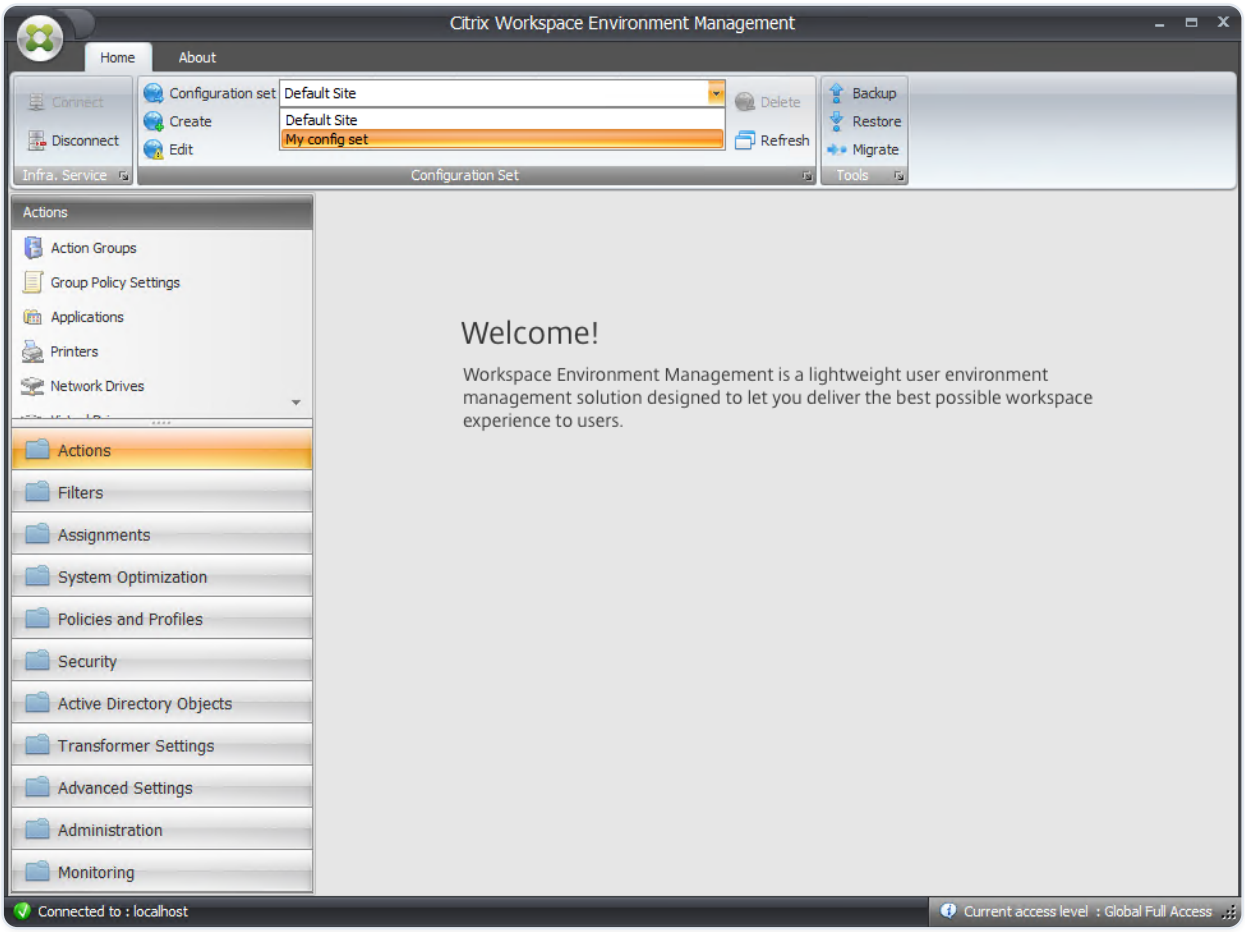
3. 「**ホーム**」タブのリボンで、「**作成**」をクリックして構成セットを作成します。



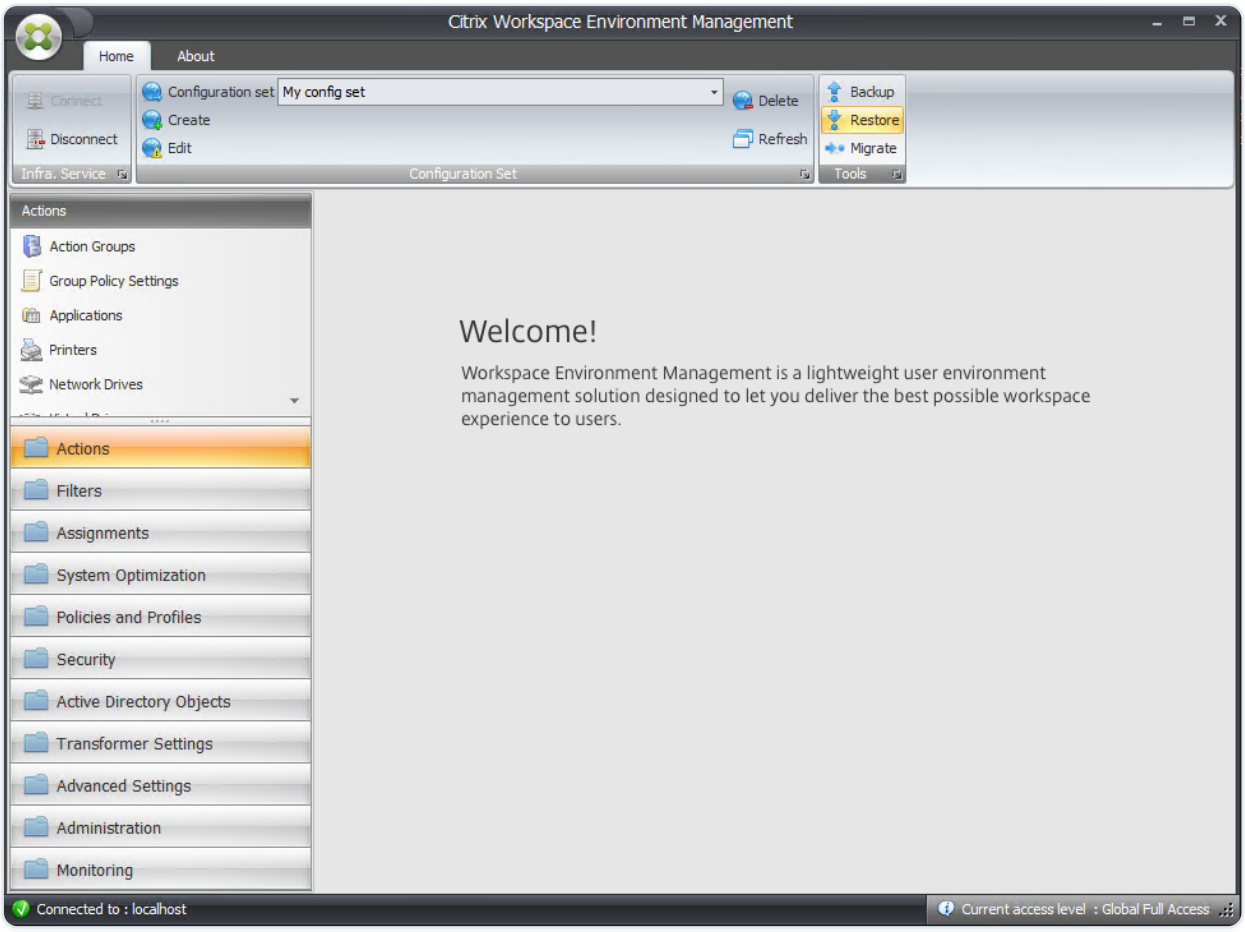
4. 「構成セットの作成」ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、**OK**をクリックします。



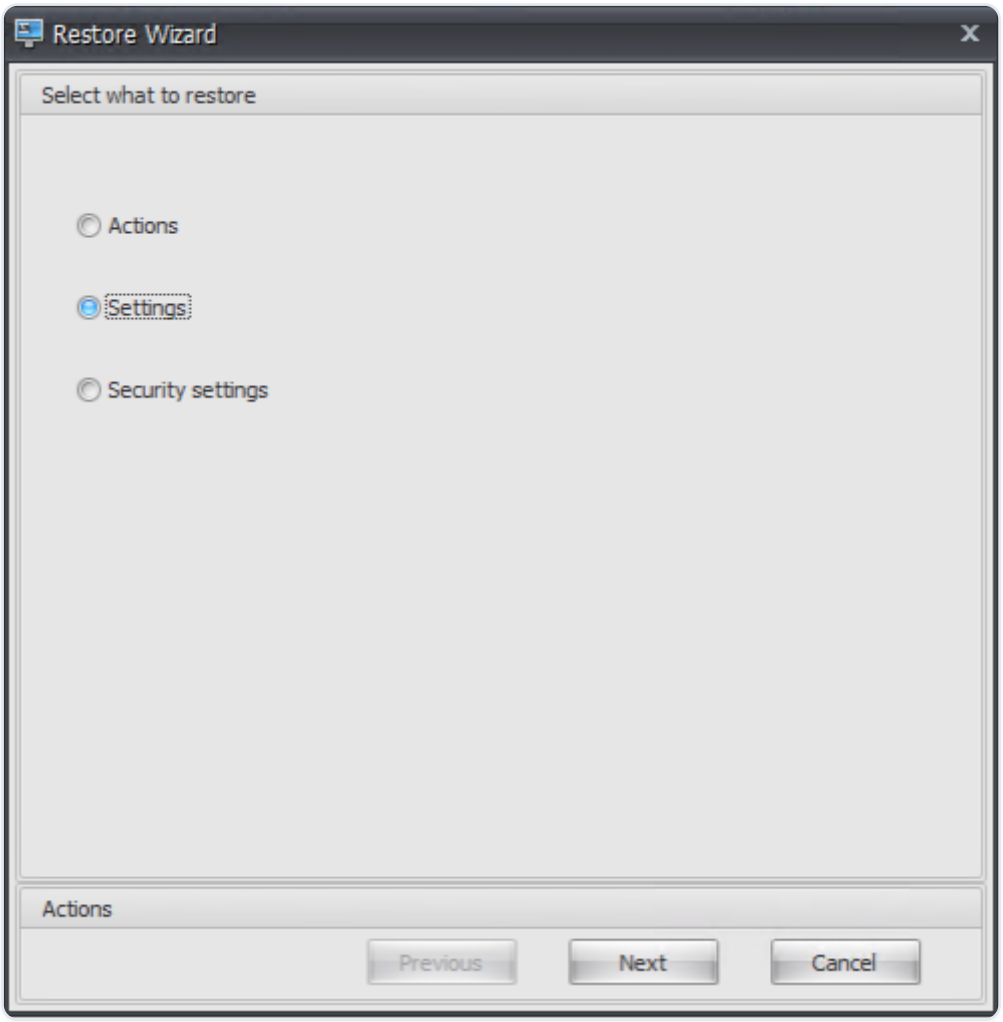
5. リボンの**構成セット**で、新しく作成した構成セットを選択します。



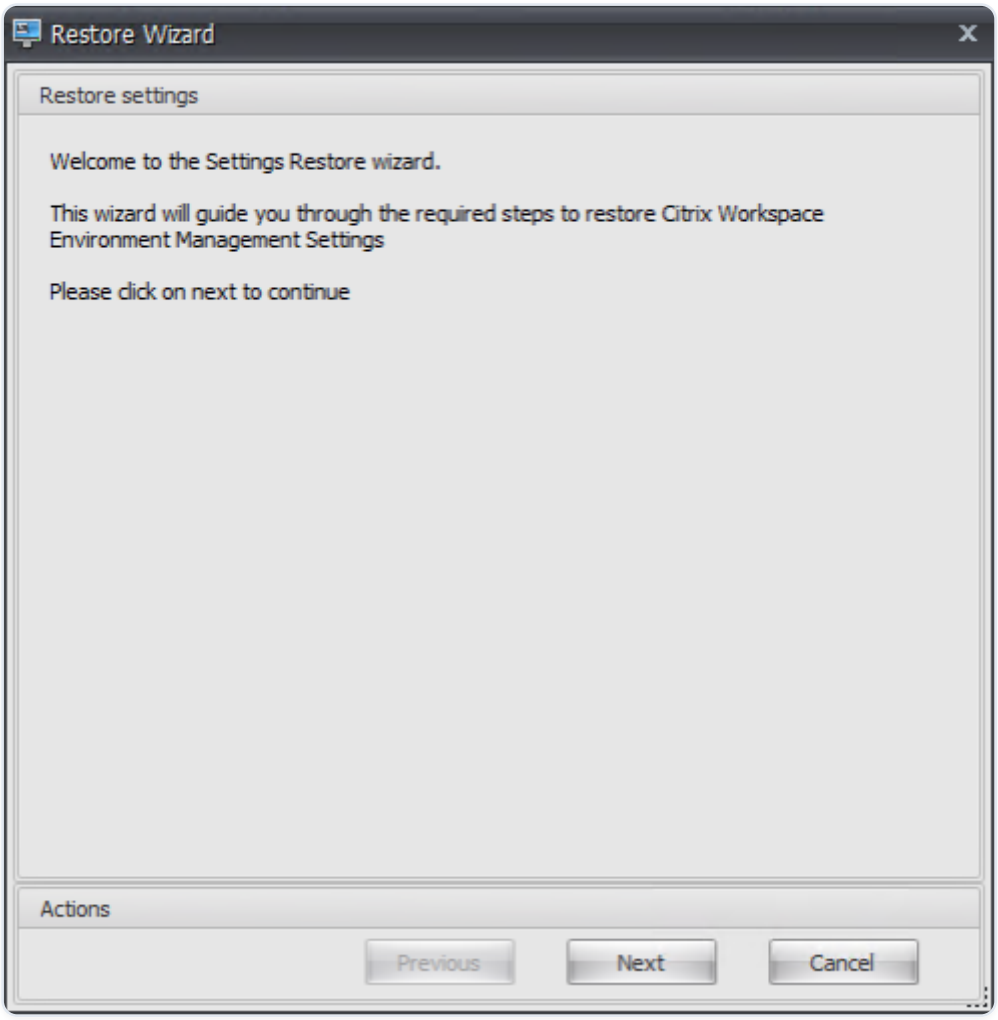
6. リボンの**バックアップ**で、**復元**をクリックします。「復元」ウィザードが表示されます。



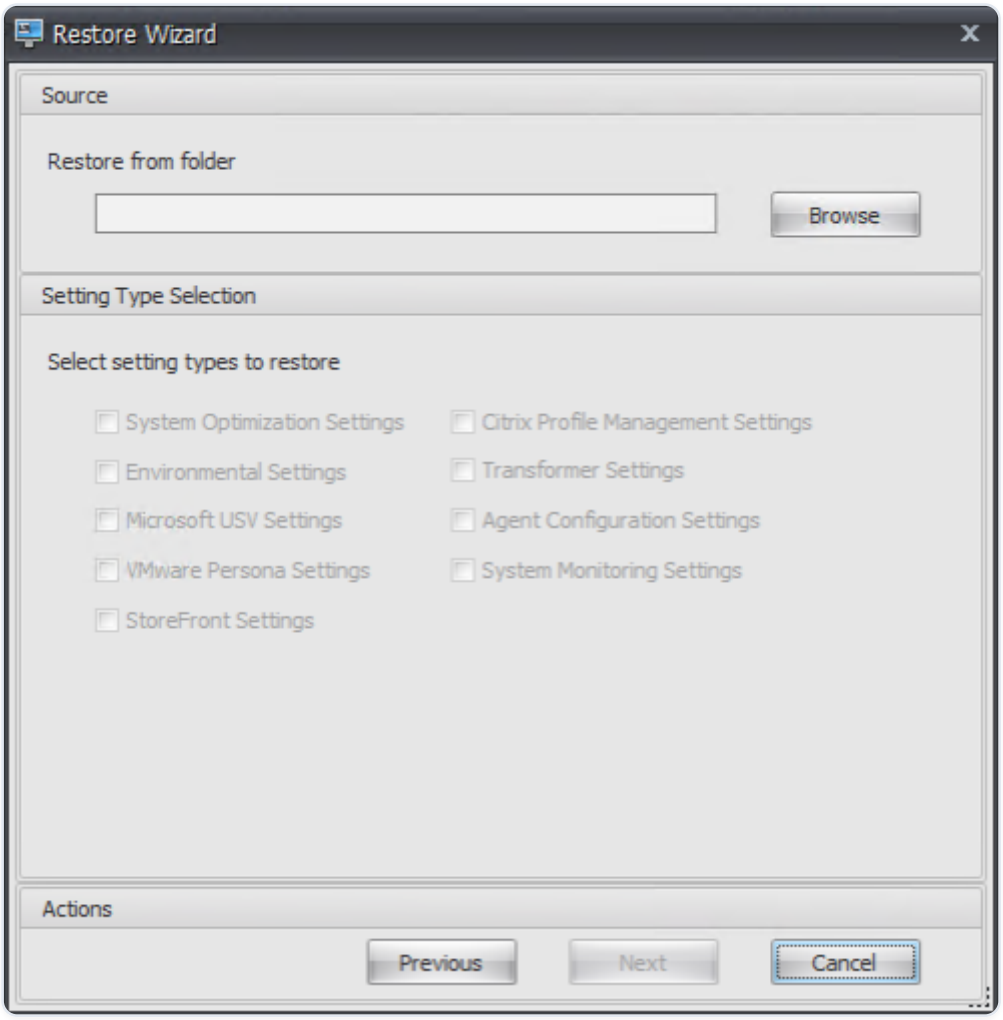
7. 「復元する項目の選択」ページで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。



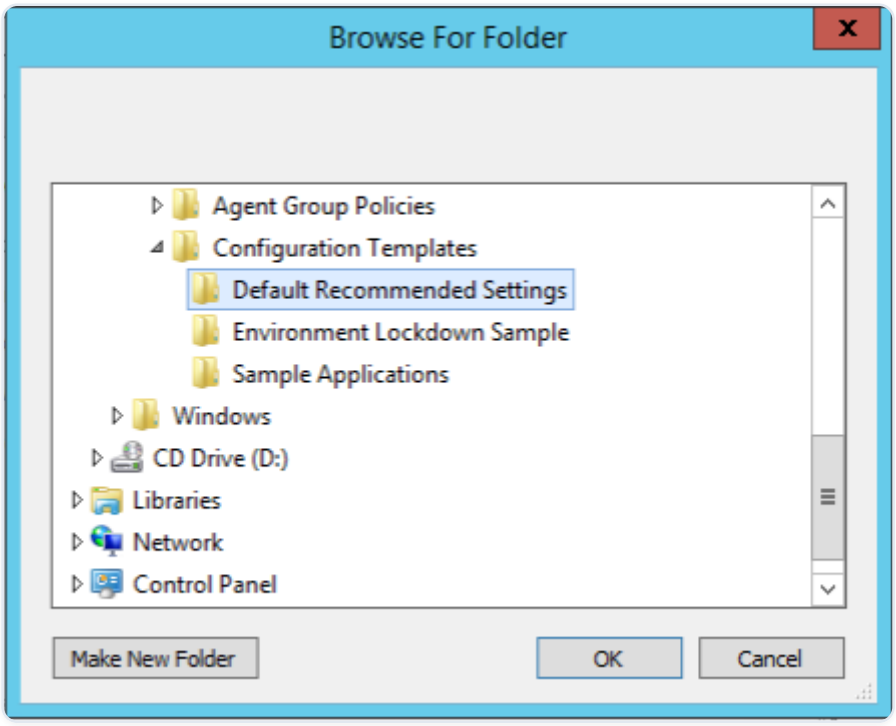
8. 「設定の復元」ページで、**次へ**をクリックします。



9. 「ソース」ページで、**参照**をクリックします。



10. 「フォルダーの参照」ウィンドウで、**Default Recommended Settings**フォルダー（Workspace Environment Managementに付属）を参照し、**OK**をクリックします。



11. 「ソース」ページで、「**システム最適化設定**」、「**エージェント構成設定**」、「**システム監視設定**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

    構成セットの構成 11(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-configuration-sets-11.png)

12. 「設定の復元処理」ページで、「設定の復元」の下にある「**設定の復元**」をクリックします。

    構成セットの構成 12(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-configuration-sets-12.png)

13. 「**はい**」をクリックします。

    構成セットの構成 13(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-configuration-sets-13.png)

14. 「**完了**」をクリックします。

    構成セットの構成 14(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-configuring-configuration-sets-14.png)

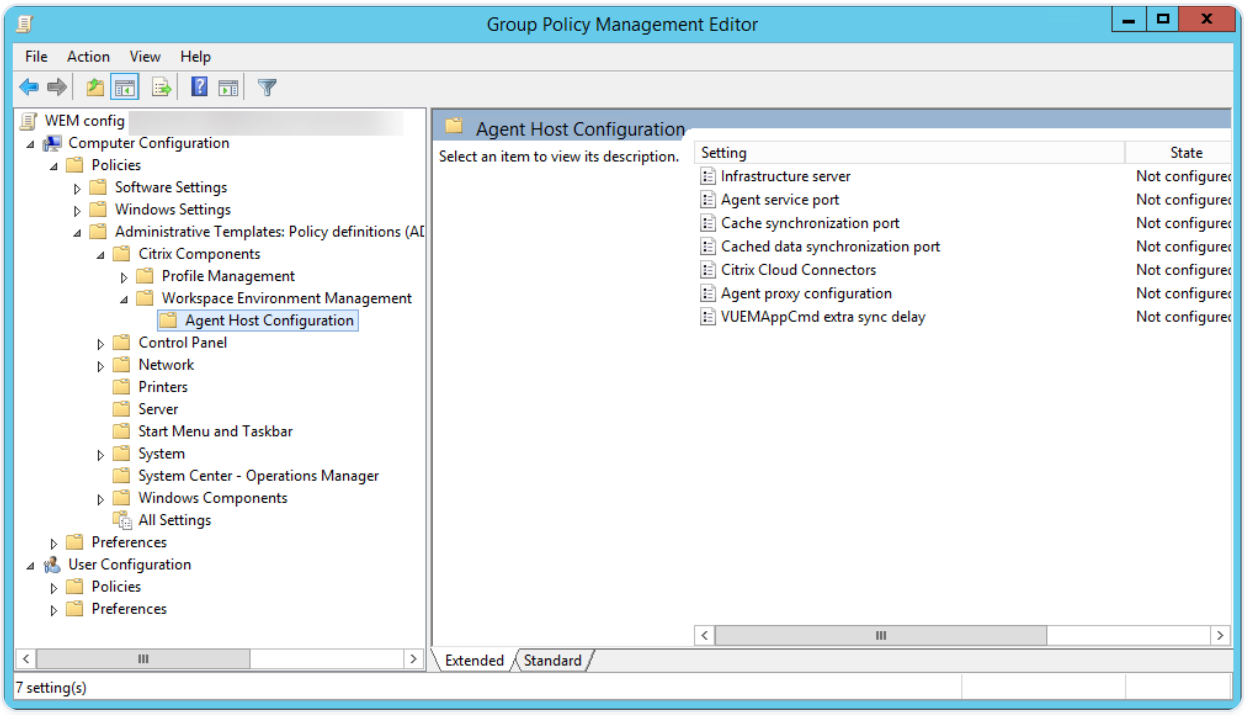
手順 6：グループポリシーテンプレートを追加する（オプション）

必要に応じて、グループポリシーを構成できます。WEMエージェントパッケージに含まれる**エージェントグループポリシー**管理用テンプレートは、エージェントホスト構成ポリシーを追加します。

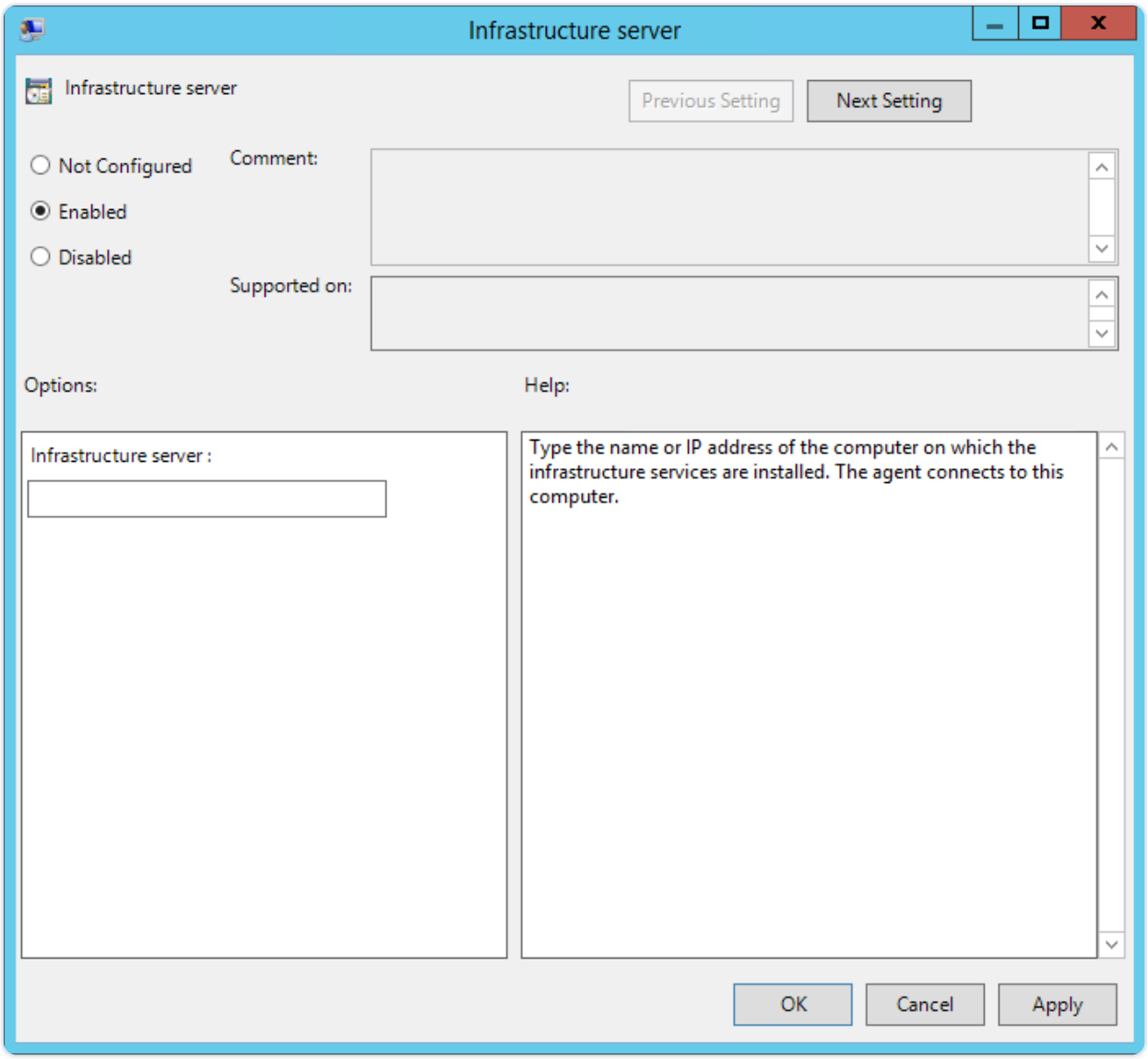
1. WEMインストールパッケージに含まれる**エージェントグループポリシー**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. A**gent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx* および *CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
    a. 「**Agent Group Policies > ADMX > en-US**」フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admlとCitrixBase.adml*）をコピーします。

c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

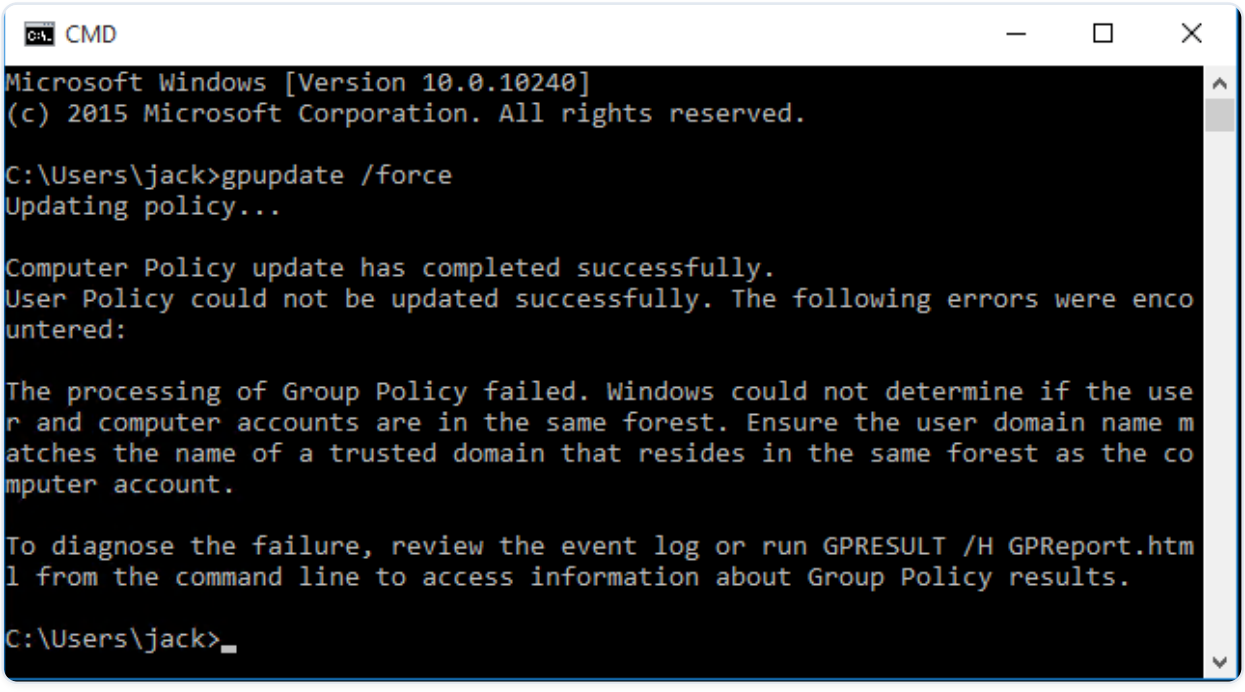
4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、「**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > Workspace Environment Management > エージェントホスト構成**」に移動し、「**インフラストラクチャサーバー**」をダブルクリックします。



5. インフラストラクチャサーバーウィンドウで、**有効**を選択し、オプションの下で、インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターのIPアドレスを入力し、**適用**と**OK**をクリックします。



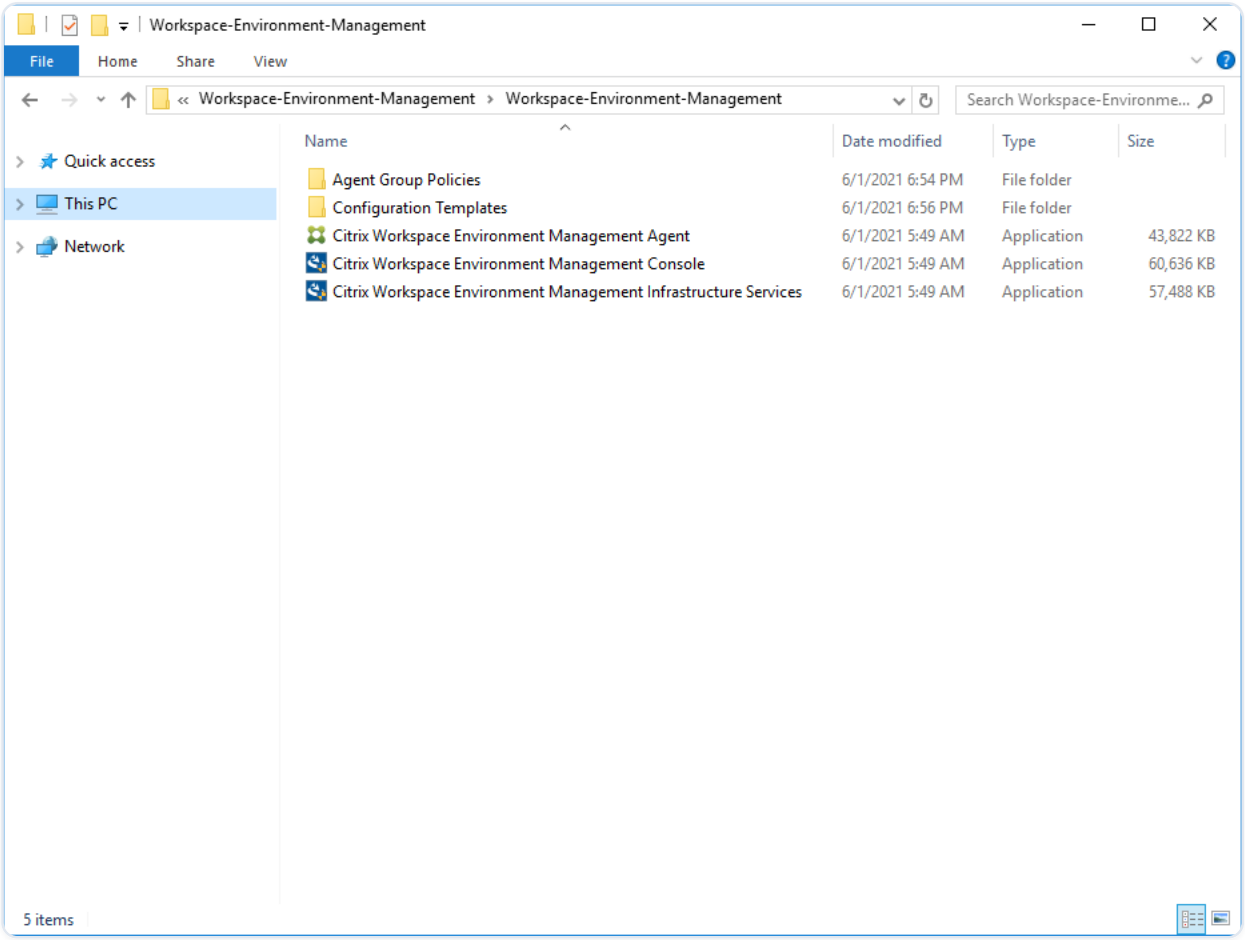
6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開いて`gpupdate /force`と入力します。



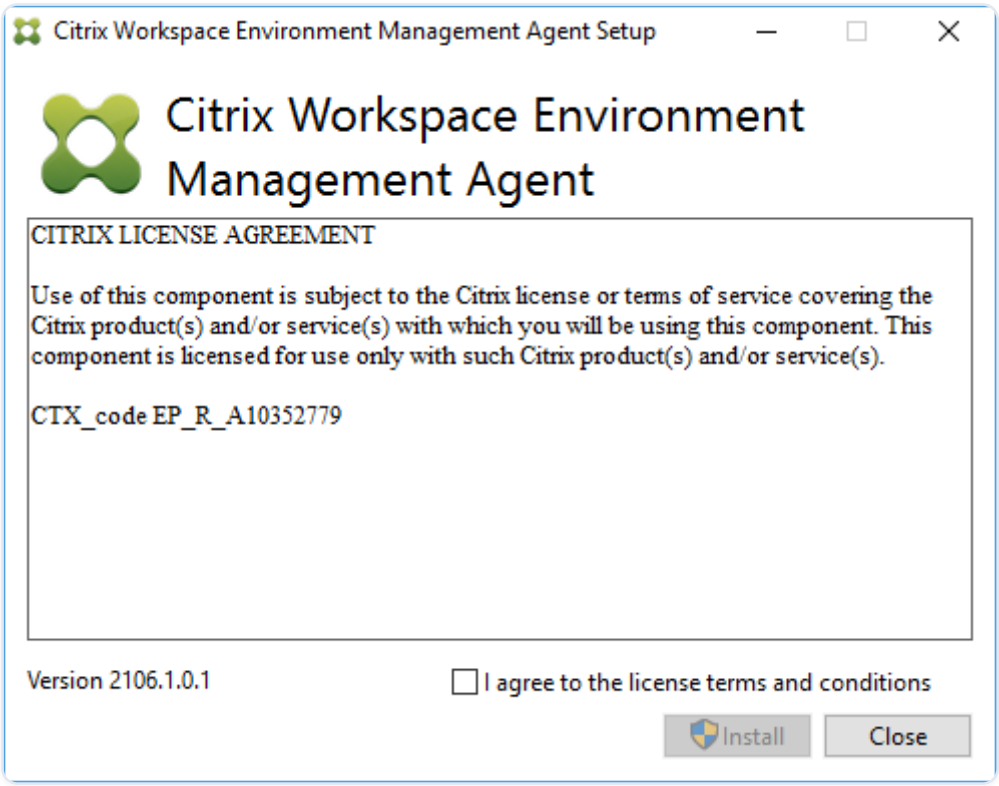
ステップ7：エージェントをインストールする

> **重要：**
>
> インフラストラクチャサーバーにWEMエージェントをインストールしないでください。

1. お使いのマシンで**Citrix Workspace Environment Management Agent.exe**を実行します。



2. **ライセンス条項と条件に同意します**を選択し、**インストール**をクリックします。



3. 「ようこそ」ページで、「**次へ**」をクリックします。

   エージェントのインストール 02(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-agent-02.png)

4. 「インストール先のフォルダー」ページで、「**次へ**」をクリックします。

   エージェントのインストール 03(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-agent-03.png)

5. 「展開の種類」ページで、該当する展開の種類を選択し、「**次へ**」をクリックします。この場合は、「**オンプレミス展開**」を選択します。

   エージェントのインストール 04(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-agent-04.png)

6. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、「**インフラストラクチャサービスを構成する**」を選択し、インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、「**次へ**」をクリックします。

   > **注:**
   >
   > エージェントサービスポートのデフォルトポートは8286です。キャッシュされたデータ同期ポートのデフォルトポートは8288です。詳細については、「ポート情報」(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/reference/ports.html)を参照してください。

> エージェントのインストール 05(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-agent-05.png)

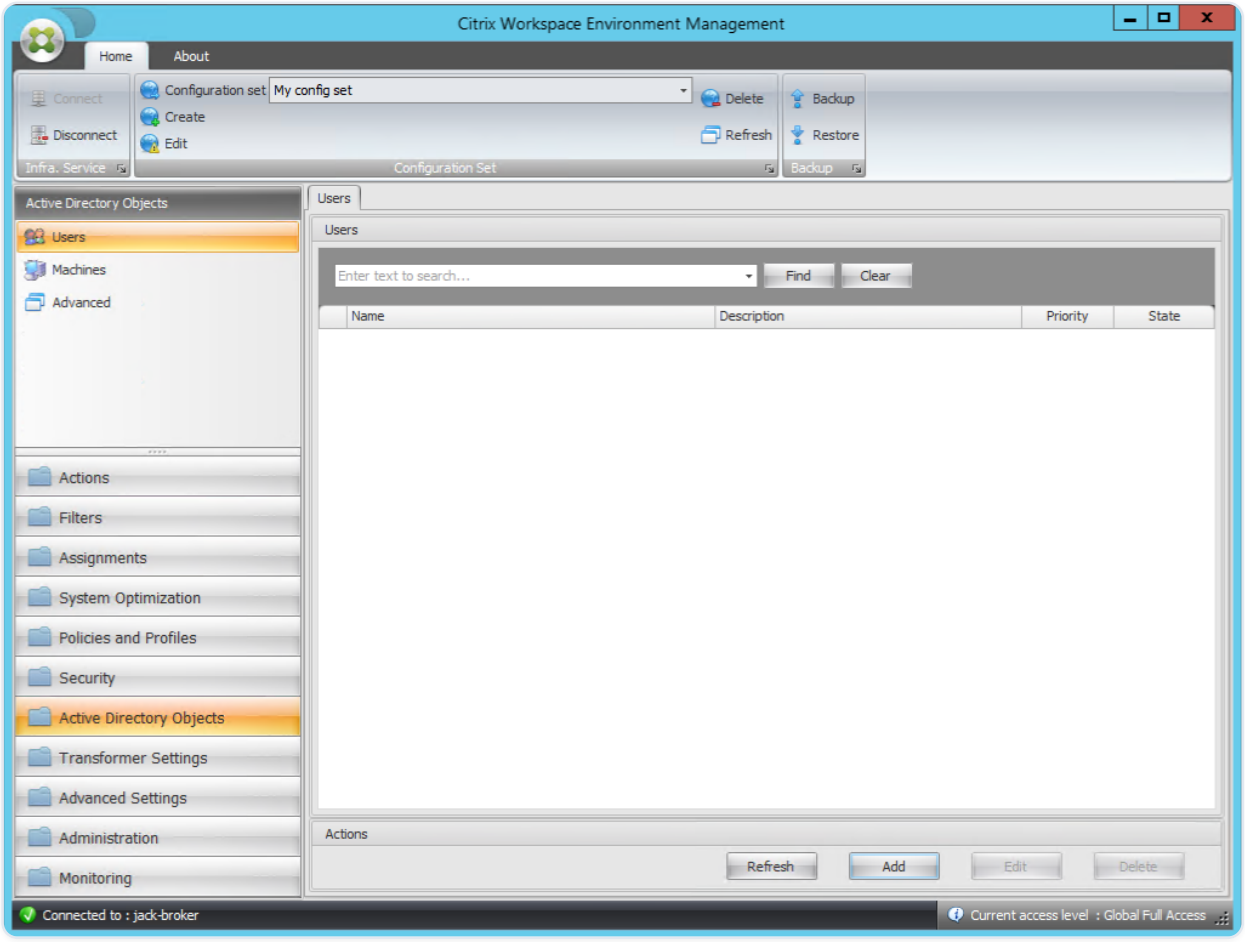
7. 「詳細設定」ページで、「**次へ**」をクリックします。

   エージェントのインストール 06(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-installing-the-agent-06.png)

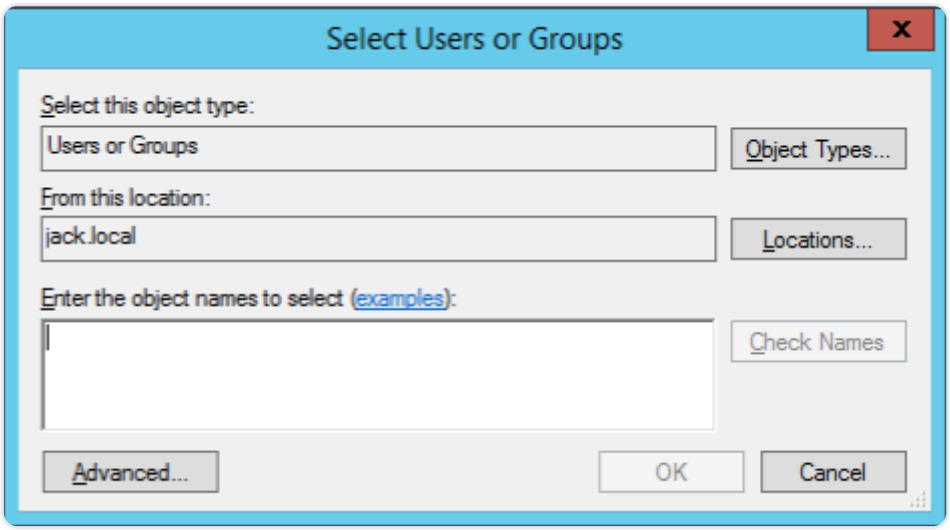
8. 「インストールの準備完了」ページで、「**インストール**」をクリックします。
9. 「**完了**」をクリックして、インストールウィザードを終了します。

手順8：作成した構成セットにエージェントを追加する

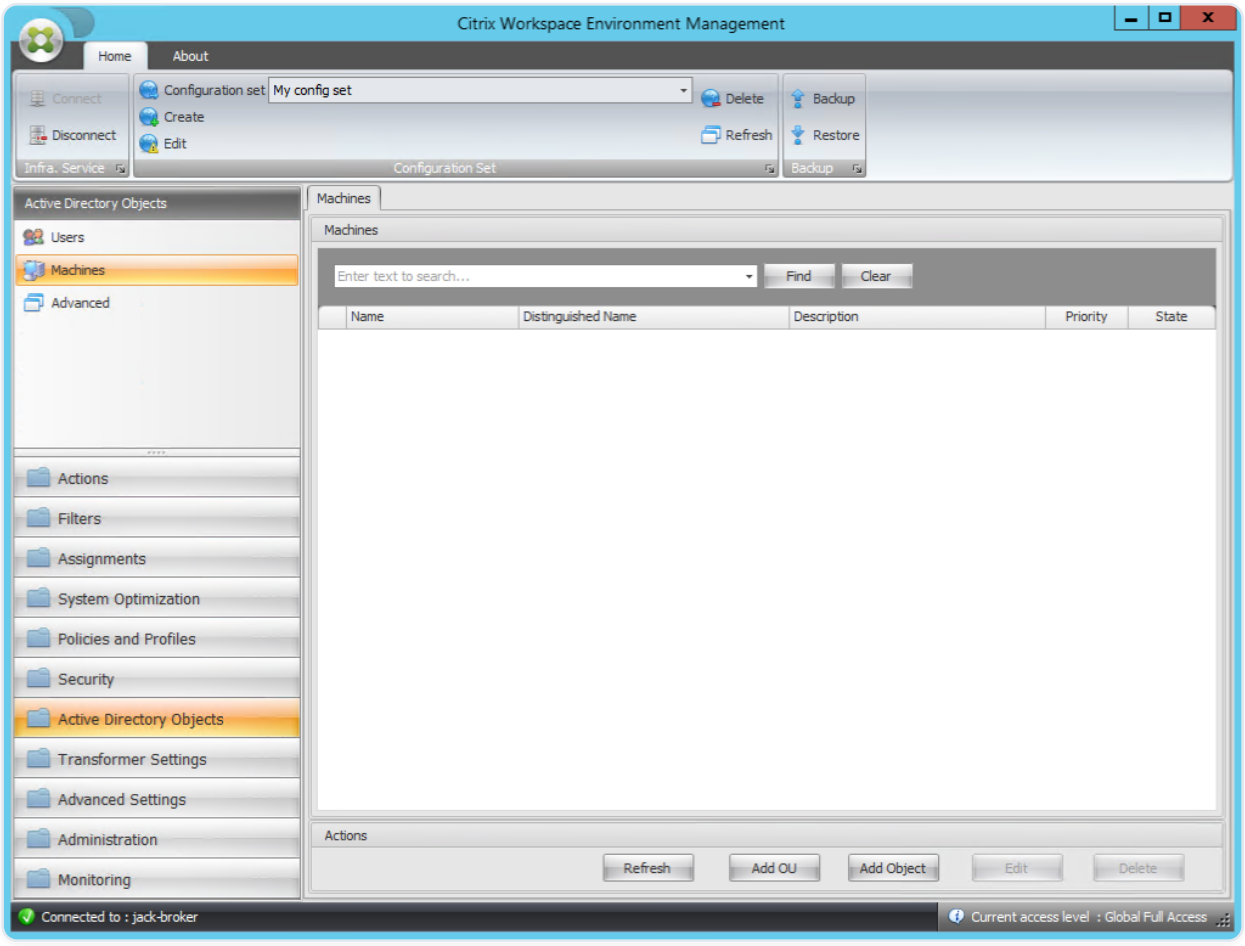
1. **スタート**メニューから「**WEM Administration Console**」を開き、「**Active Directory Objects**」をクリックして、「**追加**」をクリックします。



2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで、名前を入力し、**「名前の確認」をクリックし、次に「OK」**をクリックします。



3. **「マシン」**をクリックします。



4. **「マシン」**タブで、**「OUの追加」**または**「オブジェクトの追加」**をクリックして、管理するマシンを作成した構成セットに追加します。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management™ エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015-2019 Redistributableはエージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft SQL Server 2012以降。Workspace Environment Managementは、データベースを作成するためにSQL Serverインスタンスへの**sysadmin**アクセスを、データベースを使用するためにデータベースへの**読み取り/書き込み**アクセスを必要とします。データベースの作成中に、Workspace Environment ManagementはSQLログインを作成し、そのログインにデータベースユーザーマッピングを追加します。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセスが*自動的に*付与されます。SQL Serverインスタンスは、大文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。そうしないと、データベースの作成またはアップグレードが失敗します。

> **注:**
>
> アップグレードの場合、**sysadmin**サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

> **Microsoft Active Directory**。Workspace Environment Managementは、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directoryへの**読み取りアクセス**を必要とします。

> **注:**

- *外部信頼*関係は、フォレスト内のすべてのActive Directoryオブジェクトのコピーを保存するWEMのグローバルカタログではサポートされていません。代わりに、*フォレスト信頼*関係などの他の関係タイプを使用する必要があります。
- WEMは、フォレスト間の片方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix License Server 11.14。Workspace Environment ManagementにはCitrixライセンスが必要です。Citrixライセンスは、Citrix License Serverで管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops。Workspace Environment Managementのこのリリースには、Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktopsのサポートされているバージョンが必要です。

Citrix Workspace™ アプリ for Windows。Workspace Environment Management 管理コンソールから構成されたCitrix StoreFront™ストアリソースに接続するには、Citrix Workspace アプリ for Windowsが管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールされている必要があります。以下のバージョンがサポートされています。

- 管理コンソールマシン上：
  - Citrix Receiver for Windowsバージョン：4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および4.12
  - Citrix Workspace アプリ 1808 for Windows以降
- エージェントホストマシン上：
  - Citrix Receiver for Windows バージョン: 4.4 LTSR CU5、4.7、4.9、4.9 LTSR CU1、および 4.10
  - Citrix Workspace app 1808 ウィンドウズ用 以降

Transformerキオスク対応マシンでは、Citrix Workspace app for Windows をシングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspace app のドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

注:

Workspace Environment Management および関連コンポーネントは、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

注:

異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバープール（インフラストラクチャサーバー）で Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスを実行することがサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同一のインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

エージェント

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11 (32ビットおよび64ビット)
- Windows 10 バージョン 1607 以降 (32ビットおよび64ビット)
- Windows 8.1 Professional および Enterprise エディション (32ビットおよび64ビット)

- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、および Ultimate エディション (32ビットおよび64ビット)
- Windows Server 2022 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2019 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2016 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 R2 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2008 R2 SP1 スタンダード、エンタープライズ、および データセンター エディション*

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4では、Windows XPがサポートされていました。

> **注:**
>
> マルチセッションオペレーティングシステムで実行されているCitrix Workspace Environment Managementエージェントは、MicrosoftのDynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、正しく動作できません。DFSSを無効にする方法については、CTX127135を参照してください。

SQLサーバー オールウェイズオン

Workspace Environment Managementは、Microsoft SQL Serverに基づくデータベースの高可用性のため、Always On可用性グループ（BasicおよびAdvanced）をサポートしています。Citrix®は、Microsoft SQL Server 2017を使用してこれをテストしました。

Always On可用性グループを使用すると、プライマリSQL Serverのハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合にデータベースが自動的にフェールオーバーするため、Workspace Environment Managementが期待どおりに動作し続けることが保証されます。Always On可用性グループ機能では、SQL ServerインスタンスがWindows Serverフェールオーバークラスター（WSFC）ノードに存在する必要があります。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>`を参照してください。

Always On可用性グループでWorkspace Environment Management (WEM) を使用するには：

1. **WEM Database Management Utility**を開き、WEMデータベースを作成します。
   - **Set vuemUser SQL user account password**オプションを選択し、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを入力していることを確認してください。このパスワードは、データベースを可用性グループに追加する際に指定する必要があります。
   - 「サーバーとインスタンス名」には、プライマリSQL Serverの名前を入力します。

   > **注:**
   >
   > WEMデータベースはプライマリSQL Server上に作成されます。

2. プライマリSQL Serverに移動し、作成したWEMデータベースをバックアップします。
   - **可用性グループへのデータベースの追加 > データベースの選択**ページでWEMデータベースを選択するには、パスワード（手順1で作成したパスワード）を入力する必要があります。これを行うには、パスワード列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力して、**更新**をクリックします。
   - データベースバックアップの回復モデルとして**完全**を選択します。
3. SQL Serverで、WEMデータベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。
4. WEMインフラストラクチャサービスマシンに移動し、**WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを開きます。
   - **データベースサーバーとインスタンス**。可用性グループリスナーの名前を入力します。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。空白のままにします。
   - **データベース名**。データベースの名前を入力します。

ハードウェア要件

インフラストラクチャサービス: 4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の空きディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズに関する考慮事項については、「展開の規模とサイズに関する考慮事項」を参照してください。

管理コンソール: 最小デュアルコアプロセッサ、2 GB RAM、40 MB の空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

エージェント: 平均RAM消費量は10 MBですが、安全のため20 MBを確保することをお勧めします。40 MB の空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

データベース: Workspace Environment Management データベース用に最低75 MB の空きディスク容量。

サービス依存関係

Netlogon。エージェントサービス（「Norskale Agent Host service」）は、ログオンが行われる前にエージェントサービスが実行されていることを確認するために、Net Logon Dependenciesリストに追加されます。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Management エージェントとインフラストラクチャサービスは以下のフォルダーにインストールされます。

- エージェント
  - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64ビットOSの場合)
  - `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32ビットOSの場合)
- インフラストラクチャサービス
  - `C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`

エージェントの「Citrix」インストールフォルダー全体、およびインフラストラクチャサービスの「Norskale」インストールフォルダー全体に対して、オンアクセススキャンを無効にする必要があります。これが不可能な場合は、次のプロセスをオンアクセススキャンから除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダー内

- ノースケール ブローカー サービス.exe
- ノースケール ブローカー サービス コンフィギュレーション ユーティリティ.exe
- ノースケール データベース マネジメント ユーティリティ.exe

エージェントのインストールフォルダー内

- エージェント ログ パーサー.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

以下のコンポーネントをインストールして構成します。

- インフラストラクチャサービス(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/install-and-configure/infrastructure-services.html)
- 管理コンソール(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/install-and-configure/admin-console.html)
- エージェント(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/install-and-configure/agent-host.html)

インフラストラクチャサービス

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります。**Norskale Infrastructure Service** (NT SERVICE\\Norskale Infrastructure Service) です。これはWorkspace Environment Management (WEM) インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント: LocalSystem、またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバー上の管理者ユーザーグループに属する指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスをインストールする

重要：

- インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。
- Delivery Controller™がインストールされているサーバーには、インフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

使用状況データ収集に関する通知:

- デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは毎晩WEMの使用状況に関する匿名の分析データを収集し、HTTPS経由でGoogle Analyticsサーバーに即座に送信します。分析データの収集は、Citrixプライバシーポリシーに準拠しています。
- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集はデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、WEM Infrastructure Service Configurationダイアログの**Advanced Settings**タブで、**Do not help improve Workspace Environment Management™ using Google Analytics**オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。「Complete」セットアップオプションでは、PowerShell SDKモジュールがデフォルトでインストールされます。「Custom」セットアップオプションを使用して、SDKのインストールを防止したり、インストールフォルダーを変更したりできます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`。デフォルトでは、PowerShell SDKモジュールは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services\SDK`。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

AgentPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトが実行されます。AgentPort引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは8286です。任意の有効なポートが受け入れられます。

AgentSyncPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトが実行されます。AgentSyncPort引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは8285です。任意の有効なポートが受け入れられます。

AdminPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトが実行されます。AdminPort引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは8284です。任意の有効なポートが受け入れられます。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

`"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services Setup.exe" /v"argument1=\"value1\" argument2=\"value2\""`

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"
  - `setup.exe`。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexec に引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`。オンプレミス展開を示します。
- 例:
  - .\シトリックス ワークスペース環境管理 インフラストラクチャサービス.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"

サービスプリンシパル名を作成する

> **重要：**

> - 同じフォレスト内にある別々のドメインに対して、複数のサービスプリンシパル名 (SPN) を作成しないでください。環境内のすべてのインフラストラクチャサービスは、同じサービスアカウントを使用して実行する必要があります。
> - **負荷分散**を使用する場合、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスは、同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
> - **Windows認証**は、ADを使用するSQLインスタンスの特定の認証方法です。もう1つのオプションは、代わりにSQLアカウントを使用することです。

> インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービス用のSPNを作成します。WEMでは、エージェント、インフラストラクチャサービス、ドメインコントローラー間の接続と通信はKerberosによって認証されます。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントとSPNに登録されているアカウントとの間にリレーションシップを構成する必要があります。したがって、Kerberos認証要件に準拠するた

> めに、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPNを既知のADアカウントに関連付けるように構成します。

- Windows認証または負荷分散を使用しない場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService**

  ここで、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。
- Windows認証またはロードバランシング（Windows認証が必要）を使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -U -S Norskale/BrokerService** コマンド

  ここで、 はWindows認証に使用されているサービスアカウントの名前です。
- gMSAソリューションを使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService $** コマンド

  ここで、 はgMSAアカウントの名前です。

SPNは大文字と小文字を区別します。

グループ管理サービスアカウント

WEM向けにグループ管理サービスアカウント (gMSA) ソリューションを実装できます。gMSAソリューションを使用すると、新しいgMSAプリンシパルに対してサービスを構成でき、パスワード管理はWindowsによって処理されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>` を参照してください。gMSAがサービスプリンシパルとして使用される場合、Windowsオペレーティングシステムは、管理者がパスワードを管理するのではなく、アカウントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更した場合でも、インフラストラクチャサービス用に構成したWindowsアカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。WEM向けにgMSAソリューションを実装するには、次の手順に従います。

1. ドメインコントローラーでgMSAを作成します。gMSAの作成の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>` を参照してください。
2. Citrix WEM SPNをアカウントにバインドします。WEM SPNの詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。
3. アカウントがデータベースにアクセスできるように、SQL Serverの設定を構成します。

a. プライマリSQL Serverで、**Security > Logins** に移動し、**Logins** を右クリックして、**New Login** を選択します。

b. **Login - New** ウィンドウで、**Search** をクリックします。

c. **Select User or Group** ウィンドウで、次のように設定を構成し、**OK** をクリックしてウィンドウを閉じます。

- **オブジェクトの種類**。**サービスアカウント**のみを選択します。
- **場所**。**管理サービスアカウント**を選択します。
- オブジェクト名。手順1で作成したアカウント名を入力します。

d. **ユーザーマッピング**ページで、gMSAを適用するデータベースを選択し、そのデータベースのロールメンバーシップとして**db-owner**を選択します。

e. **ステータス**ページで、**許可**と**有効**のオプションが選択されていることを確認します。

f. **OK**をクリックして**ログイン - 新規**ウィンドウを終了します。

4. 追加したサービスアカウントを使用してNorskale Infrastructure Serviceを開始します。

a. インフラストラクチャサーバーで、Windowsサービスマネージャーを開き、Norskale Infrastructure Serviceを右クリックして、**プロパティ**を選択します。

b. **ログオン**ページで、**このアカウント**を選択し、**参照**をクリックして、手順3の3番目のサブステップで説明されているように設定を構成します。

c. **OK**をクリックして**Norskale Infrastructure Serviceのプロパティ**ウィンドウを終了します。

d. Windowsサービスマネージャーで、Norskale Infrastructure Serviceを再起動します。

ロードバランシングの構成

> **ヒント:**

> Citrix ADCによるロードバランシングの記事では、Citrix ADCアプライアンスを構成してWEM管理コンソールとWEMエージェントからの受信要求をロードバランスする方法の詳細を説明しています。

> ロードバランシングサービスでWEMを構成するには：

1. WEMインフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続するためのWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを作成します。
2. WEMデータベースを作成する際、「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用**」オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウント名を指定します。詳細については、「Workspace Environment Managementデータベースの作成」(#create-a-workspace-environment-management-database)を参照してください。
3. 各インフラストラクチャサービスを、SQL認証ではなくWindows認証を使用してSQLデータベースに接続するように構成します。「**Windowsアカウントの偽装を有効にする**」オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」(#configure-the-infrastructure-service)を参照してください。
4. WEMインフラストラクチャサービスのSPNを、インフラストラクチャサービスアカウント名を使用するように構成します。詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/install-and-configure/infrastructure-services.html#create-a-service-principal-name)を参照してください。

> **重要：**
>
> WEM環境を展開する前に、サービスアカウントを使用するかマシンアカウントを使用するかを決定してください。WEM環境がすでに展開されている場合、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用している状態で受信要求の負荷分散を行いたい場合、サービスアカウントの代わりにマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIPの背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想IPアドレス (VIP) を作成します。エージェントがVIPに接続する際、VIPによってカバーされるすべてのインフラストラクチャサーバーが対象となります。
6. エージェントホスト構成GPOを構成する際、インフラストラクチャサーバーの設定を個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなくVIPに設定します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/install-and-configure/agent-host.html#install-and-configure-the-agent)を参照してください。
7. 管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続にはセッション永続性が必要です。(エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は不要です。) 各管理コンソールは、VIPを使用するのではなく、インフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Managementデータベースの作成

ヒント:

WEM PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

注:

- SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。
- Citrix®は、WEMデータベースのプライマリファイル（.mdfファイル）をデフォルトサイズ50 MBで構成することを推奨しています。

データベースを作成するには、**WEMデータベース管理ユーティリティ**を使用します。これはインフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、直後に起動します。

1. データベース管理ユーティリティがまだ開いていない場合は、**スタート**メニューから「**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Database Management Utility**」を選択します。

   (/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-database-management-utility.png)

2. 「**データベースの作成**」をクリックし、次に「**次へ**」をクリックします。

   WEMデータベース情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-database-create-wiz-02.png)

3. 次のデータベース情報を入力し、**「次へ」**をクリックします。

   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされるSQL Serverのアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。サーバーとインスタンス名を、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスとして入力します。完全なインスタンスアドレスを**serveraddress,port\ \instancename**として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。

- **データベース名**。作成するSQLデータベースの名前。

> **注:**
>
> ハイフン（-）やスラッシュ（/）などの特殊文字はデータベース名に使用できません。

- **データファイル**：SQL Server上の**.mdf**ファイルの場所へのパス。
- **ログファイル**：SQL Server上の**.ldf**ファイルの場所へのパス。

> **注:**
>
> データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルのデフォルトの場所についてSQL Serverにクエリを実行できません。これらは、MS SQL Serverのデフォルトインストールにおけるデフォルト値に設定されます。これらの2つのフィールドの値がMS SQL Serverのインストールに対して正しいことを確認してください。そうでない場合、データベース作成プロセスは失敗します。

> WEMデータベースサーバーの資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-database-create-wiz-03.png)

4. ウィザードがデータベースの作成に使用できるデータベースサーバーの資格情報を入力し、**「次へ」**をクリックします。これらの資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用する資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

   統合接続を使用オプションはデフォルトで選択されています。これにより、ウィザードは実行中のIDのWindowsアカウントを使用してSQLに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するのに十分な権限がない場合、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして代わりに十分な権限を持つSQLアカウントを提供することができます。

   WEMデータベースセキュリティ(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-database-create-wiz-04.png)

5. VUEM管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、**「次へ」**をクリックします。ここで提供する資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用されます。これらはデータベースに保存されます。

- **初期管理者グループ**。このユーザーグループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前設定されています。Workspace Environment Management管理者として構成されたユーザーのみが管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定しないと、管理コンソールを自分で使用できなくなります。
- **インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用**。このオプションがクリアされている場合（デフォルト）、データベースはインフラストラクチャサービスが*vuemUser* SQLユーザーアカウントを使用して接続することを期待します。vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセスによって作成されます。これには、SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっている必要があります。

このオプションを選択すると、データベースはインフラストラクチャサービスがWindowsアカウントを使用して接続することを想定します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したWindowsアカウントと同じアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用することはできません。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定します**。デフォルトでは、vuemUser SQLアカウントは、大文字と小文字、数字、句読点を使用する8文字のパスワードで作成されます。独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを入力する場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、このオプションを選択します。

> **重要：**
>
> - SQL Server Always On可用性グループにWorkspace Environment Managementデータベースを展開する場合は、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する必要があります。
> - ここでパスワードを設定した場合は、インフラストラクチャサービスを構成するときに同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. 概要ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ**データベースの作成**をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したという通知が表示されたら、**完了**をクリックしてウィザードを終了します。

データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

インフラストラクチャサービスを構成する

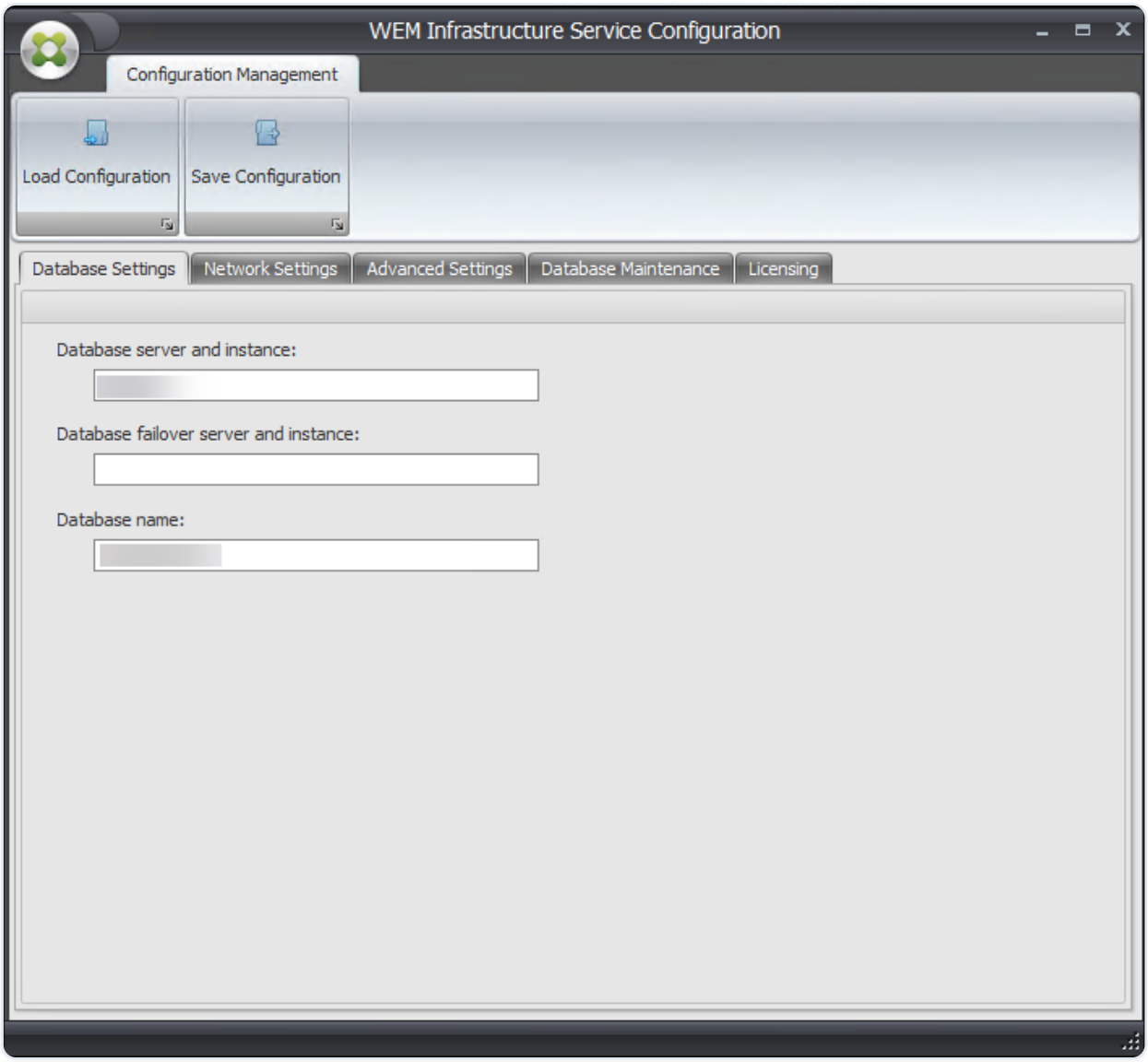
> **ヒント:**

> Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用して、インフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

> インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように、**WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを使用して構成する必要があります。

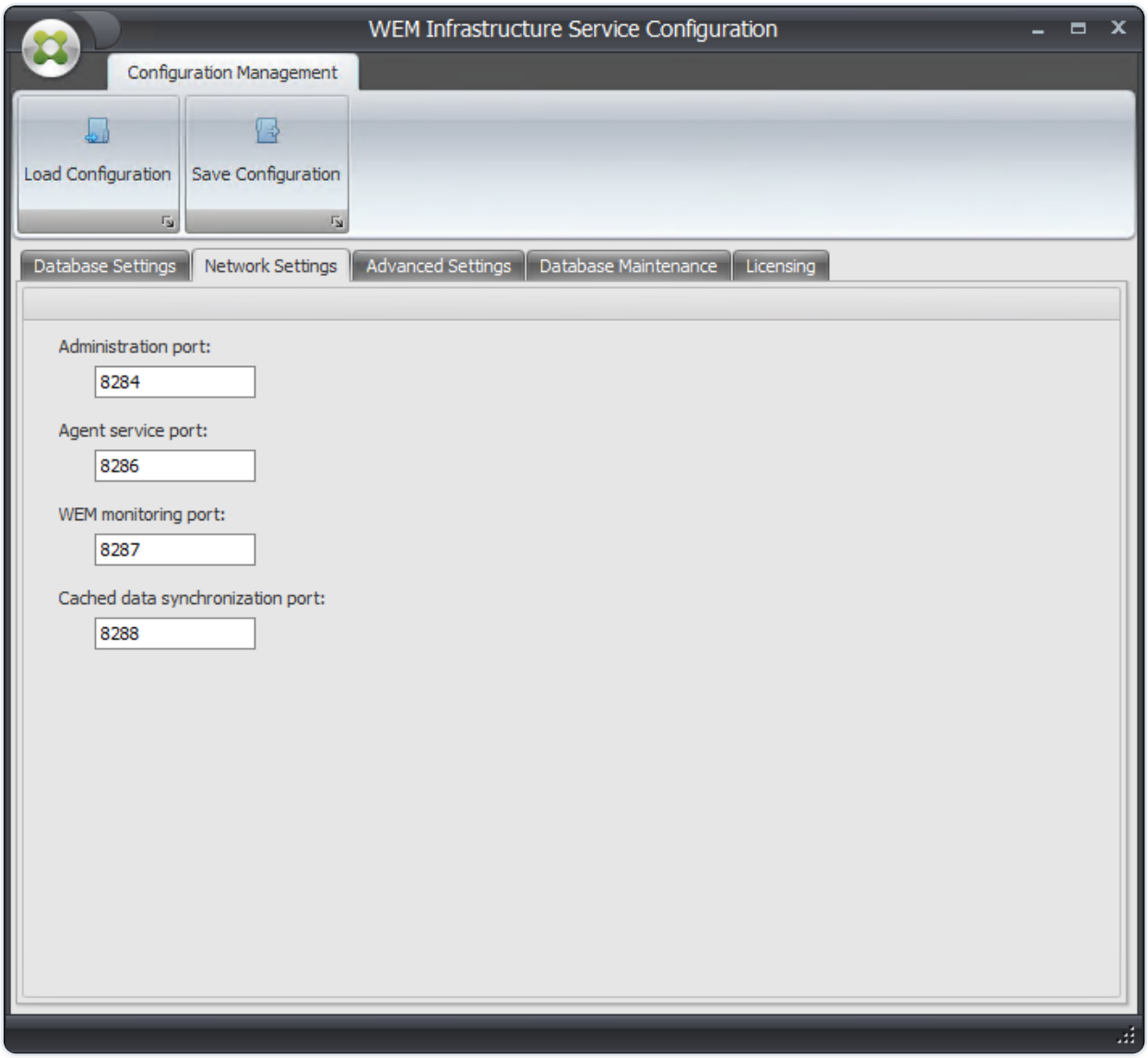
1. **スタート**メニューから、**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を選択します。
2. **データベース設定**タブで、次の詳細を入力します。

   - **データベースサーバーとインスタンス**。Workspace Environment Managementデータベースがホストされ ているSQL Serverインスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「serveraddress,port\\instancename」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。データベースミラーリングを使用している場合は、ここにフェールオーバーサーバーアドレスを指定します。
   - **データベース名**。SQLインスタンス上のWorkspace Environment Managementデータベースの名前。



3. 「**ネットワーク設定**」タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - **管理ポート**。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用します。
   - **エージェントサービスポート**。このポートは、エージェントホストがインフラストラクチャサービスに接続するために使用します。
   - **キャッシュ同期ポート**。このポートは、エージェントサービスがそのキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用します。
   - **WEM監視ポート**。



4. 「**詳細設定**」タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

   - **Windowsアカウントの偽装を有効にする**。デフォルトでは、このオプションはオフになっており、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します（データベース作成時に作成されたSQLアカウント *vuemUser* を使用）。代わりにデータベース作成時にWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続時にインフラストラクチャサービスが偽装する同じWindowsアカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。
   - **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。データベース作成時に *vuemUser* SQLユーザー用に構成されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。データベース作成時に独自のパスワードを指定した場合にのみ、このオプションを有効にしてください。

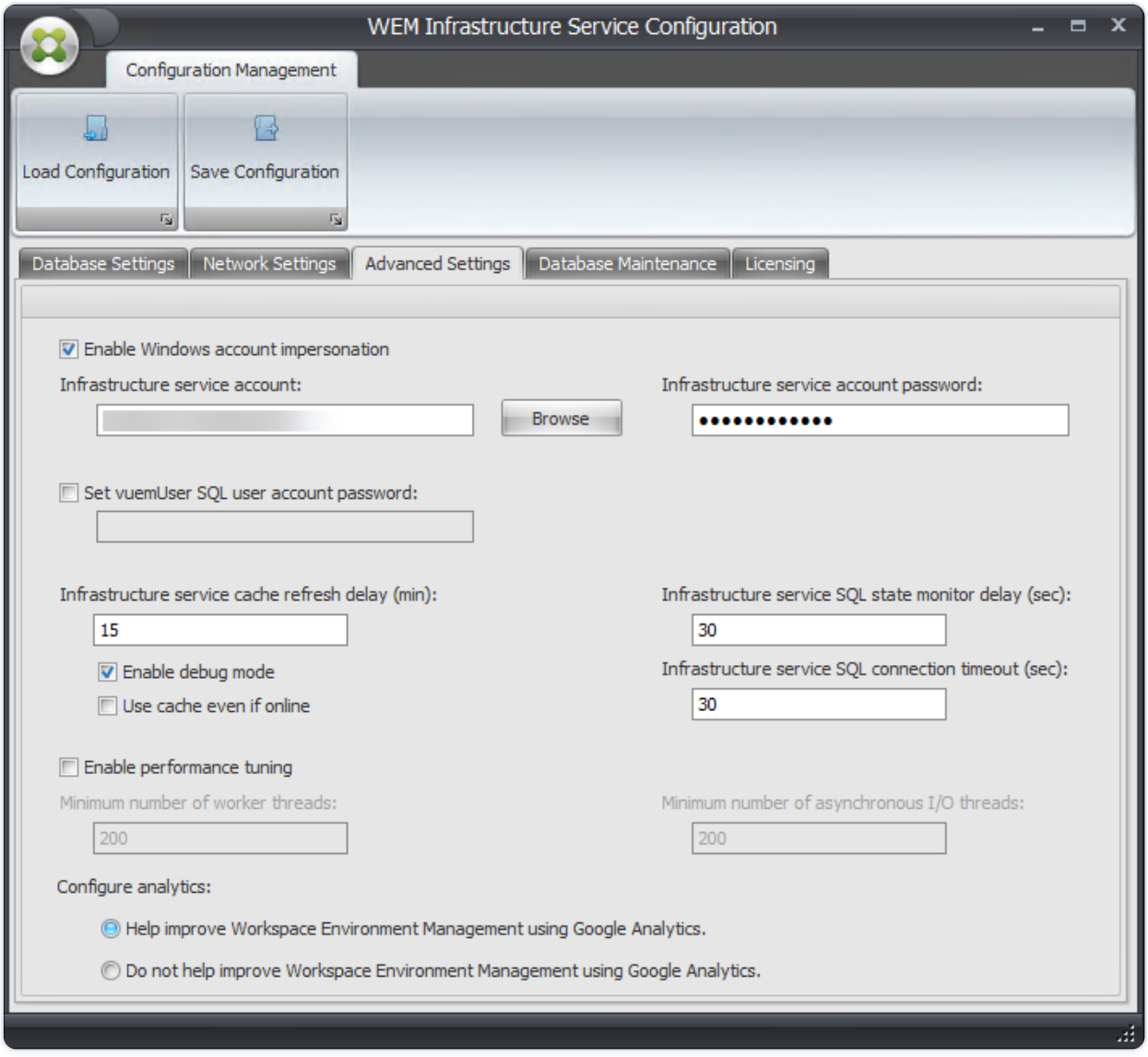
- **インフラストラクチャサービスのキャッシュ更新遅延**。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分）。インフラストラクチャサービスがSQLに接続できない場合、キャッシュが使用されます。
- **インフラストラクチャサービスのSQL状態監視遅延**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーをポーリングする各試行間の時間（秒）。
- **インフラストラクチャサービスのSQL接続タイムアウト**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーとの接続を確立しようとするときに、試行を終了してエラーを生成するまでに待機する時間（秒）。
- **デバッグモードを有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは詳細ログモードに設定されます。
- **オンラインでもキャッシュを使用する**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にキャッシュからサイト設定を読み取ります。
- **パフォーマンスチューニングを有効にする**。接続されているエージェントの数が特定のしきい値（デフォルトでは200）を超えた場合に、パフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するのにかかる時間が短縮されます。
    - **ワーカー スレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成するワーカー スレッドの最小数を指定します。ワーカー スレッドの数を30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカー スレッドの最小数は200です。
    - **非同期I/Oスレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成する非同期I/Oスレッドの最小数を指定します。非同期I/Oスレッドの数を30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期I/Oスレッドの最小数は200です。

> **重要：**
>
> この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断される場合に特に役立ちます。

> **注:**
>
> パフォーマンスチューニングを有効にするフィールドで設定した値は、新しい要求が行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使

> 用されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>`および`<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>`を参照してください。

- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力する。**選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信します。
- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力しない**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信しません。

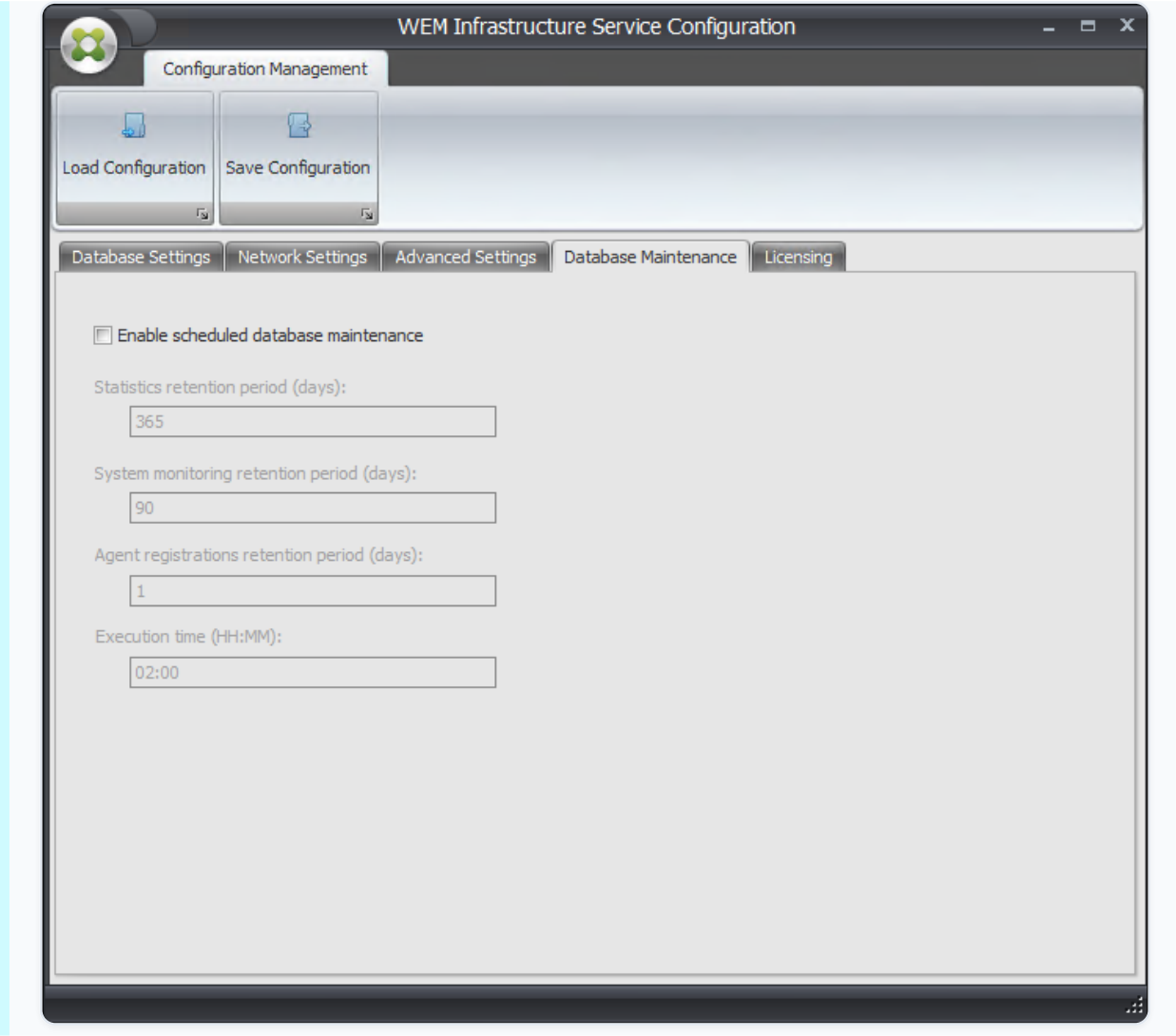


5. **データベースメンテナンス**タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

- **スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にする**。有効にすると、この設定は古い統計レコードをデータベースから定期的に削除します。
- **統計の保持期間**。ユーザーおよびエージェントの統計が保持される期間を決定します。デフォルトは365日です。
- **システム監視の保持期間**。システム最適化の統計が保持される期間を決定します。デフォルトは90日です。
- **エージェント登録の保持期間**。エージェント登録ログがデータベースに保持される期間を決定します。デフォルトは1日です。
- **実行時間**。データベースメンテナンスアクションが実行される時間を決定します。デフォルトは02:00です。

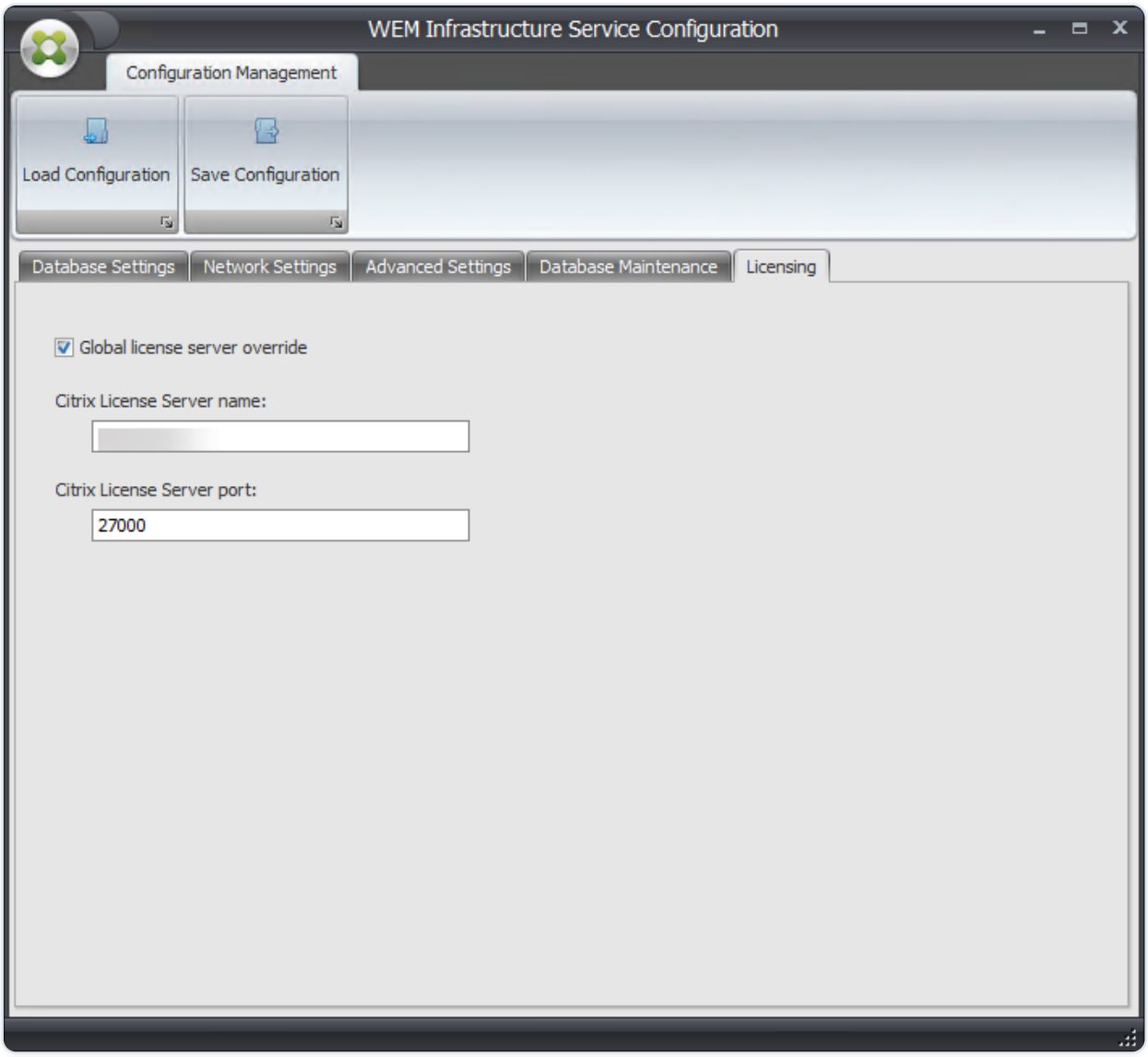
ヒント

ベストプラクティスとして、データベースサイズを削減し、最高のパフォーマンスを実現するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一のWEM展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスのみで有効にしてください。



6. インフラストラクチャサービスの構成中に、オプションで**ライセンス**タブを使用して Citrix License Server を指定できます。指定しない場合、管理コンソールが新しい Workspace Environment Management データベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの**バージョン情報**タブで Citrix License Server の資格情報を入力する必要があります。どちらの場合も、Citrix License Server の情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

   - **グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**。このオプションを有効にして、Workspace Environment Management で使用される Citrix License Server の名前を入力します。ここに入力した情報は、Workspace Environment Management データベースに既に存在する Citrix License Server の情報をすべて上書きします。



インフラストラクチャサービスが希望どおりに構成されたら、**構成の保存**をクリックしてこれらの設定を保存し、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを終了します。

管理コンソール

管理コンソールをインストールする

> **注:**
>
> 管理コンソールからWorkspace Environment ManagementでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspace app for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、システム要件を参照してください。

> 管理者コンソール環境で**Citrix Workspace Environment Management Console.exe**を実行します。

これらの引数を使用してインストールをカスタマイズできます。

AgentPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、開かれるポートを構成できます。指定しない場合、デフォルトのポート8286が使用されます。許可される値は、任意の有効なポートです。

AdminPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、開かれるポートを構成できます。指定しない場合、デフォルトのポート8284が使用されます。許可される値は、任意の有効なポートです。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

```
"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Console.exe " /v"argument=\\"value\\""
```

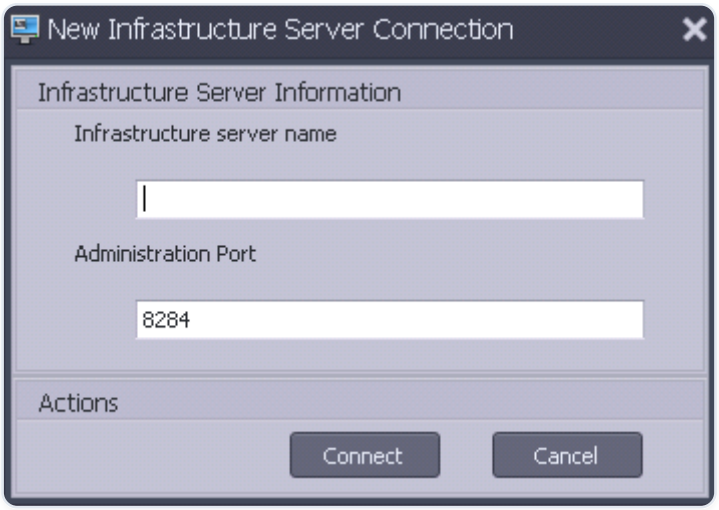
管理コンソールのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"
  - `setup.exe`。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexecに引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`。オンプレミス展開を示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Console.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"

インフラストラクチャサーバー接続を作成する

スタートメニューで、**Citrix®>Workspace Environment Management™>WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。

リボンで、**接続**をクリックして、 ウィンドウを開きます。

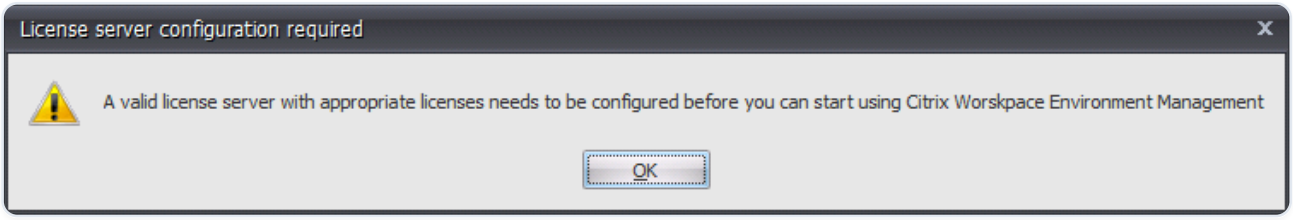


次の値を入力し、**接続**をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーの名前です。管理コンソール環境から、入力したとおりに解決できる必要があります。

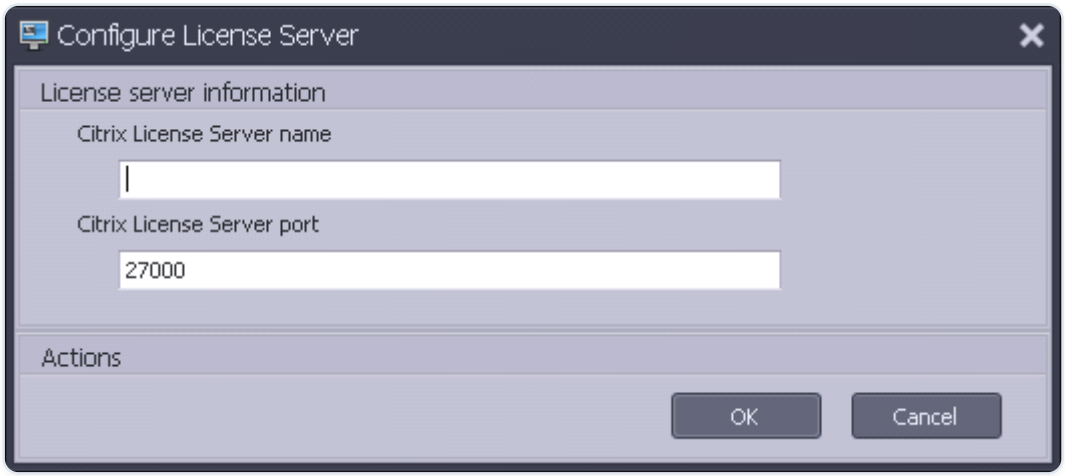
管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。

新しいデータベースに初めて接続するときは、有効なライセンスを持つ Citrix ライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。



データベースをライセンスサーバーで構成する

データベースをライセンスサーバーで構成するには、管理コンソールのリボンで をクリックし、をクリックして、Citrix ライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrix ライセンスサーバーのアドレスは、管理コンソール環境から入力したとおりに解決できる必要があります。



クイックスタート設定のインポート

Workspace Environment Management には、Workspace Environment Management データベースを事前に構成して、すぐに概念実証に対応できるようにするための XML ファイルが含まれています。XML ファイルは、Workspace Environment Management インストーラーパッケージの「Configuration Templates」フォルダーにあります。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、**ホーム**リボンで**復元**をクリックします。

管理コンソールリボン(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-admin-console-ribbon-home.png)

復元ウィザードで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

復元ウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-admin-console-restore-settings.png)

復元ウィザードで、クイックスタート設定ファイルが含まれているフォルダー「Configuration Templates」を選択し、すべての設定タイプを選択します。

エージェント

エージェントのインストールと構成

> **注:**
>
> - インフラストラクチャサーバーにWorkspace Environment Management™ (WEM) エージェントをインストールしないでください。

- WEMエージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
- 管理コンソールからWEMでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンにCitrix Workspaceアプリ for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

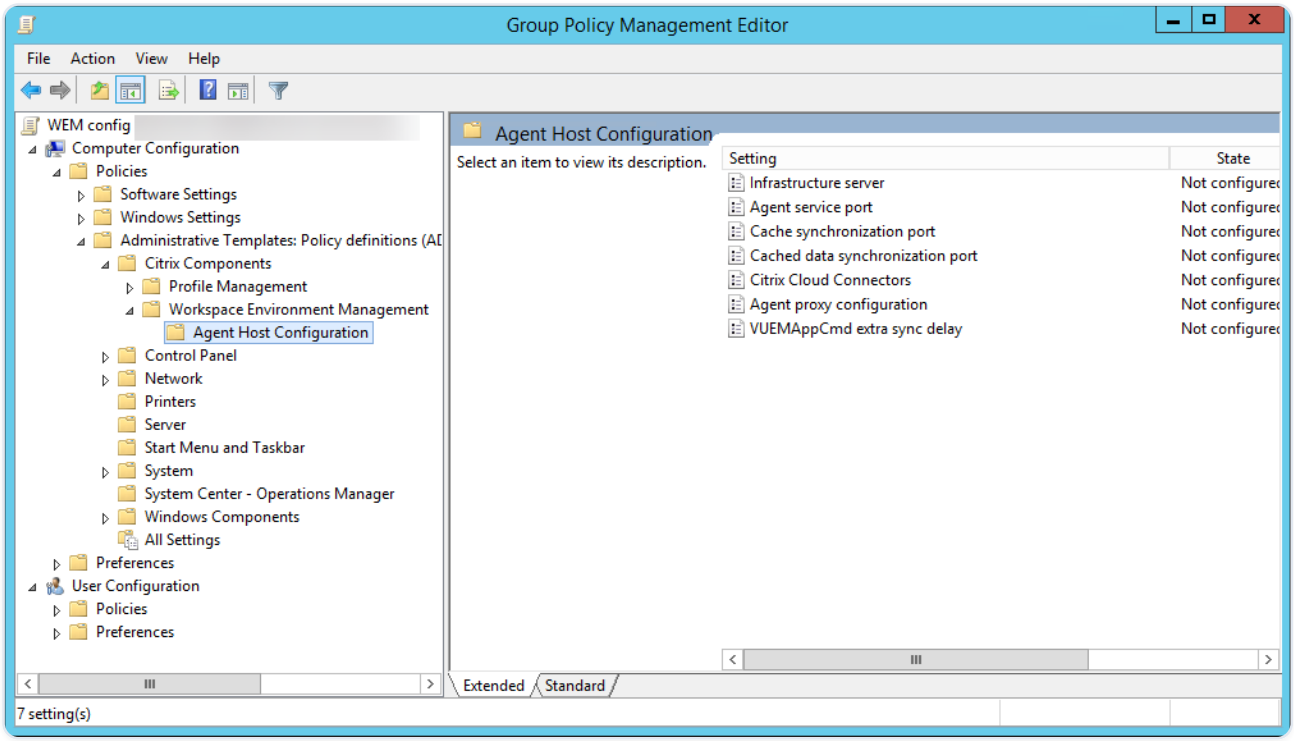
手順1：グループポリシーの構成（オプション）

オプションで、**エージェントグループポリシー**管理用テンプレートを使用して、エージェントのグループポリシーを構成できます。WEMインストールパッケージには、このテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは、.admxファイルと、言語固有の.admlファイルに分かれています。グループポリシーはドメインコントローラーで構成することをお勧めします。

エージェントホスト構成ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEMインストールパッケージに含まれている**Agent Group Policies**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admlとCitrixBase.adml*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

グループポリシー管理エディターを使用して、以下の設定でGPOを構成します。



インフラストラクチャサーバー。WEMインフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前またはIPアドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービスの構成中にエージェントサービスポートに構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで8286になります。

キャッシュデータ同期ポート。（Workspace Environment Management 1912以降に適用。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。）エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポート。キャッシュデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービスの構成中にキャッシュデータ同期ポート（**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**）に構成したポートと同じである必要があります。ポートはデフォルトで8288であり、`CachedDataSyncPort`コマンドライン引数に対応します。または、WEMエージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例：

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud™ Connectors。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**未構成**のままにします。

エージェントプロキシ構成。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**未構成**のままにします。

VUEMAppCmd extra sync delay。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktops公開リソースが起動する前に待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100～200です。デフォルト値は0です。

手順2：エージェントをインストールする

> **重要：**

> エージェントのインストール中に.NET Frameworkが自動的にインストールされることがありますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

> ユーザー環境で**Citrix Workspace™ Environment Management Agent**を実行できます。コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダーにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent（64ビットOSの場合）
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent（32ビットOSの場合）

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. **ライセンス条項に同意します** を選択し、**インストール** をクリックします。
3. ようこそページで、**次へ** をクリックします。

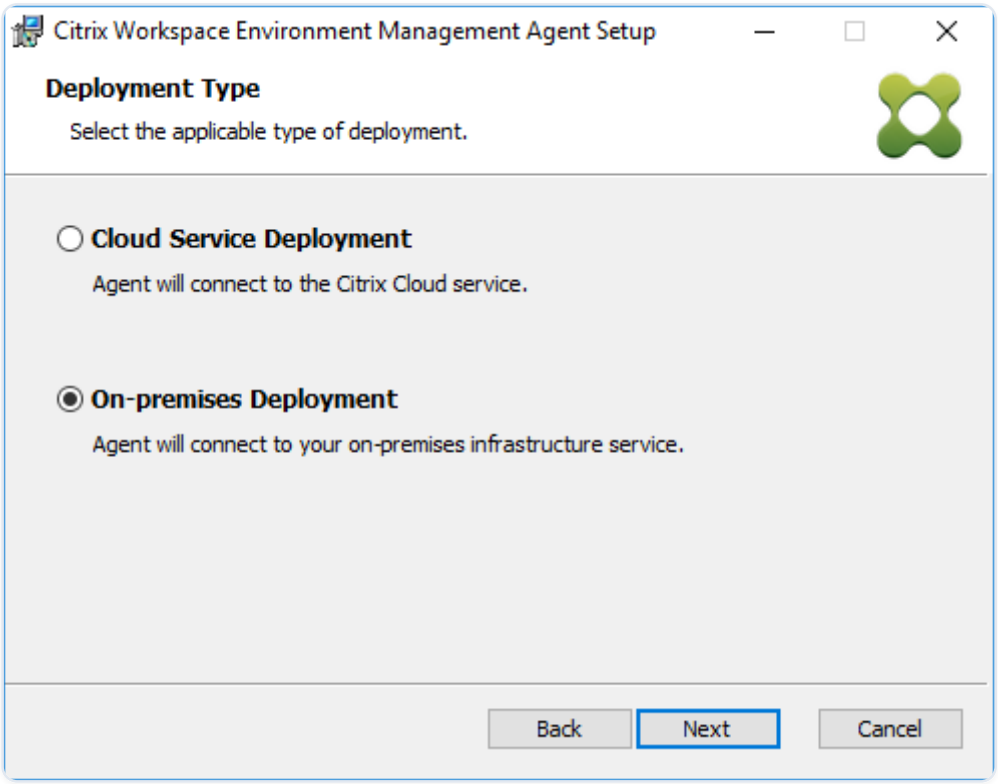
> **注:**

> ようこそページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. インストール先フォルダーページで、**次へ** をクリックします。

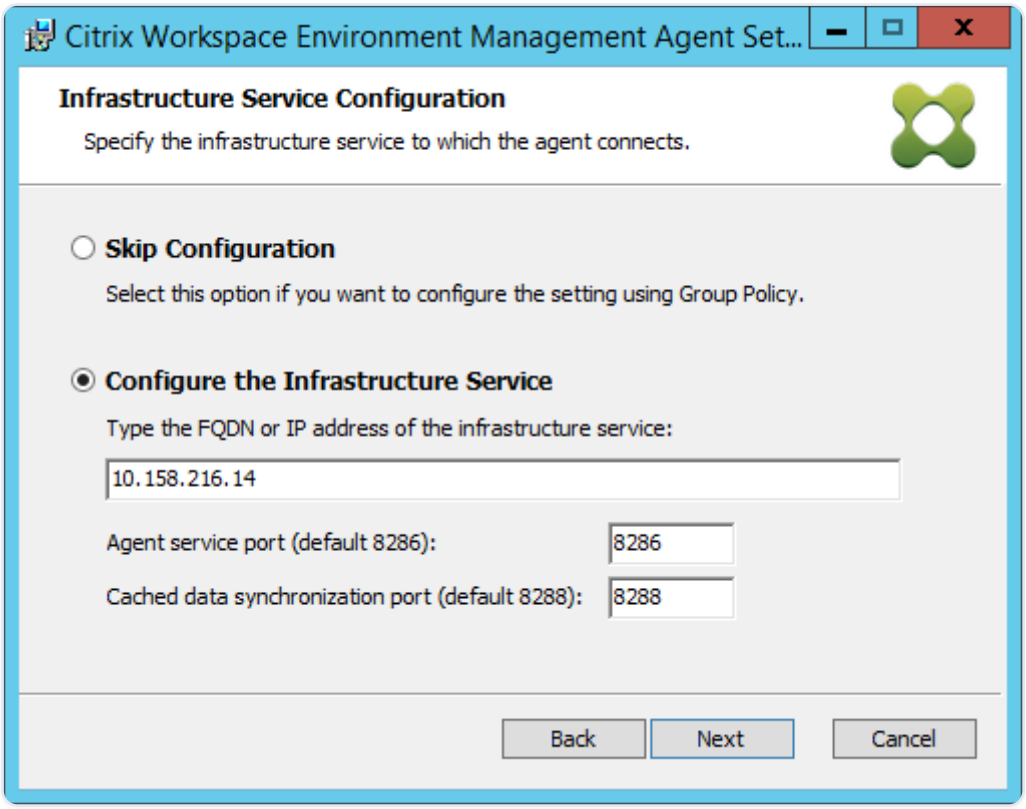
- デフォルトでは、インストール先フォルダーフィールドには、デフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**変更** をクリックしてフォルダーに移動し、**次へ** をクリックします。
- WEMエージェントをすでにインストールしている場合、インストール先フォルダーフィールドには、既存のインストールフォルダーパスが自動的に入力されます。

5. 展開の種類ページで、該当する展開の種類を選択し、**次へ** をクリックします。この場合、**オンプレミス展開** を選択します。



6. インフラストラクチャサービス構成ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、**次へ** をクリックします。

- **構成をスキップ**。グループポリシーを使用して設定をすでに構成している場合は、このオプションを選択します。
- **インフラストラクチャサービスを構成**。インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
- **エージェントサービスポート**。デフォルトでは、値は8286です。
- **キャッシュデータ同期ポート**。デフォルトでは、値は8288です。



7. 「詳細設定」ページで、エージェントの詳細設定を構成し、**次へ**をクリックします。

   - **代替キャッシュの場所 (オプション)**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。**参照**をクリックして、該当するフォルダに移動します。または、レジストリを介して行うこともできます。そのためには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

     HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

     名前: AgentCacheAlternateLocation

     種類: REG_SZ

     値: 空

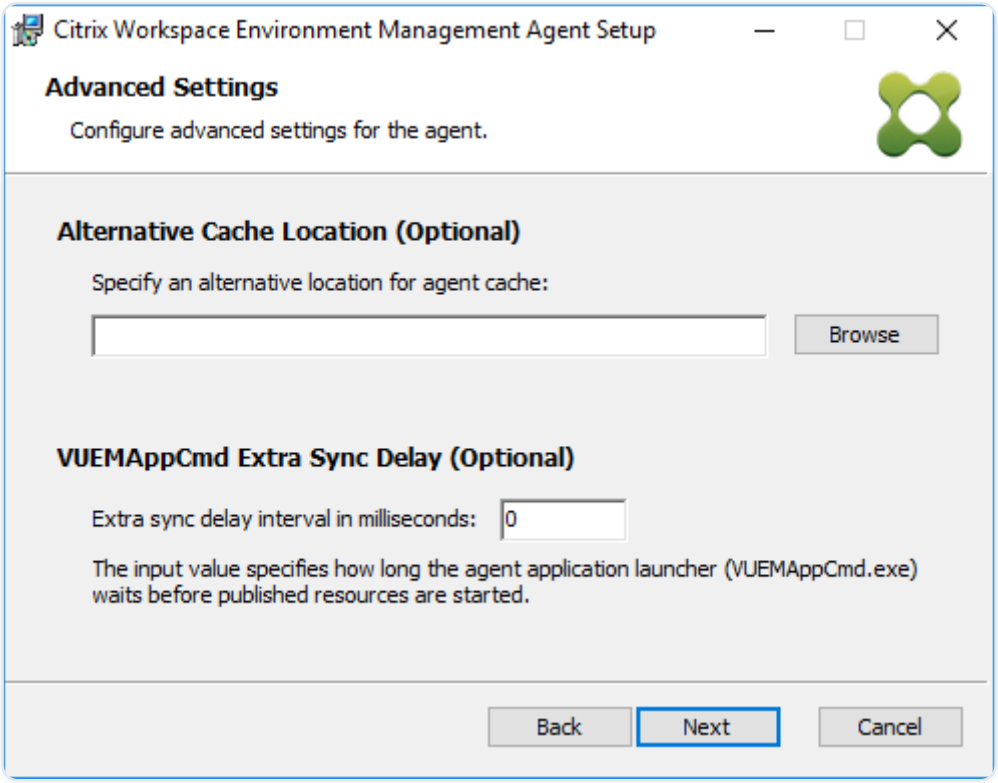
     デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダは次のとおりです: `<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`。必要に応じて、別のフォルダパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。変更が有効になると、次のファイルがフォルダに表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

     > **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd 追加同期遅延 (オプション)**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が公開リソースの開始前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定することで、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。デフォルト値は0です。

> **注:**
>
> 追加同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。



8. 「インストールの準備完了」ページで、**インストール**をクリックします。
9. **完了**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEMエージェントのサイレントインストールを選択することもできます。そのためには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`

> **ヒント:**
>
> - オンプレミスWEM展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。WEMサービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。
> - エージェントのインストールをトラブルシューティングするために、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアクションを記録するログファイルは%TEMP%に作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

> コマンドラインオプションを使用してカスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、「Good to know」を参照してください。

インストール後、エージェントは *Citrix WEM Agent Host Service* (旧称 Norskale Agent Host Service) および *Citrix WEM Agent User Logon Service* として実行されます。エージェントは *LocalSystem* アカウントとして実行されます。このアカウントの変更はサポートしていません。このサービスには、**ローカルシステムとしてログオン**する権限が必要です。

ステップ3：インストールを完了するためにマシンを再起動します

前提条件と推奨事項

WEMエージェントが適切に機能するように、以下の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認してください。

- Windowsサービス **System Event Notification Service** が、起動時に自動的に開始するように構成されていること。
- WEMエージェントサービス **Citrix WEM Agent Host Service** および **Citrix WEM User Logon Service** が、起動時に自動的に開始するように構成されていること。

- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置してください。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

おすすめ

エージェントの展開を成功させるには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- **Citrix WEM Agent Host Service** を、ログオンスクリプトやスタートアップスクリプトなどを使用して手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service** の停止や再起動などの操作は、Netlogonサービスが機能しなくなる原因となり、他のアプリケーションに問題を引き起こす可能性があります。
- UIモードまたはCMDモードのエージェントを起動するためにログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service** は、サービス開始後にグループポリシーを通じて構成されたCloud Connector設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service** は、最初のログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されることが保証されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service**は、起動時に以下のローカルデータベースファイルを自動的にチェックします: `LocalAgentCache.db` と `LocalAgentDatabase.db`。仮想マシンがプロビジョニングされており、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM Agent Host Service**が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことを自動的に確認します。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍を超えて更新されていない場合、キャッシュはすぐに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。キャッシュが過去60分間に更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service**の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーは、Windowsサービスである**System Event Notification Service**が自動的に起動するように構成します。
- WEMエージェントインストーラーは、WEMエージェントのアップグレードが完了した後、Netlogonサービスを自動的に開始します。

エージェントキャッシュユーティリティのオプション

Citrix WEM Agent Host Serviceは、設定の更新とキャッシュの同期を自動的に処理します。設定をすぐに更新し、キャッシュを同期する必要がある場合にのみ、エージェントキャッシュユーティリティを使用してください。

エージェントのインストールフォルダーで*AgentCacheUtility.exe*を実行するには、コマンドラインを使用します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築または更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと組み合わせて使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、以下の例を参照してください。

- エージェントホスト設定の更新:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時に更新:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュの再初期化:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、エージェント設定およびシステム設定のセクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定には以下が含まれます。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダーパスを指定します。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。構成されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。

- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポートを指定できます。
- **AgentServicePort**。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポートを指定できます。
- **InfrastructureServer**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) がCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが起動するまで待機する時間を指定できます。デフォルト値は0 (ミリ秒) です。追加の同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。

次の点に注意してください。

- コマンドラインを介して設定を構成する場合、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- コマンドラインを介して設定を構成せず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインを介して設定を構成せず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には以下が含まれます。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValueレジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は1（最小）から600（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中にSyncForegroundPolicyレジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値：0、1。値が設定されていない場合、または値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前にWindows Shell（Windowsエクスプローラー）が起動する可能性があります。そのため、一部の設定はユーザーが最初にログオンしたときに有効にならない場合があります。ユーザーが最初にログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される**WaitForNetwork**レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され、利用可能になるまで待機する時間を指定します。引数は0（最小）から300（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

上記の3つのキーは、Windowsログオン画面が表示される前にWEMエージェントサービスが開始されることを保証します。これら3つのキーはすべて、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon**の下に作成されます。これらのキーはまた、ユーザー環境がログオン前にインフラストラクチャサーバーアドレスGPOを受信することを保証します。Active Directoryまたはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示される前に追加の処理時間が発生する可能性があります。効果を得るには、**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**キーの値を最低30に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeoutレジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control**の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーがWEMエージェントサービスの状態を報告できるようになる前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防ぎます。この引数はミリ秒単位の任意の値を指定できます。指定しない場合、デフォルト値の60000（60秒）が使用されます。

> **注:**
>
> コマンドラインを使用して上記の構成を行わない場合、WEMエージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- WEMエージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワーク待機時間を60秒に設定する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

展開の規模とサイズに関する考慮事項

Workspace Environment Management™ (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。WEMのサイジングとスケーラビリティを評価する際には、データベースのパフォーマンス、Active Directoryのセットアップ、ファイアウォールルールなどを考慮する必要があります。

WEMのスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが多いほど、WEMがサポートできるエージェントとユーザーの数も増えます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント（SQL ServerおよびActive Directory）をフロントエンドコンポーネント（管理コンソールおよびエージェント）と同期します。

インフラストラクチャサーバーが稼働しているマシンが以下の仕様を使用していると仮定します。

- 4 vCPU、8 GB RAM、および80 GBの利用可能なディスク容量。

展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算するには、以下の式を使用できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されています。

- インフラストラクチャサーバーの数 = (エージェントの数/1,000) + (ユーザーの数/3,000)

> **注:**

- NTLM認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006以前のバージョンで特定のパフォーマンスの問題が確認されています。Kerberos認証を使用する場合は、これらの問題は確認されていません。
- NTLM認証とKerberos認証の間でパフォーマンスの違いは、Workspace Environment Management 2006以降のバージョンでは確認されていません。

デプロイをアップグレードする

はじめに

新しいマシンやサイトを最初にセットアップすることなく、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7より前のバージョンからバージョン1808以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。それらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン4.7にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

元	対象	インプレースアップグレードのサポート
4.6以前	4.7	はい
4.6以前	1808以降	いいえ（ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン4.7にアップグレードしてください）
4.7	1808以降	はい

注:

WEMデータベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールはすべて同じバージョンである必要があります。

Workspace Environment Managementコンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービス
2. データベース

3. インフラストラクチャサービスを再構成する
4. 管理コンソール
5. エージェント

ステップ 1: インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しい Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスのセットアップを実行します。アップグレード手順は、それ以外はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

> **注:**
>
> Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように構成してください。

ステップ 2: データベースをアップグレードする

> **重要：**
>
> データベースのアップグレードプロセスは元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

> **ヒント:**

Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDK のドキュメントについては、Citrix Developer Documentation を参照してください。

WEM Database Management Utility を使用してデータベースを更新します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に、Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL Server に Windows 認証を使用している場合は、sysadmin 権限を持つ ID でデータベースアップグレードユーティリティを実行してください。

1. **スタート**メニューから、**Citrix®>Workspace Environment Management > WEM Database Management Utility** を選択します。
2. **Upgrade Database** をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

   データベースアップグレードウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-database-upgrade.png)

   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされているSQL Server\\インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバーから入力どおりに到達可能である必要があります。
   - **データベース名**。アップグレードするデータベースの名前。
   - **インフラストラクチャサービスはWindows認証を使用します**。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスはvuemUser SQLユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。（vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセス中に作成されます。）SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認してください。

     選択すると、インフラストラクチャサービスはWindowsアカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したWindowsアカウントと同じアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用しないでください。

- **統合接続を使用**。デフォルトでは、このオプションは選択されています。このオプションを使用すると、ウィザードは、ウィザードが実行されているIDのWindowsアカウントを使用してSQL Serverに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成する十分な権限がない場合は、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして十分な権限を持つSQLアカウントを入力してください。

4. **アップグレード**をクリックして、データベースのアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにある**VUEM Database Management Utility Log**ファイルを確認してください。

手順3：インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM Infrastructure Service Configurationユーティリティを使用してインフラストラクチャサービスを再構成します。(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/install-and-configure/infrastructure-services.html)を参照してください。

手順4：管理コンソールをアップグレードする

管理コンソールで構成されたすべてのWorkspace Environment Management設定はデータベースに保存され、アップグレード中も保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行可能ファイルを実行します。それ以外の手順はインストール手順と同じです。

手順5：エージェントをアップグレードする

> **重要：**
>
> - エージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログオンしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセスがそのマシンのファイルを変更できるようになります。

- WEMインフラストラクチャサービスのバージョンは、WEMエージェントのバージョン以上である必要があります。Citrixでは、最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントセットアップ実行可能ファイルを実行します。

ユーザーエクスペリエンス

管理コンソールの起動

1. **スタート**メニューから、**Citrix \> Workspace Environment Management \> WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで、**接続**をクリックします。
3. ［新しいインフラストラクチャサーバー接続］ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、**接続**をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで、次の操作を行います。

1. 左下のペインのメニュー項目をクリックすると、そのサブセクションが上のペインに表示されます。
2. サブセクション項目をクリックすると、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツが入力されます。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、「ユーザーインターフェイスのリファレンス」を参照してください。

ユーザーインターフェイスのリファレンス

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- リボン
- アクション
- フィルター
- 割り当て
- システム最適化
- ポリシーとプロファイル
- セキュリティ
- Active Directory オブジェクト
- トランスフォーマー設定
- 詳細設定
- 管理
- 監視

リボン

ホームタブ

ホームタブには、次のコントロールが含まれています。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。**新しいインフラストラクチャサーバー接続**ダイアログで、以下を指定します。

- **インフラストラクチャサーバー名**。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- **管理ポート**。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の8284が事前に入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は1つのコンソールから複数のインフラストラクチャサービスを管理できます（1つから切断し、別のサービスに接続することで）。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM) サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。構成セットの作成ウィンドウを開きます。複数のWEMサイト（構成セット）を構成できます。

- **名前**。リボンの構成セットリストに表示されるサイト（構成セット）名。
- **説明**。サイト編集ウィンドウに表示されるサイト（構成セット）の説明。
- **サイトの状態**。サイト（構成セット）が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、WEMエージェントはサイト（構成セット）に接続できません。

編集。構成セットの編集ウィンドウを開きます。構成セットの作成ウィンドウと同様のオプションがあります。

削除。サイト（構成セット）を削除します。「Default site」はWEMが機能するために必要であるため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト（構成セット）リストを更新します。

> **注:**
>
> 異なる管理コンソールからサイトが作成された場合、リストは自動的に更新されません。

> **バックアップ**。**バックアップ**ウィザードを開き、現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

    - **AppLockerルール設定**
    - **特権昇格設定**

- **ADオブジェクト**。WEMが管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。**バックアップ**ウィザードでは、バックアップするADオブジェクトのタイプを指定できます。ADオブジェクトには2つのタイプがあります。

    - ユーザー。個々のユーザーとユーザーグループ
    - マシン。個々のマシン、マシングループ、およびOU

- **構成セット**。選択したWEM構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

    - アクション
    - AppLocker
    - 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
    - フィルター
    - ユーザー
    - 設定（WEM設定）

    次のものはバックアップできません。

    - マシンに関連するADオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
    - 監視データ（統計とレポート）
    - 構成セットに登録されているエージェント

復元。**復元**ウィザードを開き、以前にバックアップされたWEMサービス構成のバージョンに戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー（.XMLファイル）を含む該当するフォルダーを選択します。

- **セキュリティ設定**。セキュリティタブにあるすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セットの既存の設定を*置き換えます*。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードでは、復元する項目を選択できます。

    - **AppLockerルール設定**
    - **特権昇格設定**

    - **既存の設定を上書き**。競合がある場合に、既存の特権昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

  アプリケーションセキュリティルールの割り当ての確認ダイアログで、**はい**または**いいえ**を選択して、**復元**ウィザードがアプリケーションセキュリティルールの割り当てをどのように処理するかを示します。

    - **はい**を選択した場合、復元は現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元しようとします。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられないままであり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
    - **いいえ**を選択した場合、バックアップ内のすべてのルールは、サイトのユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- **ADオブジェクト**。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**復元**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトをきめ細かく制御できます。**復元するADオブジェクトの選択**ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き（置換）するかどうかを指定できます。
- **構成セット**。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。復元した構成セットがWEM管理コンソールに反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの構成セットメニューから選択します。構成セットを復元するとき、同じ名前の構成セットがすでに存在する場合、WEMは自動的にその名前を`<configuration set name>_1`に変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加*されます。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。
- 復元されたADオブジェクトは、復元ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加*されるか、*置き換え*られます。
- **上書きモード**を選択した場合、復元プロセスが開始される前に、既存のADオブジェクトはすべて削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト (GPO) のzipバックアップをWEMに移行します。

重要：

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定 (GPO) のみを移行します。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPOをバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシーの管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**移行**をクリックしてGPOをWEMに移行します。**移行するファイル**ページで、**参照**をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **上書き**。競合がある場合に、既存のWEM設定 (GPO) を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定をきめ細かく制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

  注:

> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

タブ

タブには、次のコントロールが含まれています。

ライセンスサーバーの構成。Citrix License Serverのアドレスを指定できます。これを指定しないと、管理コンソールで設定を変更できません。または、Infrastructure Services Configurationユーティリティの****タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。どちらの場合も、Citrix License Serverの情報はデータベースの同じ場所に保存されます。

ヘルプの表示。WebブラウザーウィンドウでCitrix製品ドキュメントのWebサイトを開きます。

オプション。****ダイアログが開きます。これらのオプションは、管理コンソールのこのローカルインスタンスに固有のものです。

- **管理者の自動ログオン**。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- **デバッグモードの有効化**。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダーのルートに作成されます。
- **コンソールスキン**。管理コンソール専用のさまざまなスキンから選択できます。
- **ポート番号**。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス構成で構成されているポートと一致している必要があります。

バージョン情報。管理コンソールの現在のバージョンとライセンス（ライセンスの種類、登録、数）、および法的情報が表示されます。

アクション

Workspace Environment Management™は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。これらのアクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。Workspace Environment Managementは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、以下の管理が含まれます。

    - アクショングループ(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/action-groups.html)
    - グループポリシー設定(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/group-policy-settings.html)
    - アプリケーション
    - プリンター(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/printers.html)
    - ネットワークドライブ(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/network-drives.html)
    - 仮想ドライブ(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/virtual-drives.html)
    - レジストリエントリ(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/registry-entries.html)
    - 環境変数(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/environment-variables.html)
    - ポート(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/ports.html)
    - Iniファイル(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/ini-files.html)
    - 外部タスク(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/external-tasks.html)
    - ファイルシステム操作(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/file-system-operations.html)
    - ユーザーDSN(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/user-dsn.html)
    - ファイル関連付け(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/file-associations.html)
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、次にアクション グループで定義されたすべてのアクションを、単一のステップでユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能を使用すると、**アクション** ペインに表示される各アクションを個別に割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを単一のステップで割り当てることができます。

> **ヒント:**
>
> Workspace Environment Management のアクションを拡張してより強力にするには、動的トークン を使用できます。

アクション グループリスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索** を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

> **重要：**
>
> - アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーションリスト** タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループリスト** タブのアクション グループには、**アプリケーション** の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
> - 割り当てられたアクション グループのアクションのオプションを構成しても（**アクション グループリスト > 名前 > 構成済み**）、構成されたオプションは、アクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

アクション セクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **削除**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループリスト** タブで、**追加** をクリックします。
2. 「**新しいアクション グループ**」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

アクション グループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、「**編集**」をクリックします。

アクション グループをクローンするには、クローンしたいグループを選択し、「**コピー**」をクリックします。「**コピー**」をクリックすると、クローンが自動的に作成されます。クローンは元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。「**編集**」をクリックして名前を変更できます。

> **注:**
>
> アクション グループをクローンする場合、「**割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する**」オプションが有効になっていない限り、ネットワークおよび仮想ドライブに関連付けられているアクション (存在する場合) はクローンされません。このオプションを有効にするには、「**詳細設定 > 構成 > コンソール設定**」タブに移動します。

アクション グループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、「**削除**」をクリックします。

> **注:**
>
> 既に割り当てられているアクション グループを削除または編集した場合、行った変更は、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

名前。アクション グループ リストに表示されるアクション グループの表示名です。

説明。アクション グループに関する追加情報を指定できます。

アクション グループの状態。アクション グループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、そのアクション グループをユーザーまたはユーザー グループに割り当てたとしても、エージェントはアクション グループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成済みの特定のアクションを検索できます。検索機能を使用して、名前、表示名、または説明でオプションをフィルタリングします。

利用可能。これらは、作成したアクション グループに追加できるアクションです。

プラス記号をクリックして、特定のアクション カテゴリの下にあるアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てるか割り当てを解除します。

> **注:**
>
> - 既にユーザーに割り当てられているアクション グループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
> - 既にユーザーに割り当てられているアクション グループからアクションを削除すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーから割り当て解除されます。

> **構成済み**。これらは、作成したアクショングループにすでに割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定のアクションのオプションを構成することもできます。たとえば、アプリケーションのショートカットの場所、デフォルトのプリンター、ドライブ文字などです。

割り当て

> **重要：**

タブの ペインで、割り当て済みのアクショングループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクショングループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

> > タブでアクショングループのアクションの構成を完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。そのためには、**> >** タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックすると、作成したアクショングループを含む ペインの ノードが表示されます。 ノードの横にあるプラス記号をクリックすると、作成したアクショングループを表示できます。アクショングループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「割り当て」を参照してください。

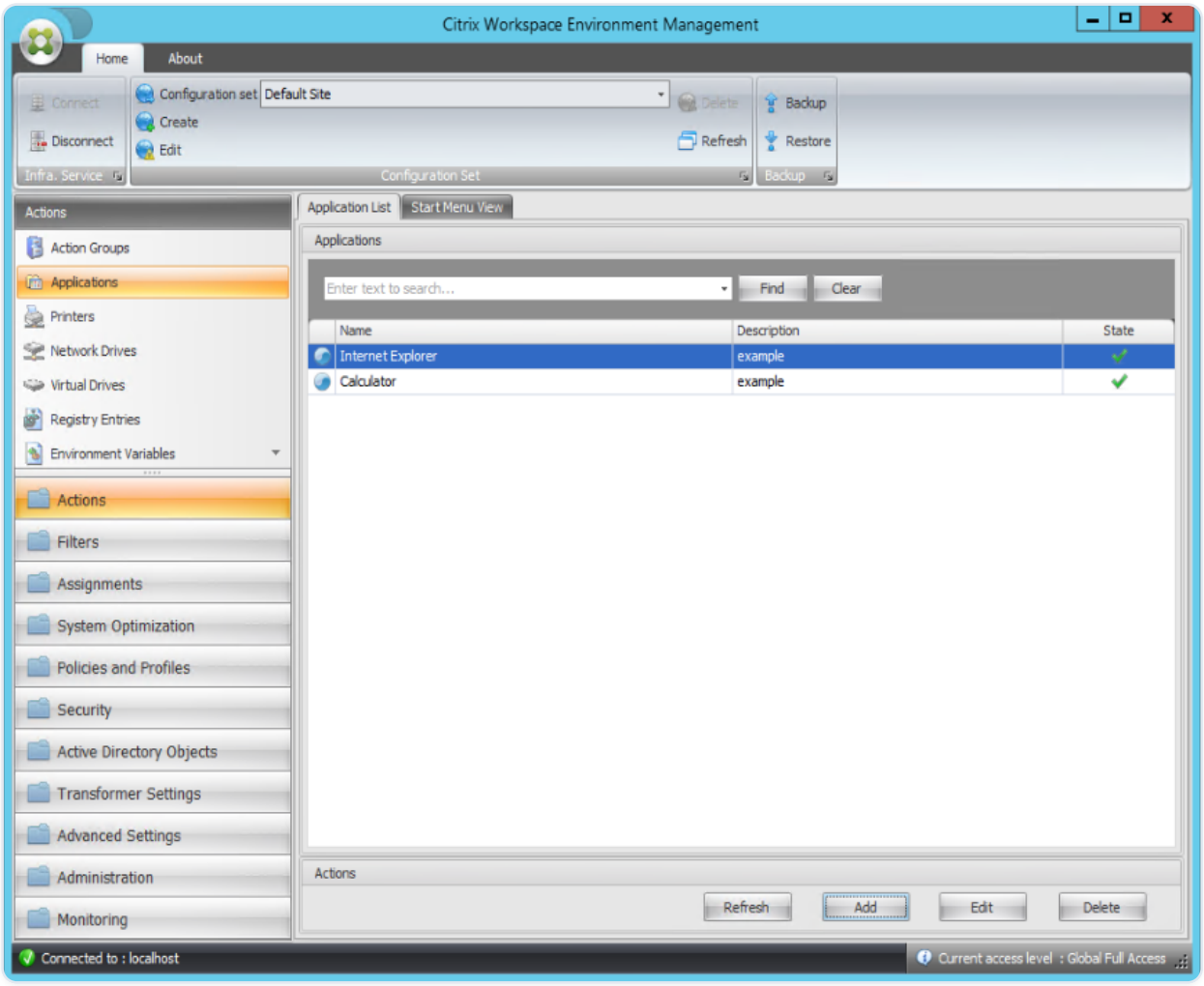
アクショングループを割り当てる際には、いくつかの注意すべきシナリオがあります。

- アクショングループを割り当てると、それに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 異なるアクショングループで1つ以上のアクションが重複する場合があります。重複するアクショングループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクショングループ内のアクションが処理された後、別のアクショングループ内のアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、割り当て解除されたアクションは以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションが割り当て解除されます。その他のアクションは変更されません。

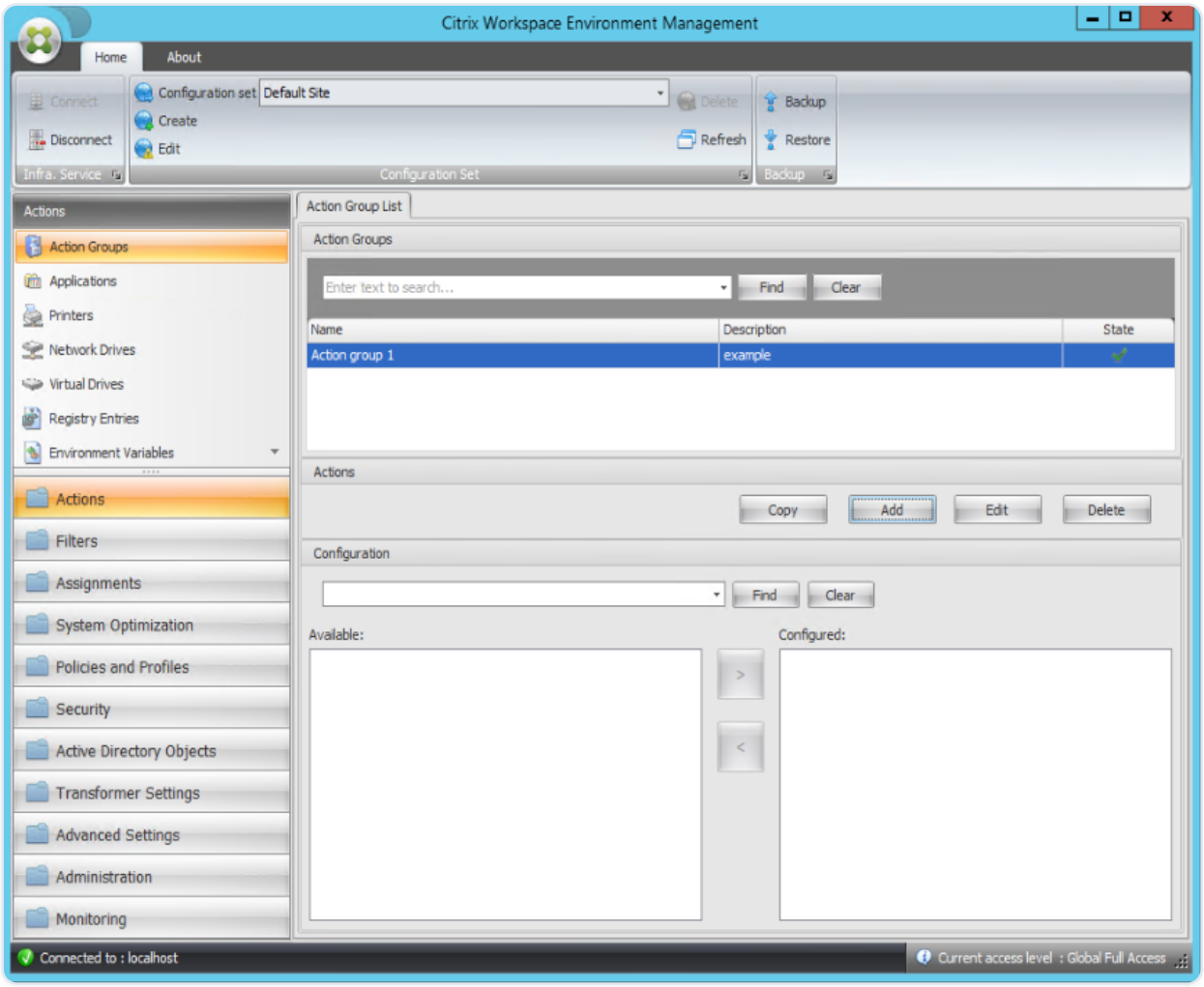
例のシナリオ

たとえば、アクショングループ機能を使用して、2つのアプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

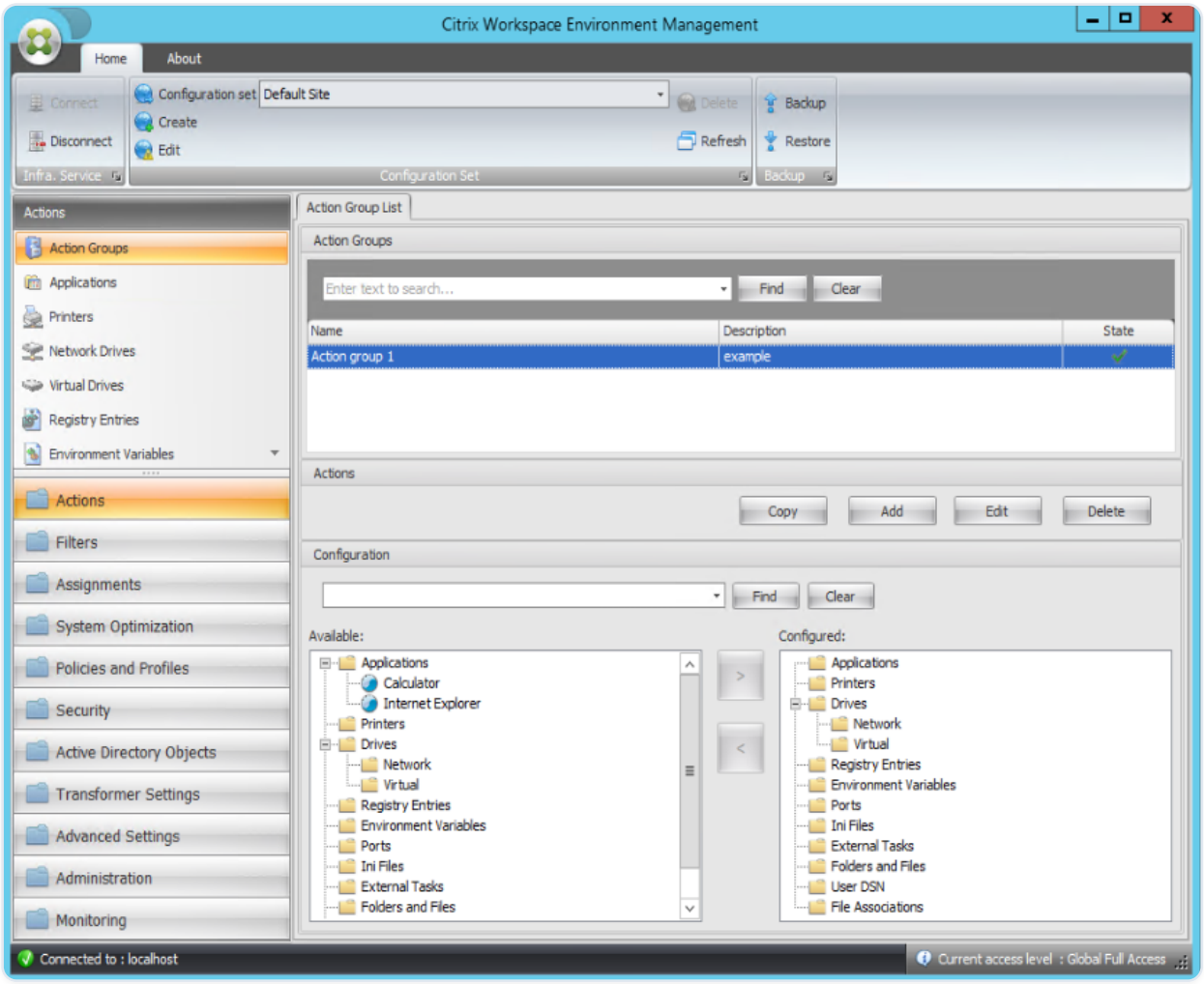
1. **> > >** タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を追加します。



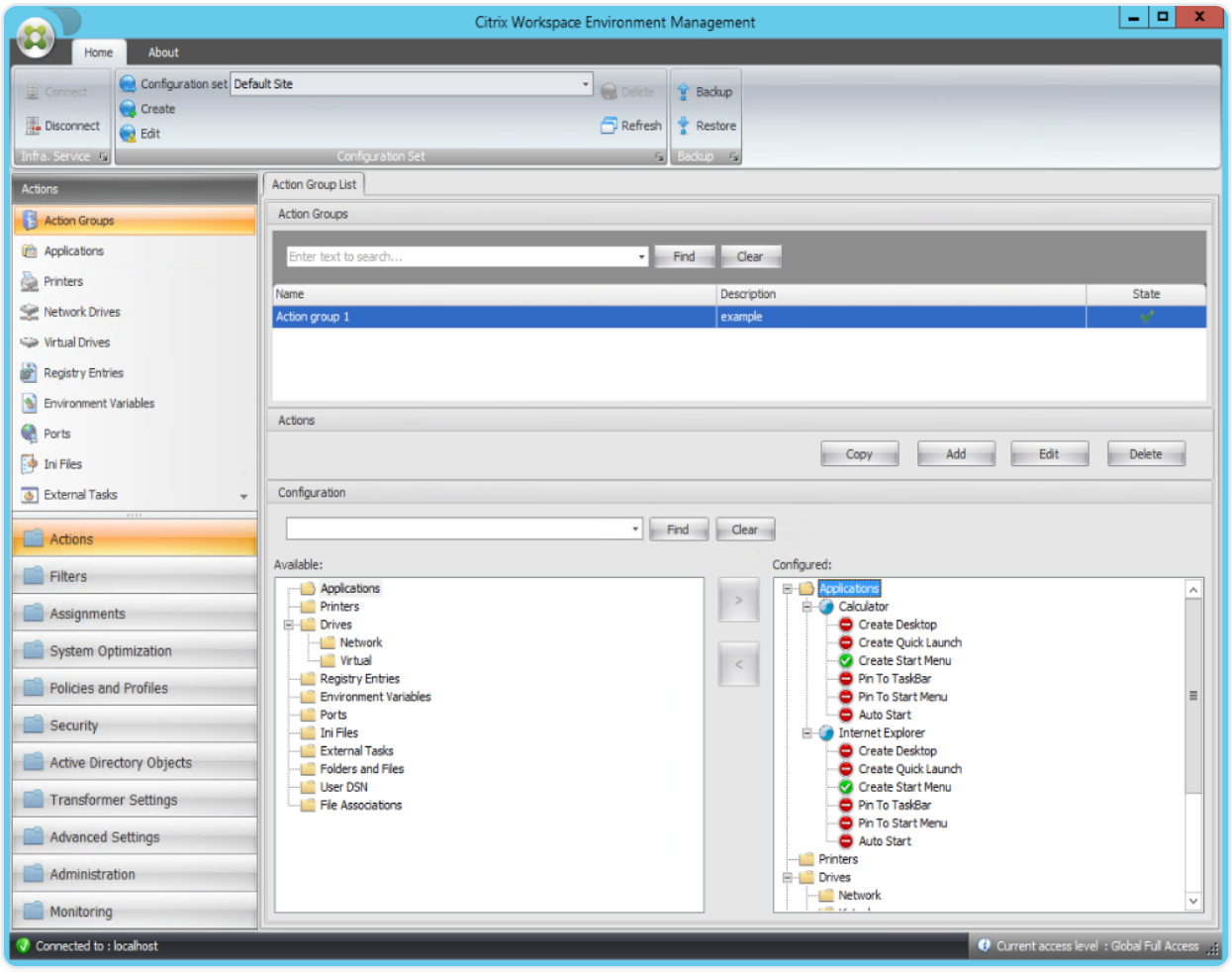
2. **> > >** タブに移動し、 をクリックしてアクショングループを作成します。



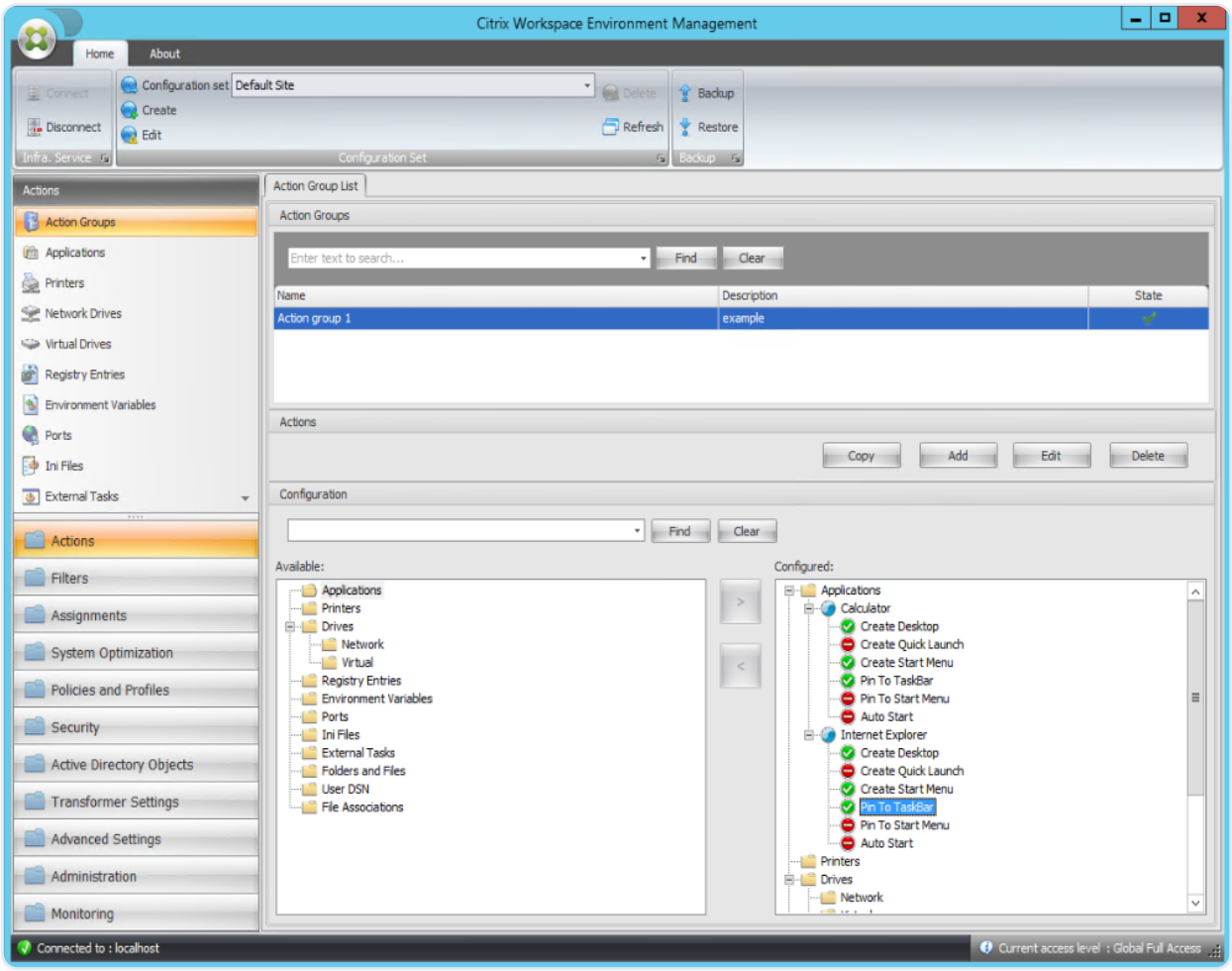
3. 「**アクション グループ リスト**」タブで、作成したアクション グループをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**構成済み**」ペインにアクション リストを表示します。



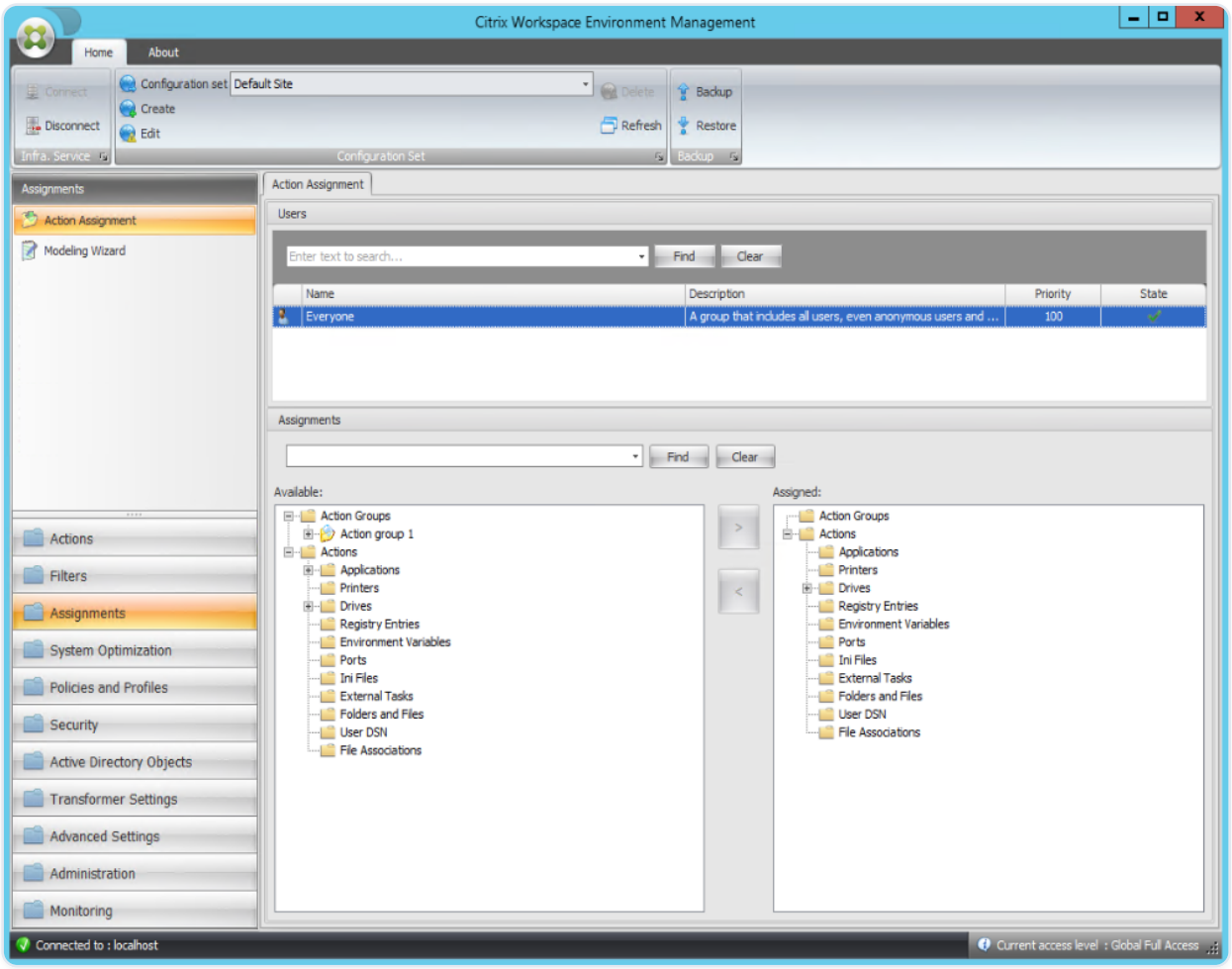
4. 「**利用可能**」ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして「**構成済み**」ペインに移動します。アプリケーションを選択してから右矢印をクリックすることでも、この操作を実行できます。



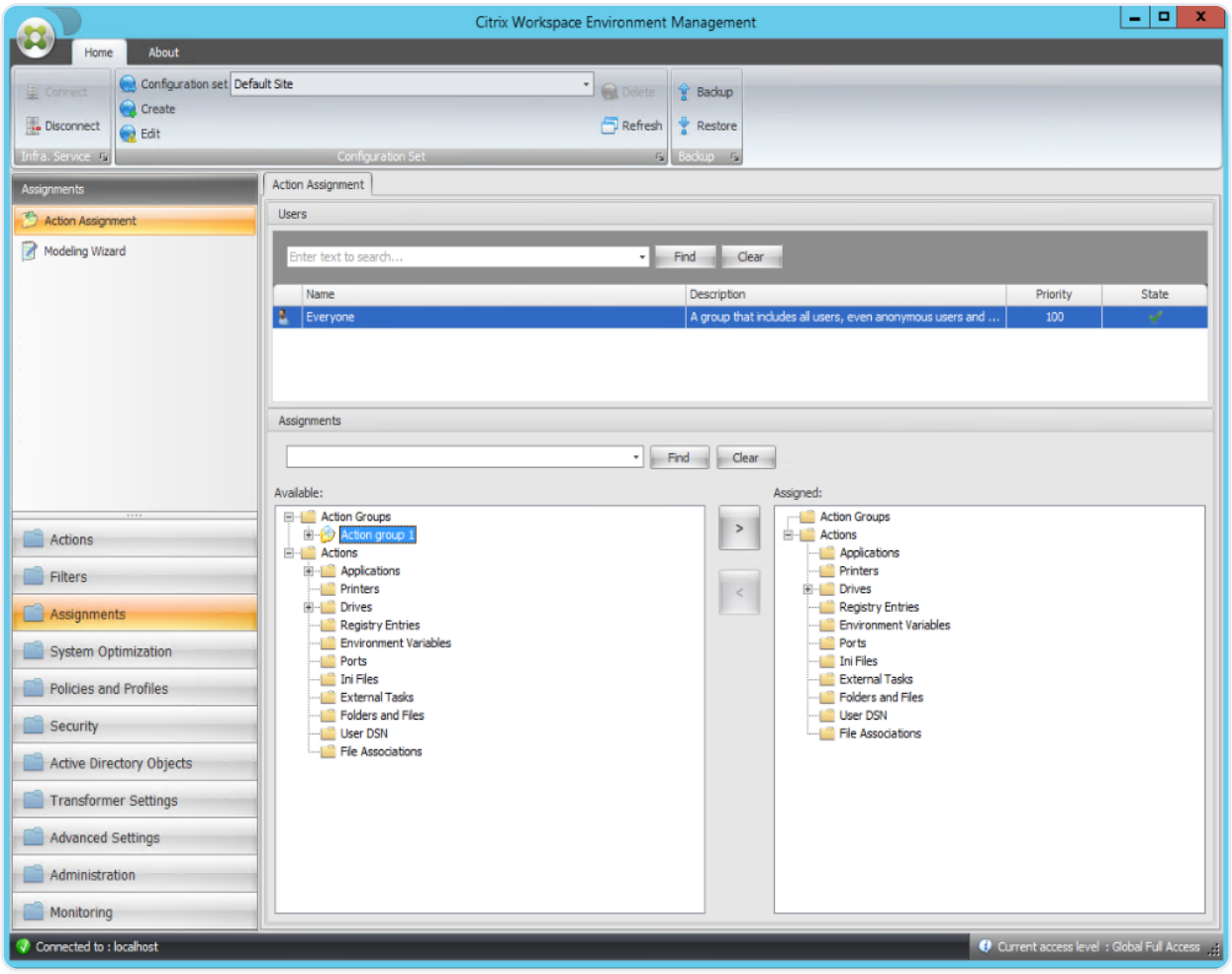
5. 「**構成済み**」ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、「**デスクトップの作成**」と「**タスクバーにピン留め**」を有効にします。



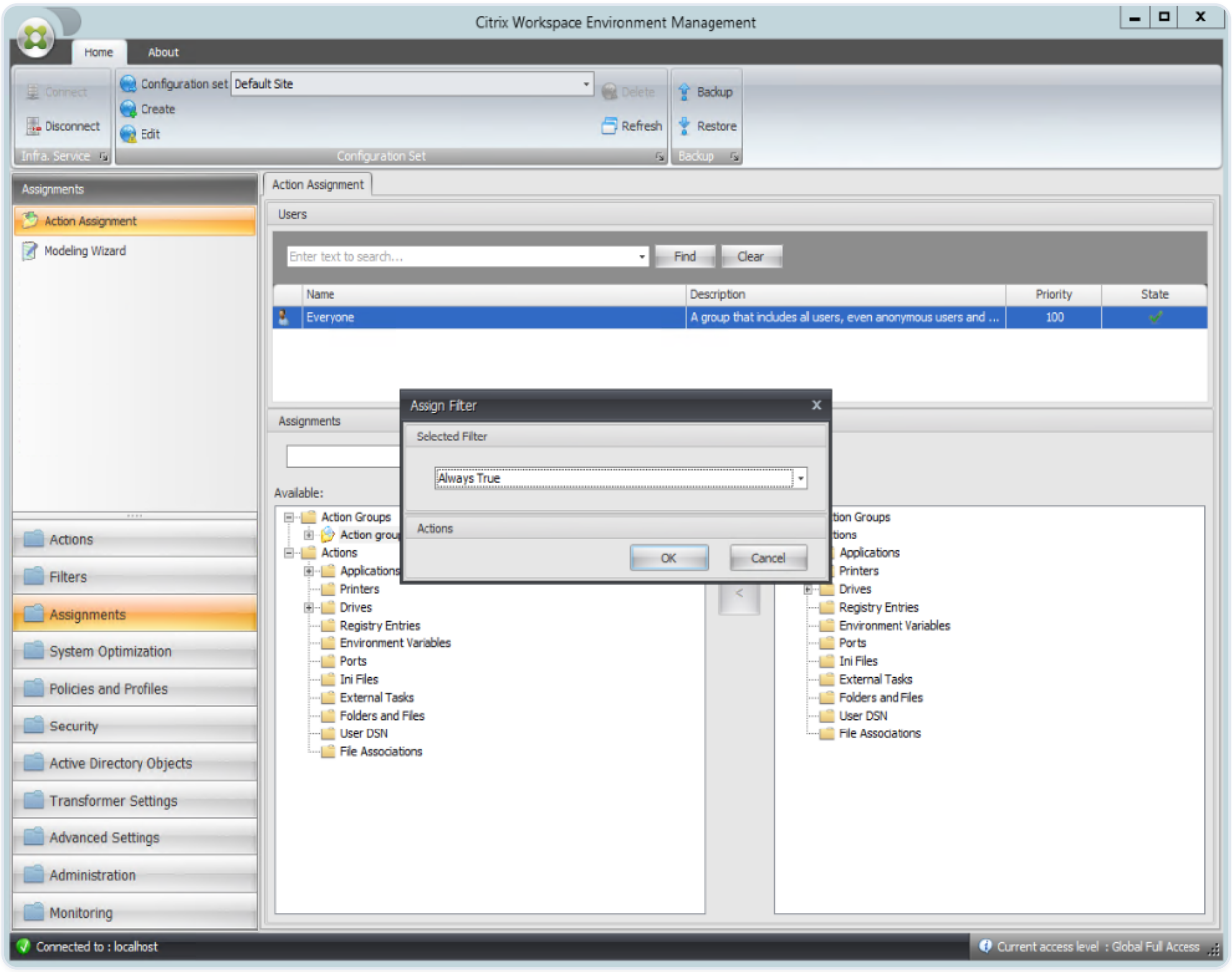
6. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**」タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**割り当て済み**」ペインにアクション グループを表示します。



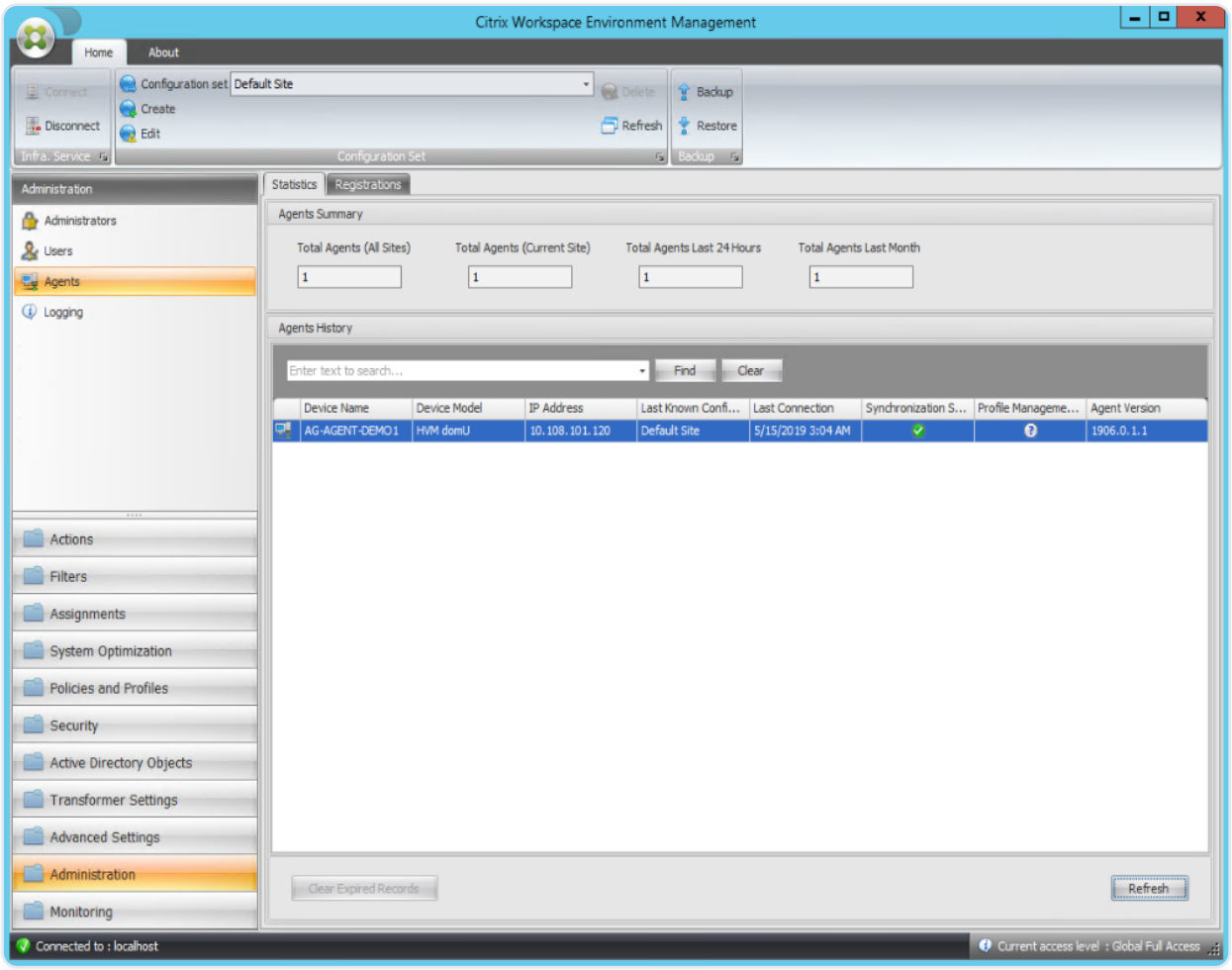
7. 「**利用可能**」ペインで、作成したアクション グループ（この例ではアクション グループ 1）をダブルクリックして、「**割り当て済み**」ペインに移動します。アクション グループを選択してから右矢印をクリックすることでも、この操作を実行できます。



8. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、「**常にTrue**」を選択し、「**OK**」をクリックします。



9. 「**管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで「**ワークスペースエージェントの更新**」を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされています。

グループポリシー設定

> **重要：**
>
> WEM は現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられているグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。
>
> 以前のリリースでは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみを Workspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、リボン の ウィザードの説明を参

> 照してください。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) も WEM にインポートできるようになりました。

設定をインポートした後、どの GPO を割り当てるかを決定する前に、各 GPO に関連付けられている設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同じように、GPO をさまざまな AD グループに割り当てることができます。GPO を個々のユーザーに直接割り当てた場合、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフしてから再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

> **注:**
>
> WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Service が有効になっていることを確認してください。

> **グループポリシー設定の処理を有効にする**。WEM でグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効にすると、次のようになります。

- グループポリシー設定を構成できません。
- WEM は、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループにすでに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存の GPO のリストが表示されます。 を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPO リストを更新します。

- **インポート**。 ウィザードを開き、グループポリシー設定を WEM にインポートできます。
- **編集**。既存の GPO を編集できます。
- **削除**。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください:

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します:

1. WEMサービスの**管理**タブのメニューにある**アップロード**を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. **管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**タブに移動し、**グループポリシー設定処理を有効にする**を選択し、**インポート**をクリックしてインポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの**インポートするファイル**ページで、**参照**をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力して**検索**をクリックして見つけることもできます。
   - **以前にインポートしたGPOを上書きします**。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。
4. **インポートの開始**をクリックしてインポートプロセスを開始します。

5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。インポートされたGPOは、**グループポリシー設定**タブに表示されます。

グループポリシー設定の編集

リストからGPOをダブルクリックすると、その設定が項目別に表示され、必要に応じて設定を編集できます。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから**コピー**を選択します。**コピー**をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。**編集**を使用して名前を変更できます。

編集をクリックすると、**グループポリシーオブジェクトの編集**ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。この情報はGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

> **警告：**

> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集**。レジストリキーを編集できます。
- **削除**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の**追加**をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
    - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
    - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
    - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
    - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
    - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。

- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーのフルパスの場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。

  レジストリエディターのレジストリ値(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/registry-value-in-registry-editor.png)
- **種類**。値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。この種類は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。この種類は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む、展開可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
  - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この種類は、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64ビットの数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビットの数値。
  - **REG_MULTI_SZ**。このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用されるマルチストリングです。各エントリはヌル文字で区切られます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連付けられた変更は、**Citrix WEM Agent Host Service** が開始されたとき、または指定された **SQL Settings Refresh Delay** のタイムアウト時に有効になります。
- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定をコンテキスト化する

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、**フィルター > 条件** に移動し、条件を定義します。条件 を参照してください。

   > **重要：**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、フィルター条件 を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、マシン設定に適用されないフィルター条件 を参照してください。

2. **フィルター > ルール** に移動し、フィルタールールを定義します。ステップ1で定義した条件をそのルールに含めることができます。ルール を参照してください。
3. **アクション > グループポリシー設定** に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. **管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て** に移動し、以下を完了します。

   a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

   b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

   c. **フィルターの割り当て**ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、**OK**をクリックします。設定は**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

   d. **割り当て済み**ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合に有効になります。

マシン設定に適用できないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directoryパスの一致	いいえ
Active Directory属性の一致	いいえ
クライアント名不一致	いいえ
クライアントIPアドレス不一致	いいえ
レジストリ値不一致	いいえ
ユーザーの国不一致	いいえ
ユーザーのUI言語不一致	いいえ
Active Directoryパス不一致	いいえ
Active Directory属性不一致	いいえ
クライアントリモートOSの一致	いいえ
クライアントリモートOS不一致	いいえ
Active Directoryグループの一致	いいえ
Active Directoryグループ不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

ヒント:

- Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe**は、Citrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
- 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいアプリケーション**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **名前**。アプリケーションリストに表示される、アプリケーションショートカットの表示名です。
- **説明**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- **アプリケーションの種類**。ショートカットが起動するアプリケーションの種類で、**インストール済みアプリケーション**、**ファイル/フォルダー**、**URL**、または**StoreFrontストア**のいずれかです。選択に応じて、次の値が必要です。
  - **コマンドライン**。クライアントマシンから見たアプリケーション実行可能ファイルへのパスです。**参照**ボタンを使用すると、ローカルにインストールされている実行可能ファイルを参照できます。

- **作業ディレクトリ**。ショートカットの作業ディレクトリです。実行可能ファイルを参照すると自動的に入力されます。
- **パラメータ**。アプリケーションの起動パラメータです。
- **ターゲット**。(ファイル/フォルダー) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダーの名前。
- **ショートカットURL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットのURL。
- **ストアURL**。(StoreFront™ ストア) ショートカットから起動するリソースを含むStoreFrontストアのURL。
- **ストア リソース**。(StoreFrontストア) ショートカットから起動するStoreFrontストア上のリソース。**参照**ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

> **ヒント:**
>
> StoreFrontストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。ストアリソースを表示するために**参照**を初めてクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Windows 用 Citrix Workspace™ app にログオンするために使用する資格情報を入力するように求められます。その後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM管理コンソールマシンで実行されているWindows 用 Citrix Workspace™ app によって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **スタートメニュー統合**。スタートメニューでアプリケーションショートカットを作成する場所を選択します。デフォルトでは、新しいショートカットはプログラムに作成されます。

オプション

- **アイコンの選択**。アイコンファイルを参照して、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーション実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、任意の有効なアイコンを選択できます。アイコンはデータベースにテキストとして保存されます。
  - **高解像度アイコンのみ**。選択ボックスにHDアイコンのみを表示します。
- **アプリケーションの状態**。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

- **メンテナンスモード**。有効な場合、この設定はユーザーがアプリケーションショートカットを実行するのを防ぎます。ショートカットアイコンは、アイコンが利用できないことを示す警告サインを含むように変更され、ユーザーが起動しようとすると、アプリケーションが利用できないことを知らせる短いメッセージが表示されます。これにより、公開アプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを、アプリケーションショートカットリソースを無効にしたり削除したりすることなく、積極的に管理できます。
- **表示名**。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- **ホットキー**。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します (例): Ctrl + Alt + S。
- **アクションの種類**。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

詳細設定

- **自動自己修復を有効にする**。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。
- **アイコンの場所を強制する**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- **ウィンドウのスタイル**。エンドポイントでアプリケーションが最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。
- **セルフサービスに表示しない**。セッションエージェントがUIモードで実行されているときに、エンドユーザーが利用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリストおよび「アプリケーションの管理」フォームでの非表示が含まれます。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。エンドユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFrontストアに基づくアプリケーションエントリを追加するには、WEM管理コンソールマシンにインストールされているCitrix Workspaceアプリ for Windowsが公開アプリケーションのリストを取得できるように、有効な資格情報を指定する必要があります。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードを開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードを開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

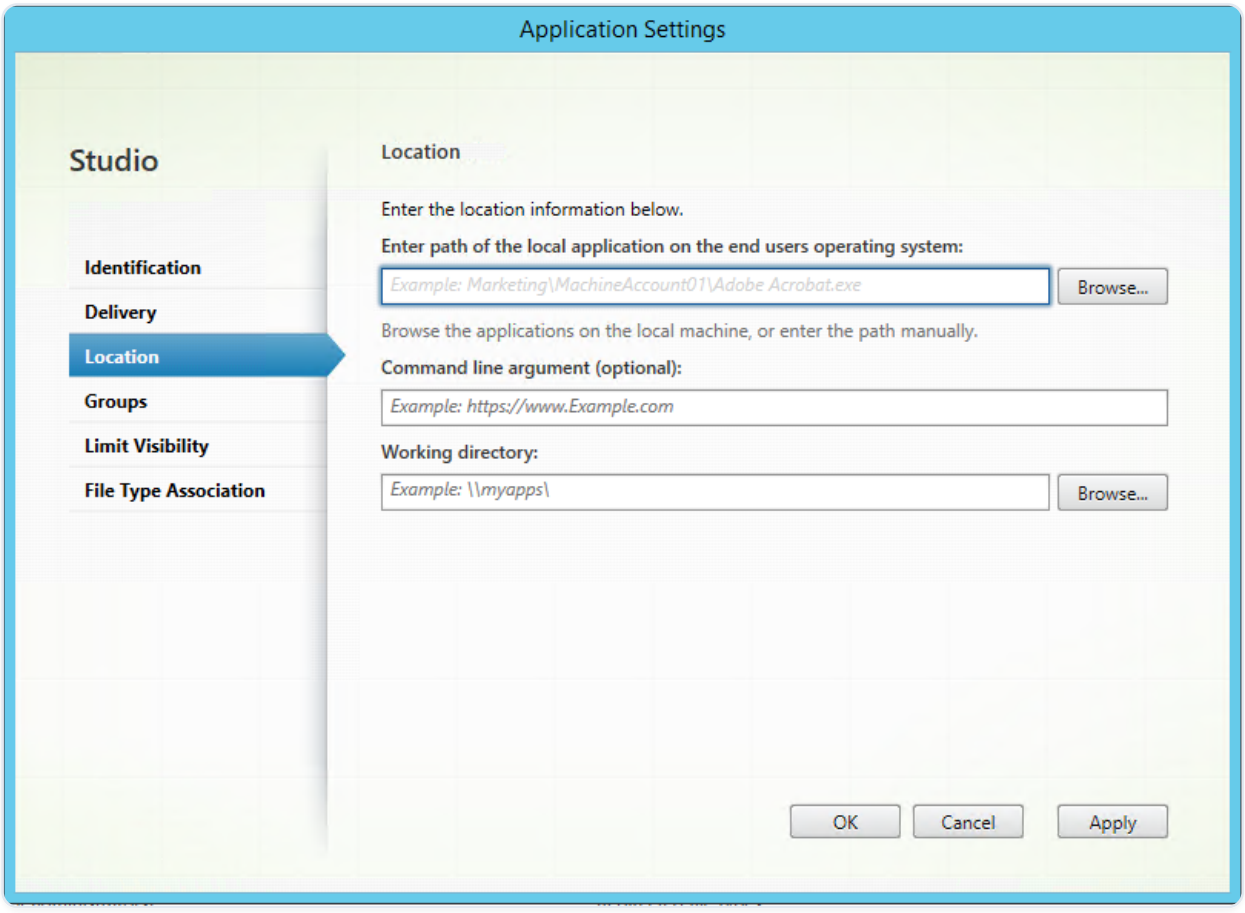
Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生する問題をトラブルシューティングするためのクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMDツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、Citrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが開始される前に、WEMエージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダーにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

> **注:**
>
> 64ビットOSの場合は、代わりに`%ProgramFiles(x86)%`を使用してください。

> Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。これを行うには、次の手順を完了します。

1. Citrix Studio の **>** ページに移動します。



2. エンドユーザーのオペレーティングシステムで、ローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 次のように入力します。`%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`.

3. 開くアプリケーションを指定するためのコマンドライン引数を入力します。

   - **VUEMAppCmd.exe** を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して **iexplore.exe** を起動するとします。その場合は、次のように入力します。`"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`.

プリンター

このタブでは、プリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> より強力なWorkspace Environment Managementアクションを拡張するために、動的トークンを使用できます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリストで、一意のIDが付いています。テキスト文字列に対して名前またはIDでプリンターリストをフィルタリングするには、**検索**を使用できます。リボンにある**ネットワーク印刷サーバーのインポート**を使用してプリンターをインポートできます。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターがユーザーに対して自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。**デバイスマッピングプリンターファイルの使用**の場合、ターゲットパスとしてXMLプリンターリストファイルへの絶対パスを指定します (XMLプリンターリストの構成を参照)。エージェントが更新されると、このXMLファイルを解析して、アクションキューに追加するプリンターを検索します。

プリンターをインポートするには

1. リボンで、**ネットワークプリントサーバーのインポート**をクリックします。
2. **ネットワークプリントサーバーからインポート**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

プリントサーバー名。プリンターをインポートするプリントサーバーの名前です。

代替資格情報を使用する。デフォルトでは、インポートは管理コンソールが現在実行されているWindowsアカウントの資格情報を使用します。このオプションを選択して、プリントサーバーへの接続に異なる資格情報を指定します。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブをユーザーのために自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。デフォルトは「ネットワークドライブのマップ」です。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**

> Workspace Environment Managementアクションを拡張してより強力にするには、動的トークンを使用できます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。
    a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
    b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを終了します。
2. **管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。
    a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
    b. 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
    c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。仮想ドライブは**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
2. エージェントを右クリックして、コンテキストメニューから**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

フィールドとコントロール

一般タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるとおりに、仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリ エントリ

レジストリ エントリの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリ エントリのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリ エントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリ エントリ リストに表示される、レジストリ エントリの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリ エントリが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリ エントリが作成されるレジストリの場所です。Workspace Environment Management は現在のユーザーのレジストリ エントリのみを作成できるため、値の前に %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER を付ける必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリに表示されるレジストリ値の名前です (例: NoNtSecurity)。

ターゲットの種類。作成されるレジストリ エントリの種類です。

ターゲット値。作成されたレジストリエントリの値 (例: 0 または C:\Program Files)

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Managementは、更新のたびにではなく、最初の更新時にのみレジストリエントリを

作成します。これにより、特に多くのレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

1. 管理コンソールで、**アクション** > **レジストリエントリ**に移動します。
2. リボンで、**レジストリファイルのインポート**をクリックします。
3. **レジストリファイルからのインポート**ウィンドウで、**参照**をクリックして該当するレジストリファイルに移動します。
4. **スキャン**をクリックしてレジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択した項目をインポート**をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. **OK**をクリックして、**レジストリファイルからのインポート**ウィンドウを終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg**ファイルに移動して**開く**をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg**ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg**ファイルは、インポートしたいレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。**.reg**ファイルをスキャンし、そのファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg**ファイルに含まれるすべてのレジストリ値を一覧表示します。

インポートされた項目を有効にする。無効になっている場合、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます（例：「XP ONLY」や「finance」）。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**

ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg** ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合（レジストリ値リストに表示されているとおり）、これらのエントリのいずれかを選択してインポートします。他のエントリをインポートする場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

ヒント

動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数を有効または無効に切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントのCOMポートとLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「ポートリダイレクトポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントCOMポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> Workspace Environment Managementアクションをより強力にするために、動的トークンを使用できます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名。

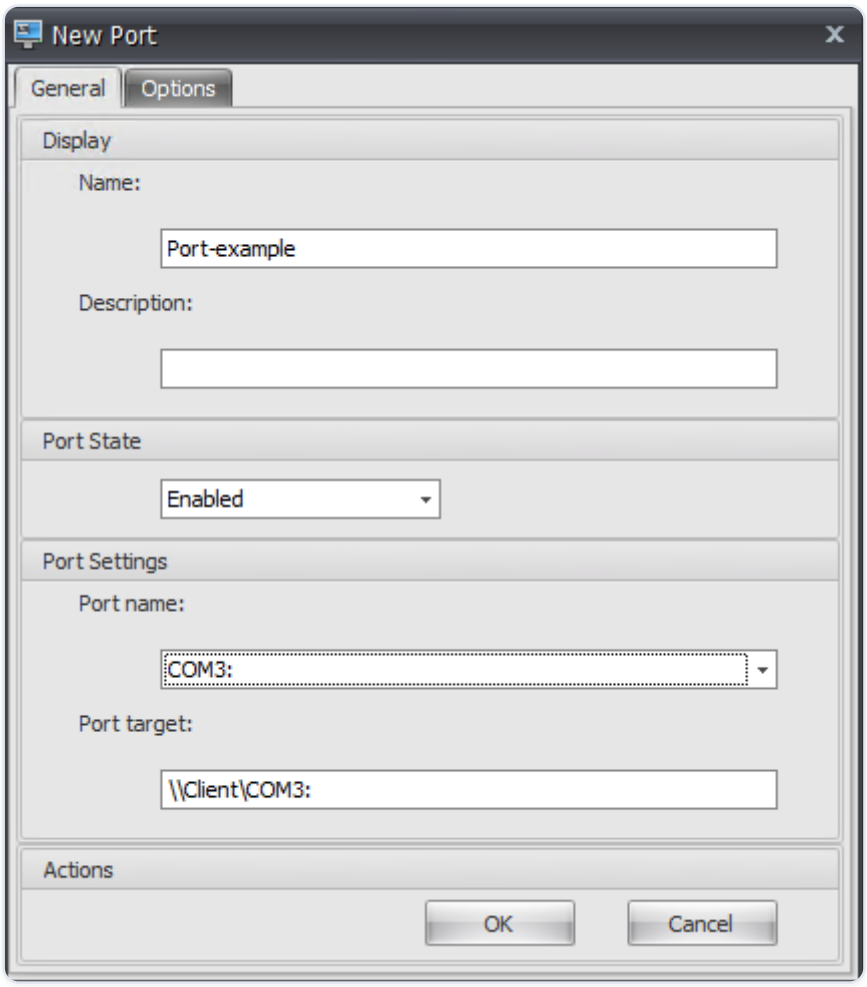
ポートターゲット。ターゲットポート。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

例えば、ポート設定を次のように構成できます。

- **ポート名**：「COM3:」を選択します。
- **ポートターゲット**：`\\Client\COM3:`を入力します。



INIファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できるようにします。

> **ヒント:**

> 動的トークン(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/reference/dynamic-tokens.html)を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

INIファイル操作リスト

既存のINIファイル操作のリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

.iniファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいINIファイル操作**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。**INIファイル操作**リストに表示される.iniファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

INIファイル操作の状態。.iniファイル操作が有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。これは、ユーザーの環境で解決されるときに変更される.iniファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。これは、この操作のターゲットとなる.iniファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、それが作成されます。

ターゲット値の名前。これは、追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは値そのものを指定します。

Run Once. By default, Workspace Environment Management™ performs an .ini file operation every time the agent refreshes. Tick this box to make Workspace Environment Management only perform the operation once, rather than at every refresh. This speeds up the agent refresh process, especially if you have many .ini file operations assigned to your users.

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストがそれらを実行するための対応するプログラムを持っている限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。外部タスクの表示名を指定します。これは外部タスクリストに表示されます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定します。

パス。外部タスクへのパスを指定します。パスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストがタスクを実行するための対応するプログラムを持っていること。

引数。起動パラメーターまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。この文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはタスクを処理しません。

非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、**トリガー**タブでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかに関係なく、WEMはタスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクが正常に実行されることに依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスクというように実行されます。

タスク完了まで待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして構成できます。

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEMエージェントが物理Windowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。このオプションは、Citrix User Logon Serviceが実行されていない限り機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

ユーザープロセストリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。
  - WEMエージェントがUIモードで起動および実行されること。
  - 指定されたプロセスは、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
  - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、**詳細設定 > 構成 > 詳細オプション**タブで**自動更新を有効にする**を必ず選択してください。
- **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが初めてログオフしたときに、WEMエージェントによって `Citrix WEM Agent Logoff.log` という名前のログファイルが作成されます。ログファイルは、ユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。WEMエージェントは、ユーザーがログオフするたびにログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプト（PowerShellスクリプトなど）の場合：

- フォルダーパスまたはスクリプト名のどちらにも空白が含まれていない場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  または、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けについて詳しくは、「ファイルの種類に関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれている場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション（iexplore.exeなど）の場合：

- 「**パス**」フィールドに、以下を入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- 「**引数**」フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードでのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。このオプションがオフで、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行するようになります。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを記述します。**コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作です。シン

ボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 特権を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザーDSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバーです。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQL Serverの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はユーザー DSN を更新ごとにではなく、一度だけ作成するようになります。これにより、特に多くの DSN がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイルの関連付け

> **重要：**

> 構成したファイルタイプの関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが引き続き表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。同様のウィンドウを再度表示させたくない場合は、次の操作を行います: グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされました」という通知を表示しない**ポリシー（**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**）を有効にします。

> ユーザー環境におけるファイルタイプの関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルタイプ関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザの関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer (oleview.exe) を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を参照してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションタイプ（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルの完全なパスを入力します。たとえば、UltraEdit Text Editor の場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。たとえば、次のとおりです。

- 開くアクションの場合、`“%1”`と入力します。
- 印刷アクションの場合、`/p"%1"`と入力します。

既定のアクションとして設定。そのファイル名拡張子の既定として関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

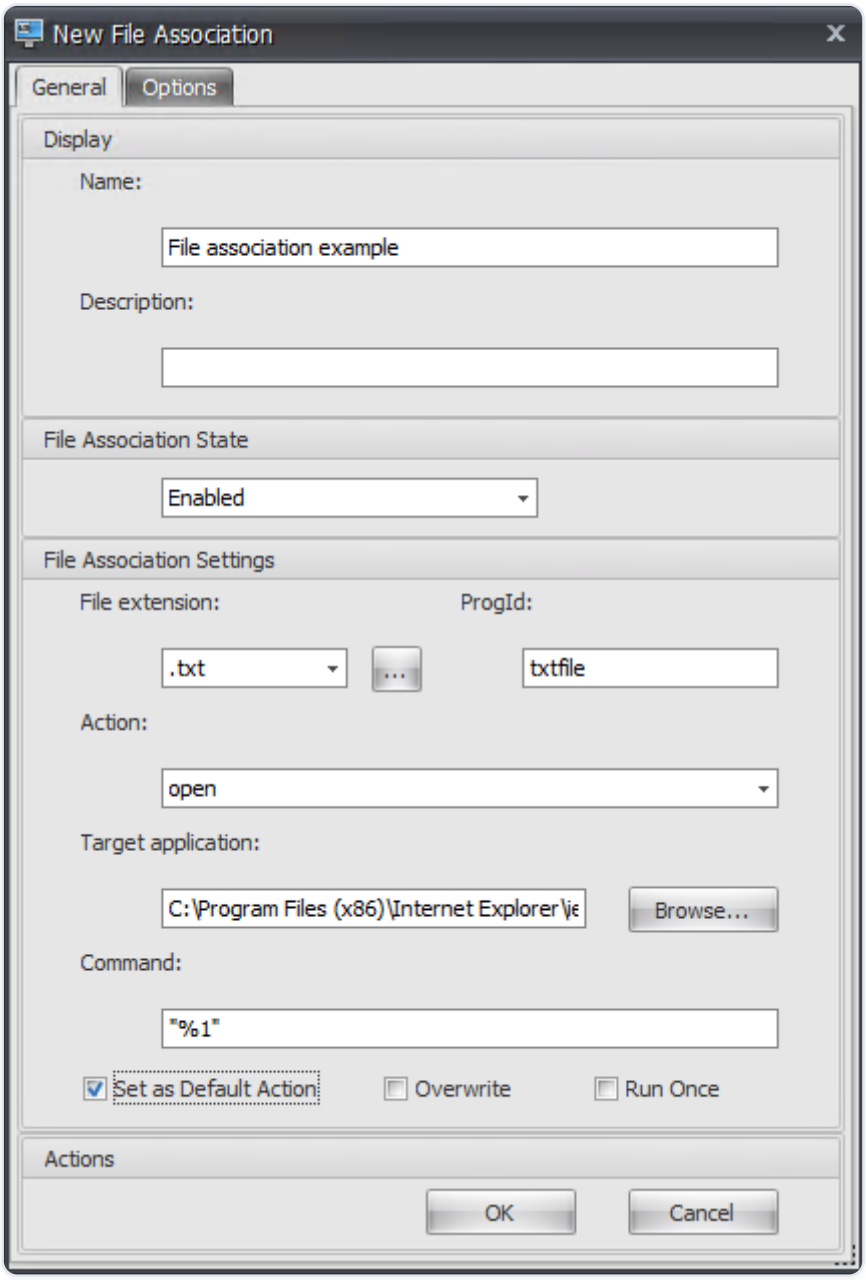
上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが一度だけ作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイル (.txt) を自動的に開くように、テキストファイル (.txt) の新しいファイルタイプ関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。



- **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
- **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
- **アクション**。**開く**を選択します。
- **ターゲットアプリケーション**。**参照**をクリックして、該当する実行可能ファイル（.exeファイル）に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorerフォルダーにあるiexplore.exeを参照します。
- **コマンド**。「%1」と入力し、%1を二重引用符で囲んでください。
- **既定のアクションとして設定**を選択します。

3. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクション割り当て**」タブに移動します。
4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

5. 「**Administration Console \> Administration \> Agents \> Statistics**」タブに移動し、「**Refresh**」をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で.txt拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的にInternet Explorerで開きます。

知っておくと良いこと

ブラウザーの関連付け

WEMは、次のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- ファイアフォックス
- オペラ
- インターネット エクスプローラー (IE)
- マイクロソフト エッジ
- マイクロソフト エッジ クロミウム

ブラウザの関連付けを作成する際は、次の点に注意してください。

- **ファイル拡張子**フィールドに、`http` または `https` と入力します。
- **ProgID**フィールドに、選択に応じて以下を入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chrome の場合は `ChromeHTML`
  - Firefox の場合は `firefox`
  - Opera の場合は `OperaStable`
  - Internet Explorer (IE) の場合は `IE`
  - Microsoft Edge の場合は `edge`
  - Microsoft Edge Chromium の場合は `edge` または `MSEdgeHTM`

プログラム識別子 (ProgID)

アクション、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい**ProgID**を指定できる限り、これらのフィールドは空のままで構いません。一般的なアプリケーションのProgIDのリストを以下に示します。

- アクロバットリーダー DC: `AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザ: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- インターネットエクスプローラー: `htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- マイクロソフト Word 2016: `Word.Document.12`
- マイクロソフト PowerPoint 2016: `PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト Publisher 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合には、フィールド（**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**）に入力する必要があります。

- 正しい**ProgID**を提供できない場合。
- ターゲットアプリケーション（例: UltraEdit Text Editor）が、インストール中にレジストリに独自のProgIDを登録しない場合。

フィルター

フィルターには、ユーザーがアクションを利用できるようにする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルター規則リスト

既存のルールの一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター規則を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター規則**ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示されるルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター規則の状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、エージェントは、割り当てられていてもこのルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注: **DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を期待します。

複数の値はセミコロン (;) で区切り、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済み条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**

> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、それらすべてがトリガーされる必要があります。

条件

条件とは、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成できる特定のトリガーです。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルター処理できます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名です。

説明。このフィールドは編集/作成ウィザードにのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件タイプ。使用するフィルター条件のタイプです。「フィルター条件」を参照してください。注: 「常にTrue」条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件に対する特定の設定です。「フィルター条件」を参照してください。

> **注:**

> IPアドレスを入力する際、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

> If you specify a range, both bounds must be specified in full. Use the dash character (**-**) to separate IP range bounds (for example **192.168.10.1-192.168.10.5**). Separate multiple ranges or addresses using the semicolon character (**;**) . For example, **192.168.10.1-192.168.10.5;192.168.10.8-192.168.10;192.168.10.17** is a valid value which includes the ranges **.1-.5** and **.8-.10**, plus the individual address **.17**.

割り当て

> **ヒント:**

ユーザーにアクションを割り当てる前に、以下の手順を記載されている順序で実行してください。

- ユーザーを構成します。Active Directoryオブジェクトのユーザーを参照してください。
- 条件を定義します。条件を参照してください。
- フィルター規則を定義します。規則を参照してください。
- ここで説明されているアクションを構成します。

割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (Active Directoryオブジェクトのユーザーを参照)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューに表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

ヒント:

Active Directory内のすべてのユーザーにアクションを割り当てるのを簡素化するには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**アクションモデリングウィザード**の**結果のアクション**タブには表示されません。たとえば、「Everyone」デフォルトグループにaction1を割り当てた後、action1が**結果のアクション**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当てることができるアクションを表示します。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除します。アクションを割り当てると、そのコンテキストを設定するための規則を選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます (アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など)。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー**リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、割り当てリストが入力されます。
2. **利用可能**リストで、アクションを選択し、右矢印 (>) ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て**ダイアログで、**フィルター ルール**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**で、**有効化**および**無効化**コンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

> **注:**
>
> **スタートメニューにピン留め**オプションが機能するには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダーに存在することを確認してください。不明な場合は、**スタートメニューの作成**オプションも有効にしてください。

> たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。**有効化**オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときにメモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードは、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、以下の要素で構成されています。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- シトリックス オプティマイザー

これらの設定は、エージェントホストでのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用できるようになります。同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、あるプロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAに対してのみ記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作は、ユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM) では、**CPU管理設定**により、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU全体の使用量を削減するようには設計されていません。これは、過剰な割合のCPU使用量を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、そのプロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度の低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間内に指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えるまで、CPUスパイク保護はトリガーされません。つまり、CPU全体の消費量が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントCPU最適化を有効にする」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

例えば、Internet Explorerが時々CPUの50～60%を消費している場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かしているiexplore.exeインスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、ご使用の環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試してみることをお勧めします。

CPUスパイク保護

> **注:**
>
> - 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシン内の「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。例えば、1つの6コアCPUを搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（ハイパースレッディングテクノロジーはコアが2倍になることを意味します）。8個のCPUを搭載し、それぞれ12コアを持つ物理マシンは、96個の論理プロセッサを持ちます。2つの4コアCPUで構成されたVMは、8個の論理プロセッサを持ちます。
> - 仮想マシンにも同じことが当てはまります。例えば、8個のCPUを搭載し、それぞれ12コア（96個の論理プロセッサ）を持つ物理マシンがあり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは2つの4コアCPU（8個の論理プロセッ

> サ）で構成されています。VMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用率の制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しないでください。

> **CPUスパイク保護を有効にする**。プロセスが一定期間（**サンプル時間制限**フィールドで指定）に指定されたCPU使用率を超えた場合、一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）プロセスのCPU優先度を下げます。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。このオプションを使用して、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。例えば、4コアがある場合を想定します。このオプションを有効にすると、CPU全体の使用率が23%を超えた場合、CPUリソース全体の15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、CPU全体の使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。
- **CPUスパイク保護のカスタマイズ。** CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限。** CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際に、CPU使用率が加算されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、多数のiexplore.exeインスタンスがあるとします。各インスタンスは一定期間、CPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率の制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
  - **サンプル時間の制限。** プロセスのCPU優先度が下げられるまでに、そのプロセスがCPU使用率の制限を超過し続ける必要がある時間。
  - **アイドル優先度時間。** プロセスのCPU優先度が下げられる時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
    - **CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル（**通常**）。
    - **CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかに関わらず、指定されたレベル。

    - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、**CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率の制限を有効にする。 CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの範囲の整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで、分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率の制限。** CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。 有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- エスブイシーホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオディージー
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコーアエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護

を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

ヒント:

- セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐために、ウイルス対策プロセスに対して静的なI/O優先度を「低」に設定することもできます。I/O管理を参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスCPU優先度が低下すると、WEMはプロセスのCPU優先度を低下させるたびに警告をログに記録します。イベントログの「アプリケーションとサービスログ」にある「WEM Agent Service」で、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化し、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。そのため、全体的なCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高い場合があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。複数のプロセスがコンピューター上で実行されている場合、プロセッサ時間はそれらのCPU優先度レベルに基づいて共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

注:

特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、全体的なCPU消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（より高いCPU優先度を持つ）が、依然としてCPU使用率に影響を与えている可能性があります。

プロセス優先度を有効にする。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスCPU優先度の追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

   プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

   CPU優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度です。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間を得られます。リアルタイム、高、通常以上、通常、通常以下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、**編集**をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、**削除**をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたNotepadのすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く抑えるには、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てると同時に、CPUスパイク保護を使用する方が適切です。CPUクランプは、リソース管理が非常に苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。
- プロセスのCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した後、変更を有効にするには、**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

構成するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUの10%はCPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセス クランプを有効にする。プロセス クランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名（例: notepad.exe）でプロセスを追加します。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

ヒント:

- WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- CPUクランプが機能していることは、プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することでも検証できます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM はその差を余剰メモリと見

なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用できます。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する。指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余剰メモリを解放させます。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余剰メモリの解放を強制されるまでの時間を指定できます。この間、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされる CPU 使用率のしきい値を指定できます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

合計利用可能メモリが超過した場合に最適化しない (MB)。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。

メモリ使用量最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します (例: notepad.exe)。

WEM は、次のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`

- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

メモリ使用量制限

特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする。プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告：**
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度の低下など、意図しない影響が生じる可能性があります。

- **追加。**メモリ使用制限を適用するプロセスを追加できます。
- **削除。**項目を削除できます。
- **編集。**項目を編集できます。

- **動的制限**。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが指定量を超える場合があります。
- **静的制限**。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定されたメモリ量を超えて消費することを制限します。結果として、指定したプロセスが消費するメモリは指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > メモリ管理 > メモリ使用制限**タブで、**追加**をクリックします。
2. **プロセスの追加**ウィンドウで、追加するプロセスの名前（例：notepad.exe）を入力し、メモリ使用制限を設定し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、**OK**をクリックします。

項目を編集するには、項目を選択して**編集**をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して**削除**をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して**動的制限**をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して**静的制限**をクリックします。

I/O管理

これらの設定を使用すると、特定のプロセスのI/O優先度を最適化できます。これにより、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすのを防ぎます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。一般に、Windowsは、優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O優先度

プロセスI/O優先度を有効にする。プロセスI/O優先度の手動設定を有効にします。

I/O優先度リストにプロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスI/O優先度の追加**ダイアログに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

I/O優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。高、標準、低、非常に低から選択します。

プロセスI/O優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、**編集**をクリックします。

I/O優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、**削除**をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたように見えます。ただし、セッション自体はVDA上でバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。高速ログオフから特定のユーザーグループを除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizer は、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させます。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。これを行うには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM) に追加します。

カスタマイズできるテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、都合の良いフォルダにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして特定の要件を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizer を有効にする。Citrix Optimizer を有効にするか無効にするかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。WEMは、後でそのテンプレートに変更を加えない限り、最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動させることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

> **注:**

非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択。どのテンプレートを使用すべきかわからない場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なものを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。異なる名前形式のカスタムテンプレートが利用可能な場合は、このオプションを使用します。コンマ区切りのプレフィックスリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- **削除**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- **編集**。既存のテンプレートを編集できます。
- **プレビュー**。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリの項目別ビューを表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer**タブで、「**追加**」をクリックします。
2. 「**新しいカスタムテンプレート**」ウィンドウで、「**参照**」をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当するOSを選択し、テンプレートに含まれるグループを設定してから、「**OK**」をクリックします。

重要：

- Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。追加後、カスタムテンプレートのローカルコピーを保持してください。

> テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、「**編集**」をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、「**削除**」をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、「**プレビュー**」をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名。

適用可能なOS。オペレーティングシステムのリスト。テンプレートが適用される1つ以上のオペレーティングシステムを選択します。リストにないWindows 10 OSに適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例：2001;2004。

> **重要：**
>
> - 同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。

> **グループ**。「**利用可能**」ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizer の設定の変更が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL 設定の更新遅延**オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**管理 > エージェント > 統計**タブのコンテキストメニューに移動し、**Citrix Optimizer の処理**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Citrix Optimizer の処理**を選択する前に、**エージェントホスト設定の更新**を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

マルチセッションOSマシンは、1台のマシンから複数のセッションを実行し、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを配信します。切断されたセッションはアクティブなままで、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッションの最適化を有効にする。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままであると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/O優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

指定されたグループを除外する。マルチセッションの最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも1つのグループを指定してください。

指定されたプロセスを除外する。マルチセッションの最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも1つのプロセスを指定してください。

ポリシーおよびプロファイル

これらの設定を使用すると、ユーザーGPOを置き換えたり、ユーザープロファイルを構成したりできます。

- 環境設定
- Microsoft USV 設定
- Citrix プロファイル管理 設定

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理され、その他のオプションはエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定を処理する。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外する。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによってどのスタートメニュー機能が無効になるかを制御します。

> **重要：**

> Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー**の下のオプションは、**システムクロックを非表示にする**と**コンピューターの電源を切るを非表示にする**を除いて、機能しない場合があります。

> **ユーザーインターフェイス: 外観**。これらの設定により、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによってどのデスクトップ要素が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定により、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによってどのWindowsエクスプローラー機能が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションにより、**regedit**または**cmd**へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラー内の特定の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピューターメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーからの指定ドライブの制限。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションも、それらにアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsのコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているもの以外のすべてのコントロールパネルアプレットがユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

正規名とともに、一般的なコントロールパネルアプレットを参照してください。

既知のフォルダーの管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

SBC/HVD (Session-Based Computing/Hosted Virtual Desktop) チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションはユーザーエクスペリエンスをわずかに低下させる可能性があります。

ユーザー環境: 詳細チューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

フルウィンドウのドラッグを無効にする。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にする。ページを閲覧する際のスムーズスクロール効果を無効にします。

カーソル点滅を無効にする。カーソルの点滅効果を無効にします。

最小化/最大化アニメーションを無効にする。ウィンドウの最小化または最大化時のアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にする。タイムアウトしたタスクを自動的に終了します。

WaitToKillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値（ミリ秒単位）。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソル点滅速度の設定。カーソルの点滅速度を変更します。

メニュー表示遅延の設定。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

インタラクティブ遅延の設定。サブメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

マイクロソフト USV 設定

これらの設定により、Microsoftユーザー状態仮想化（USV）を最適化できます。

移動プロファイル構成

これらの設定により、Workspace Environment ManagementとMicrosoft移動プロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントがUSV設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成したUSV設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **移動プロファイル構成**タブと**移動プロファイル詳細構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windows移動プロファイルパスの設定。Windowsプロファイルへのパスを指定できます。

RDS移動プロファイルパスの設定。RDS移動プロファイルへのパスを指定できます。

RDSホームドライブパスの設定。RDSホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

移動プロファイル詳細構成

以下は、移動プロファイルの高度な最適化オプションです。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループを移動ユーザープロファイルに追加。有効にすると、管理者グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは操作を実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出がスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダに移動し、**プロファイルフォルダをスキャン**をクリックしてから、プロファイルクリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダを選択します。その後、**プロファイルをクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。このボタンは、フォルダ除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダ。ユーザープロファイルのルートフォルダです。必要に応じて、このフォルダを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダリダイレクト

フォルダリダイレクト構成を処理。このチェックボックスは、エージェントがフォルダリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダがリダイレクトされるかどうか、およびどこにリダイレクトされるかを制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダを削除。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダのローカルコピーを削除します。

シトリックス プロファイル管理の設定

> **注:**
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンのProfile Managementでのみ機能します。詳細については、Profile Managementのドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、Citrix Profile Management の現在のバージョンの機能と操作をサポートしています。WEM 管理コンソールでは、**Citrix Profile Management 設定** (ポリシーとプロファイル内) が、Citrix Profile Management の現在のバージョンのすべての設定の構成をサポートしています。

WEM を使用して Citrix Profile Management の機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用することもできます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

主な Citrix Profile Management の設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理されたグループ、除外されたグループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management 構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントに展

開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management 設定はエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にする。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Management を完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management を有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでには、詳細設定で**SQL 設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントのProfile Management設定をリセットします。管理を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management 構成を有効にする**チェックボックスをオフにします。

処理されたグループを設定する。Profile Management によって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみが Profile Management 設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外されたグループを設定する。Profile Management から除外されるグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、ローカル管理者のログオンは、Profile Management の非管理者ログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定。ユーザー ストア フォルダーへのパスを指定できます。

ユーザー ストアを移行。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。このオプションは、「**ユーザー ストアへのパスを設定**」オプションと組み合わせて使用します。

アクティブなライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

アクティブなライトバック レジストリを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリ エントリがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

オフライン プロファイル サポートを有効にする。有効にすると、接続されていない間も使用できるようにプロファイルがローカルにキャッシュされます。

プロファイル コンテナー設定

これらのオプションは、Profile Management のプロファイル コンテナー設定を制御します。

プロファイル コンテナーを有効にする。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイル ディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカル プロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイル コンテナーに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイル コンテナーのフォルダー除外を有効にする。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをプロファイル コンテナーから除外します。プロファイル コンテナーから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイル コンテナーのフォルダー包含を有効にする。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイル コンテナー内に保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。これは、このオプションを「**プロファイル コンテナーのフォルダー除外を有効にする**」オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイル コンテナーに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイル コンテナーのローカル キャッシュを有効にする。有効にすると、各ローカル プロファイルは、そのプロファイル コンテナーのローカル キャッシュとして機能します。プロファイル ストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。そうでない場合は、ユーザーのログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザー プロファイル全体をそのプロファイル コンテナーに配置します。この設定は、Citrix Profile Management プロファイル コンテナーにのみ適用されます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Management のプロファイル処理を制御します。

ログオフ時にローカル キャッシュ プロファイルを削除する。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定。ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延（秒単位）を指定できます。

既存プロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルは自動的に移行されます。Profile Managementは、ユーザーがログオンし、ユーザー ストアにユーザープロファイルがない場合に移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Profile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合のCitrix Workspace™ Environment Managementの処理方法を構成します。

テンプレートプロファイルを有効にする。有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix必須プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

これらのオプションは、Profile Managementの詳細設定を制御します。

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。

MFTキャッシュファイルのディレクトリを設定する。MFTキャッシュファイルのディレクトリを指定できます。このオプションは*非推奨*であり、将来的に*削除*されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にする。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理が定義されます。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成について詳しくは、「定義ファイルの作成」を参照してください。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

リダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーが削除されます。

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合に、ユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなくログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名の統計情報と使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIP の詳細については、「Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) について」を参照してください。

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダーファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。これにより、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元**。有効にすると、Profile Management は、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Management はそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合に、データベースを手動で再インデックスする必要がなくなります。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。有効にすると、Profile Management は、FSLogix Profile Container と Citrix Profile Management プロファイルコンテナの両方で、マルチセッションシナリオでの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Management は、 オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが長くなる可能性があります。この機能は現在、完全なコンテナソリューションをサポートしていません。

VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズする。VHDX ファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザーストアに保存されます。VHDX ファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlook の検索インデックスローミング、フォルダーミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーの VHDX ファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダーに保存されます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management のログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management 操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定を構成する。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定する。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルへのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Management のレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT バックアップ。選択すると、Profile Management は NTUSER.DAT ファイルの最後に正常に認識されたバックアップを保持します。Profile Management が破損を検出した場合、最後に正常に認識されたバックアップ コピーを使用してプロファイルを回復します。

既定の除外リストを有効にする。HKCU ハイブ内のレジストリキーの既定のリストで、ユーザープロファイルに同期されません。選択すると、このリストで選択されたレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの包含を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Management プロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Management のファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを構成します。（無効になっている場合、既定の動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です）。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する（既定）。ユーザーがログオンすると、Profile Management はこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

既定の除外リストを有効にする - ディレクトリ。同期中に無視されるディレクトリの既定のリスト。選択すると、このリストで選択されたフォルダーはProfile Managementの同期から除外されます。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザーのProfile Managementプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがProfile Managementプロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、既定のWindows 7の除外が事前に入力されており、代わりに既定のWindows XPの除外を事前に入力することもできます。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのProfile Managementプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがProfile Managementプロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、既定のWindows 7の除外が事前に入力されており、代わりに既定のWindows XPの除外を事前に入力することもできます。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーのスキャン**をクリックしてから、**プロファイルクリーナー**ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルのクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルのクリーンアップ。フォルダー除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーのスキャン。指定されたフォルダーを、指定された再帰設定でスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルのルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

同期

これらのオプションは、プロファイル管理の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、一覧表示されたフォルダーがユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、一覧表示されたファイルがユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルがユーザー ストアに保持されます。

フォルダーミラーリングを有効にする。有効にすると、一覧表示されたフォルダーはログオフ時にユーザー ストアにミラーリングされ、ミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと同じであることを保証します。フォルダーミラーリングの仕組みについては、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されているかどうかにかかわらず、セッションログオフ時にユーザー ストアに保存されているファイルを常に上書きします。
- ミラーリングされたフォルダー内のローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルとサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

大容量ファイル処理を有効にする。有効にすると、大容量ファイルはユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でそれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**
>
> 一部のアプリケーションでは、同時ファイルアクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮に入れることをお勧めします。

ストリーム配信ユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーム配信ユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅を節約し、ファイルの同期時間を短縮できます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ（MB単位）以上のファイルは常にキャッシュされます。

保留領域ロックファイルのタイムアウトを設定する: サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合、指定された時間後にファイルが保留領域からユーザーストアに書き戻されるようにファイルを解放します。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループを設定する。このリストは、ストリーミングされたプロファイルがどのユーザーグループで使用されるかを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする。選択すると、Profile Managementはこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザーストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定する。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定する。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定する。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定作成のソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要：**

> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLocker インターフェイスまたは Workspace Environment Management を使用します。これらのアプローチはい

> つでも切り替えることができますが、両方のアプローチを同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能は Windows AppLocker に似ています。

Workspace Environment Management を使用して Windows AppLocker ルールを管理する場合、エージェントは タブのルールをエージェントホスト上の Windows AppLocker ルールに処理 (変換) します。エージェントによるルール処理を停止しても、ルールは構成セットに保持され、AppLocker はエージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在の Workspace Environment Management 構成セットのアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

セキュリティタブでトップレベル項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、ルール処理を有効または無効にするための次のオプションが使用可能になります。

- **アプリケーションセキュリティルールを処理する**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上の AppLocker ルールに変換します。選択しない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールを AppLocker ルールに処理しません。(この場合、AppLocker ルールは更新されません。)

  > **注:**
  >
  > このオプションは、Workspace Environment Management 管理コンソールが Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 (またはそれ以前のバージョン) にインストールされている場合は使用できません。

- **DLL ルールを処理する**。選択すると、エージェントは現在の構成セットの DLL ルールをエージェントホスト上の AppLocker DLL ルールに処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールを処理する**を選択した場合にのみ使用できます。

  > **重要：**

> DLL ルールを使用する場合は、許可されているすべてのアプリで使用される各 DLL に対して、「許可」権限を持つ DLL ルールを作成する必要があります。

> **注意:**

> DLL ルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。これは、AppLocker がアプリがロードする各 DLL を実行が許可される前にチェックするためです。

- **上書き**および**マージ**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を決定できます。
  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数が示されます（例：(12)）。コレクション名をクリックすると、ルールリストが次のいずれかのコレクションにフィルタリングされます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。次の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。
- **パッケージルール**。ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれるパッケージアプリを含むルール。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージアプリのパブリッシャールールのみをサポートします。
- **DLLルール**。次の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、**ルール適用**オプションを使用して、AppLockerがそのコレクション内のすべてのルールをエージェントホストにどのように適用するかを制御できます。次のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールが作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールが作成され、「適用」に設定されます。これは、ルールがエージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、「監査」に設定されます。これは、ルールがエージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリは実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。
2. AppLockerからエクスポートされた、AppLockerルールを含むXMLファイルを参照します。
3. **インポート** をクリックします。

ルールがアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「Executable Rules」コレクションを選択します。
2. をクリックします。
3. セクションで、次の詳細を入力します。
   - 。ルールリストに表示されるルールの表示名です。
   - 。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. セクションで、オプションをクリックします。
   - 。ルールはファイルパスまたはフォルダーパスに一致します。

- 。ルールは選択した発行元に一致します。
- 。ルールは特定のハッシュコードに一致します。

5. セクションで、このルールがアプリケーションの実行を するか するかをクリックします。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、 ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「Assigned」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、 を使用してすべての行を選択できます。
> - ユーザーはすでにWorkspace Environment Management Usersリストに登録されている必要があります。
> - ルールは作成後に割り当てることができます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する条件を指定します。

   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーを選択した場合、ルールはそのフォルダー内およびその下のすべてのファイルに一致します。
   - **発行元**。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定し、 スライダーを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
   - **ハッシュ**。ハッシュを作成したいファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。

9. **次へ**をクリックします。
10. 必要な例外を追加します (オプション)。 で、例外タイプを選択し、**追加**をクリックします。(必要に応じて例外を**編集**および**削除**できます。)
11. ルールを保存するには、**作成**をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターで、ルールを割り当てたいユーザーおよびユーザーグループを含む行を選択し、**OK**をクリックします。**すべて選択**を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールを全員から割り当て解除することもできます。

注: 複数のルールを選択して**編集**をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーおよびユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当ては、それらのルール間でマージされます。

デフォルトルールを追加するには

デフォルトルールの追加をクリックします。AppLockerのデフォルトルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターが表示され、選択した項目に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**削除**をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドで作成されたXMLファイルから、アプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに一覧表示されます。

復元プロセス中に、現在の構成セットのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。不一致のルールは復元されます

が、割り当てられていないままになります。復元後、それらはCSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1\. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。

2\. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。

3\. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。

4\. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

5\. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。ルールを復元し、現在の構成セットの同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てられていないままにします。

6\. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたはブロックリストに追加できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリスト上のプロセスが有効かどうかを切り替えます。無効にすると、**プロセスブラックリスト**および**プロセスホワイトリスト**タブの設定は考慮されません。

> **注:**
>
> このオプションは、セッションエージェントがユーザーセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、**メイン構成**エージェント設定を使用して、ユーザー/セッションタイプに応じて起動する**エージェントの起動**オプション（**ログオン時/再接続時/管理者向け**）を設定し、**エージェントタイプ**を「UI」に設定します。これらのオプションについては、詳細設定で説明されています。

プロセスブロックリスト

これらの設定により、特定のプロセスをブロックリストに追加できます。

プロセスブラックリストを有効にする。ブロックリスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能ファイル名（例：cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。許可リスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能ファイル名（例：cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。**注** 有効にすると、**プロセスホワイトリストを有効にする**は、許可リストにないすべてのプロセスを自動的にブロックリストに追加します。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

特権昇格

> **注:**
>
> この機能はCitrix仮想アプリには適用されません。

> 特権昇格機能を使用すると、非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格

セキュリティで**特権昇格**ペインを選択すると、次のオプションが表示されます。

- **特権昇格設定の処理**。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、**特権昇格**タブの他のオプションが利用可能になります。

- **Windows Server OSには適用しない**。特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンでは機能しません。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **RunAsInvokerを強制する**。すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このタブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**実行可能ファイルルール**または**Windowsインストーラールール**をクリックして、ルールリストを特定のルールタイプにフィルタリングします。**検索**を使用してリストをフィルタできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ファイルルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して適用できます。

- **実行可能ファイルルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsインストーラールール**。アプリケーションに関連付けられた.msiおよび.msp拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp` Windowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ファイルルールに一致するとします。指定された実行可能ファイルルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された特権を取得できません。

実行可能ファイルルールまたは**Windowsインストーラールール**タブをクリックすると、**アクション**セクションに次の利用可能なアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ファイルルールを編集できます。
- 「**削除**」。既存の実行可能ルールを削除できます。
- 「**ルールの追加**」。実行可能ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. 「**実行可能ルール**」または「**Windowsインストーラールール**」に移動し、「**ルールの追加**」をクリックします。「**ルールの追加**」ウィンドウが表示されます。
2. 「**表示**」セクションで、次の情報を入力します。
   - 「**名前**」。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
   - 「**説明**」。ルールに関する追加情報を入力します。
3. 「**種類**」セクションで、オプションを選択します。
   - 「**パス**」。ルールはファイルパスに一致します。
   - 「**発行元**」。ルールは選択した発行元に一致します。
   - 「**ハッシュ**」。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
4. 「**設定**」セクションで、必要に応じて、次の項目を構成します。
   - 「**子プロセスに適用**」。選択すると、実行可能ファイルが開始するすべての子プロセスにルールが適用されます。より詳細なレベルで特権昇格を管理するには、次のオプションを使用します。
     - 「**同じフォルダー内の実行可能ファイルにのみ適用**」。選択すると、同じフォルダーを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - 「**署名された実行可能ファイルにのみ適用**」。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは機能しません。

> **注:**
>
> Windows インストールルールを追加すると、**子プロセスに適用**設定がデフォルトで有効になり、編集できません。

   - **開始時刻**。エージェントがルールの適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。

- **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。指定された時刻以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **パラメータの追加**。指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致条件として機能します。指定するパラメータが正しいことを確認してください。この機能の使用例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空であるか、空白のみが含まれている場合、エージェントは、パラメータの有無にかかわらず、関連する実行可能ファイルに特権昇格を適用します。
- **正規表現を有効にする**。正規表現を使用して条件をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 通常の Windows 選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - ルールは後で（ルール作成後に）割り当てることもできます。

6. **次へ**をクリックします。
7. 次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプによって、必要なアクションが異なります。

> **重要：**
>
> WEM には、実行可能ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得するための **AppInfoViewer** というツールが用意されています。このツールは、管理コンソールで構成するアプリケーションの関連情報を提供する場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションセキュリティ機能を使用する際に、アプリケーションから関連情報を抽出す

るためにこのツールを使用できます。このツールはエージェントのインストールフォルダにあります。

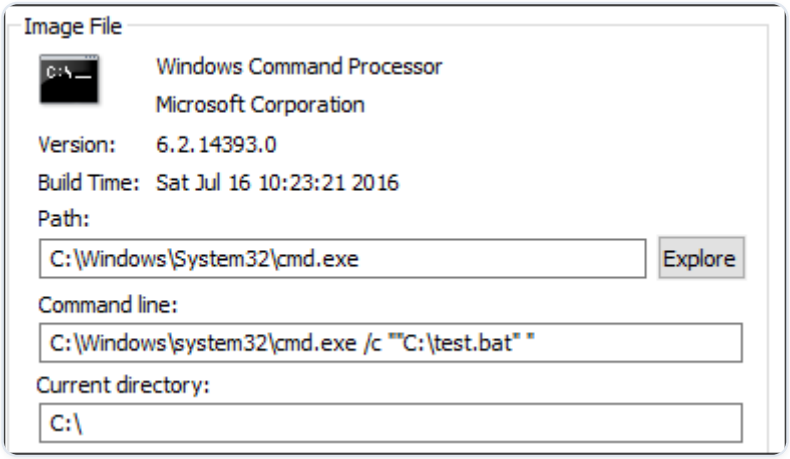
- **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEM エージェントは、 実行可能ファイルのパスに従って実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。次のフィールドに入力します: **発行元**、**製品名**、**ファイル名**、**ファイルバージョン**。どのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEM エージェントは、発行元情報に従ってルールを適用します。適用されると、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
- **ハッシュ**。**追加**をクリックしてハッシュを追加します。**ハッシュの追加**ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppInfoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

8. 「**作成**」をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメーターで実行される実行可能ファイル

指定されたパラメーターに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメーターは一致基準として機能します。実行可能ファイルで利用可能なパラメーターを確認するには、Process ExplorerやProcess Monitorなどのツールを使用します。それらのツールに表示されるパラメーターを適用します。

実行可能ファイルのファイルパスに従って、実行可能ファイル（例: cmd.exe）にルールを適用するとします。特権昇格を`test.bat`にのみ適用したいとします。Process Explorerを使用してパラメーターを取得できます。



「**パラメーターの追加**」フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、「**パス**」フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定されたユーザーの特権は、`test.bat`に対してのみ管理者レベルに昇格されます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションの「**編集**」をクリックします。「**ルールの編集**」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションの「**削除**」をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべての特権昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。「**復元**」を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで利用できる「**バックアップ**」ウィザードを使用します。「**バックアップ**」ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

特権昇格ルールを復元するには

Workspace Environment Managementバックアップウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、特権昇格ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > 特権昇格**ペインに切り替えるか更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、特定の実行可能ファイルを事前に提供することなく、特定のユーザーの特権昇格を自動化できます。これらのユーザーは、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**を選択するだけで、該当するファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。WEMエージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

自己昇格は、次の形式のファイルに適用されます: `.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`、および`.vbs`。

> **注:**
>
> デフォルトでは、特定のアプリケーションが一部のファイルの実行に使用されます。たとえば、cmd.exeは.cmdファイルを実行するために使用され、powershell.exeは.ps1ファイルを実行するために使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更することはできません。

> **セキュリティ > 自己昇格**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **自己昇格を有効にする**。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。このオプションを選択して、次の操作を行います。
  - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
  - **自己昇格**タブの他のオプションを使用できるようにします。
  - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**オプションを使用できるようにします。その結果、ユーザーは**自己昇格**タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- **権限**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。
  - **許可**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
  - **拒否**。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。
- 次の操作を実行できます。
  - **編集**。既存の条件を編集できます。
  - **削除**。既存の条件を削除できます。
  - **追加**。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。
- **設定**。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。

    - **子プロセスに適用**。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件が適用されます。
    - **開始時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
    - **終了時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。

- **割り当て**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。すべてのユーザーとユーザーグループに条件を割り当てるには、**すべて選択**をクリックするか、**全員**を選択します。**すべて選択**チェックボックスは、選択をクリアしてユーザーとユーザーグループを再選択したい場合に便利です。

特権昇格アクティビティの監査

WEMは、特権昇格に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子関係のシナリオで、特定の子プロセスが親プロセスから開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することでルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> **注:**
>
> - この機能はCitrix仮想アプリにのみ適用されます。

ルールの仕組みを理解するために、次の点に留意してください。

- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
    - ルール1: WordはCMDを開くことができません。

- ルール2: メモ帳はCMDを開くことができます。

この2つのルールがある場合、ルールの優先度に関係なく、まずWordを開き、次にWordからメモ帳を開くことで、メモ帳からCMDを開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorerツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Citrix Studioで**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe**は、公開アプリケーションが開始する前にWEMエージェントが設定の処理を完了することを保証します。Citrix Studioで、次の手順を完了します。

1. **アプリケーション**で、アプリケーションを選択し、アクションペインで**プロパティ**をクリックしてから、**場所**ページに移動します。
2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
   - **実行可能ファイルへのパス**フィールドに、次のように入力します: <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。
3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。
   - **コマンドライン引数**フィールドに、**VUEMAppCmd.exe**を介して起動したいアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介してiexplore.exeを起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。（このツールはエージェントのインストールフォルダにあります。）このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。機能が有効になっている場合、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後にエージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで**レジストリエディター**を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。
- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたはクリーンインストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **プロセス階層制御を有効にする**。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、「**プロセス階層制御**」タブの他のオプションが利用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開で*のみ*使用できます。
- **コンテキストメニューから「プログラムから開く」を非表示にする**。Windowsの右クリックコンテキストメニューから**プログラムから開く**オプションを表示するか非表示にするかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く**オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。アプリケーションが現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクションセクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールを追加**をクリックします。**ルールを追加**ウィンドウが表示されます。
2. 「**表示**」セクションで、以下を入力します。
   - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
   - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. 「**種類**」セクションで、オプションを選択します。
   - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. 「**モード**」セクションで、以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **子プロセスをブロックリストに追加**。選択すると、親プロセスのルールを設定した後、該当する子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストは、指定したプロセスのみの実行を禁止し、他のプロセスは実行を許可します。
   - **子プロセスを許可リストに追加**。選択すると、親プロセスのルールを設定した後、該当する子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストは、指定したプロセスのみの実行を許可し、他のプロセスは実行を禁止します。

> **注:**
>
> プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. 「**優先度**」セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定する際は、次の点を考慮してください。優先度は、設定したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど

優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。

6. 「**割り当て**」セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーとユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **注:**
>
> - 複数の選択を行うには、通常のWindows選択キーを使用できます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - 後で（ルール作成後に）ルールを割り当てることを選択できます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 親プロセスにルールを設定するには、次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要です。

   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーパスを指定した場合、ルールはそのフォルダー内のすべてのファイルとサブフォルダーに適用されます。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行可能ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク（*）のみを入力することはお勧めしません。そうすると、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
   - **発行元**。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定します。発行元情報スライダーを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上下に動かして、ルールの特異性を低くしたり高くしたりします。スライダーを「任意の発行元」の位置に移動すると、ルールはすべての署名付きファイルに適用されます。WEMエージェントは、発行元情報に従って親プロセスにルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、**カスタム値を使用**を選択して情報をカスタマイズできます。
   - **ハッシュ**。ハッシュを作成したいファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。WEMエージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. **次へ**をクリックして、子プロセスの設定を構成します。
10. 該当する子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかを実行します。

    a. メニューからルールタイプを選択し、**追加**をクリックします。**子プロセス**ウィンドウが表示されます。

    b. **子プロセス**ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。**子プロセス**ウィンドウのユーザーインターフェイスは、選択したルールタイプによって異なります。子プロセスの場合、次のルールタイプが利用可能です: **パス**、**発行元**、および**ハッシュ**。

    c. **OK**をクリックして**ルールの追加**ウィンドウに戻ります。さらに子プロセスを追加するか、**作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つのルールを選択し、**アクション**セクションで**編集**をクリックします。**ルールの編集**ウィンドウで、ルールを割り当てたいユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK**をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、**Actions**セクションで**Delete**をクリックします。

ルールのバックアップ

現在の構成セットにあるすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**Restore**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる**Backup**ウィザードを使用します。**Backup**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

ルールの復元

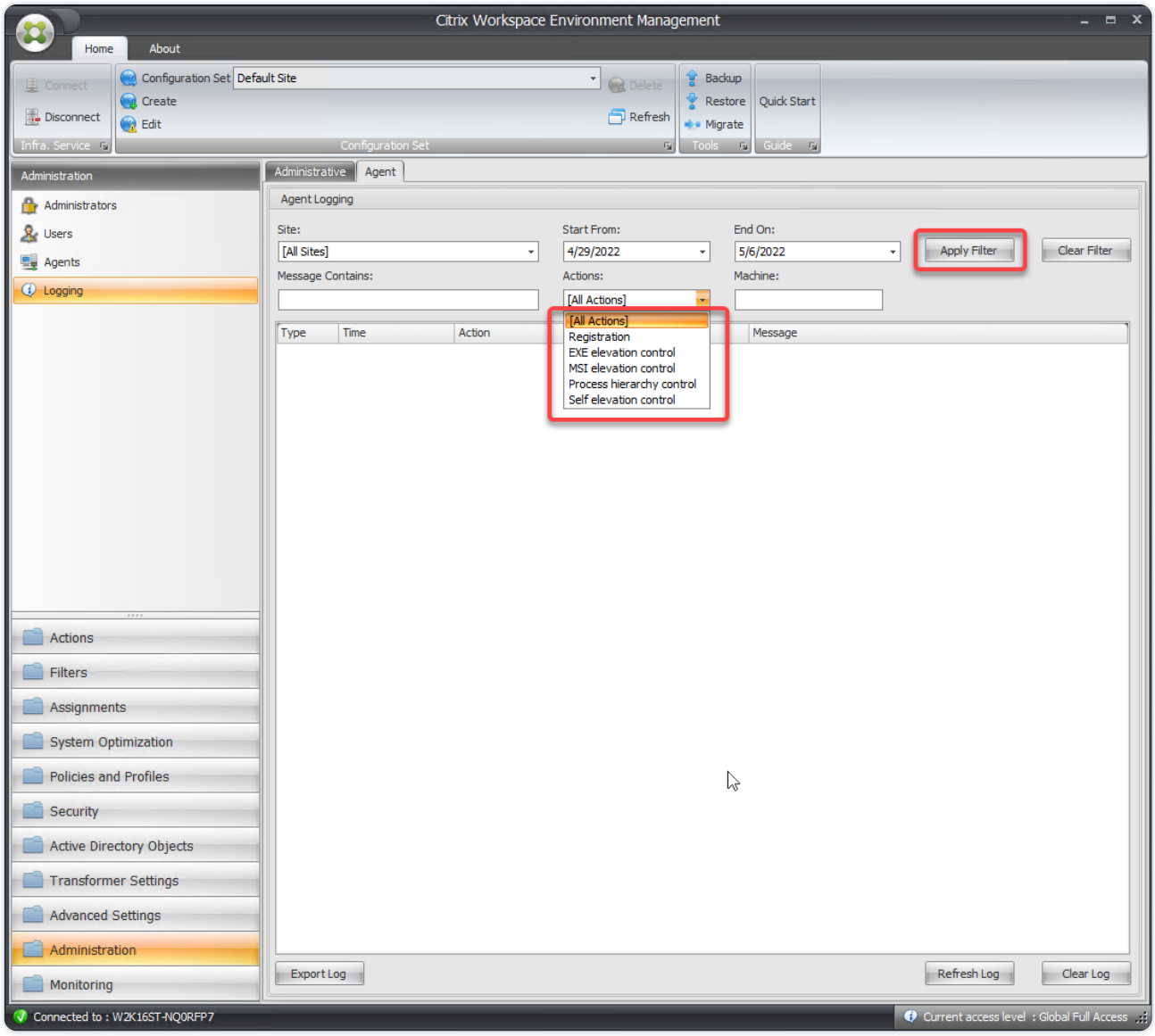
Workspace Environment Management Backupウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、プロセス階層制御ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**Security > Process Hierarchy Control**ペインに切り替えるか更新すると、無効なルールは削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**Restore**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEMは、プロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

ユーザーアクティビティの監査

WEMは、特権昇格およびプロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。監査を表示するには、**Administration > Logging > Agent**タブに移動します。このタブで、ログ設定を構成し、**Actions**フィールドで**ElevationControl**、**Self-elevation**、または**ProcessHierarchyControl**を選択し、**Apply Filter**をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



Active Directoryオブジェクト

これらのページを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> **注:**

エージェントがそれらを管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、およびOUをWEMに追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. Windowsのユーザーの選択ダイアログでユーザー名またはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ユーザーまたはグループの名前。

説明。**項目の編集**ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

項目の優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど、優先度が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

重要：

グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。それらの優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳しくは、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

項目の状態。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効になっている場合、アクションを割り当てることはできません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. 複数のユーザー名またはグループ名をテキストボックスにセミコロンで区切って入力し、**OK**をクリックします。

マシン

現在のサイト（構成セット）に追加されたコンピューターのリストです。ここにリストされているコンピューターのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。これらのコンピューター上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録すると、インフラストラクチャサーバーは構成セットに必要なマシン依存の設定をそれらに送信します。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

> **ヒント:**

> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかどうかを確認するには、管理セクションの「エージェント」を参照してください。

現在の構成セットにコンピューターまたはコンピューターグループを追加するには

1. **オブジェクトの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. コンピューターまたはグループの選択ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、**OK**をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. **OUの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. 組織単位ダイアログで、組織単位を選択し、**OK**をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. **編集**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. 項目の編集ダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、**OK**をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名（DN）。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報。

種類*。選択された種類（コンピューター、グループ、または組織単位）

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態（有効または無効）。無効になっている場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

アイテムの優先度。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間で優先度を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告された読み取り専用の詳細。

詳細設定

Active Directoryの動作を構成するためのオプション。

Active Directory検索のタイムアウト。Active Directory検索がタイムアウトするまでの期間（ミリ秒）。デフォルト値は1000ミリ秒です。検索が完了する前にタイムアウトするのを避けるため、少なくとも500ミリ秒のタイムアウト値を使用することをお勧めします。

Transformerの設定

これらのオプションを使用すると、Transformer機能を構成できます。Transformerを使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformerを使用して、任意のWindows PCを、完全に元に戻せる「キオスク」モードを使用して高性能シンクライアントに変換します。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformerの外観と基本設定を制御します。

Transformerを有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に*キオスクモード*になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとの対話のみが許可されます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細**ページのどちらの設定も処理されません。

WebインターフェイスURL。このURLは、ユーザーの仮想デスクトップのWebフロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktops™環境へのアクセスURLです。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ Agentキオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが設定されます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management Agentキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続きWindows環境からロックアウトされたままになります。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーはTransformerインターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」のWebナビゲーションボタンがエージェントキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記で定義されたWebインターフェイスURLに戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UIに時計が表示されます。

12時間表示の時計を表示する。有効にすると、12時間表示の時計 (午前/午後) が表示されます。デフォルトでは、Transformerの時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更する。**Ctrl+Alt+U**を押してユーザーの環境をロック解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者が制限なくユーザー環境のトラブルシューティングを行うこと、およびエージェントをサポートすることを目的としています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにURLのリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにツールのリストが追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクモードを、Webインターフェイスを表示するのではなく、プロセスランチャーにすることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Management エージェントは**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。終了した場合、プロセスは再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます（例：RDP接続を起動するためのmstsc.exeへのパス）。

プロセス引数。上記のコマンドラインに引数を指定できます（例：mstsc.exeの場合、接続するマシンのIPアドレス）。

VMware Viewの最終ユーザー名をクリア。有効にすると、VMwareデスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面の前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware Viewモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはVMware Viewモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Microsoft RDSモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはMicrosoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Citrixモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはCitrixモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正。有効にすると、キオスクウィンドウが、エージェントホストマシンに現在インストールされているInternet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで実行されるように強制されます。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウがIE7互換モードで実行されるように強制されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスしたときに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

スクリプトエラーの抑制。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSLサイトの修正。有効にすると、SSL警告を完全に非表示にします。

Citrixセッション中のキオスクを非表示にする。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクを非表示にします。

管理者メニューを常に表示。有効にすると、キオスク管理者メニューが常に表示され、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンを非表示にする。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。無効にすると、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tabをロック。有効にすると、Alt+Tabコマンドを無視し、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

Zオーダーの修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーはキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerをロック。有効にすると、デスクトップビューアがロックダウンモードに切り替わります。これは、Citrix Workspaceアプリ for Windows Desktop Lockがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされている場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- タブの オプションが有効になっていること。
- タブの オプションが有効になっていること。

ディスプレイ設定を非表示にする。有効にすると、Transformer UIの の下にある を非表示にします。

キーボード設定を非表示にする。有効にすると、Transformer UIの の下にある を非表示にします。

マウス設定を非表示にする。有効にすると、Transformer UIの の下にある を非表示にします。

ボリューム設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**ボリューム**が非表示になります。

クライアント詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**クライアント詳細**が非表示になります。**クライアント詳細**から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザのプログレスバーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**Windows バージョン**が非表示になります。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンが非表示になります。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiver を事前起動。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

ロック解除を無効にする。有効にすると、エージェントは**Ctrl+Alt+U**のロック解除ショートカットではロック解除できません。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**ログオフ**が非表示になります。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**再起動**が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**シャットダウン**が非表示になります。

前回の言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。**一般ペイン**で**言語選択を許可**オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフおよび電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

セッション起動時に Web ポータルからログオフ。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、一般設定ページで指定された Web フロントエンドがログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）で実行された後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリー状態をチェックしない。Transformerのユースケースでは、エージェントはバッテリーの状態をチェックし、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、エージェントがアクションタブで構成されたアクションを処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。（仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。）

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

INIファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作の処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けの処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNの処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。ログオン時にエージェントを実行するかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントを実行するかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合に、エージェントを実行するかどうかを制御します。

エージェントの種類。ユーザーがエージェントと対話するときに、ユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

（仮想）デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントが起動するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行。有効にすると、公開アプリケーションでは、エージェントはUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときに、エージェントがショートカットやその他のアイテム（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てる場合、ショートカットやアイテムの作成も制御できることがあります。これは、**Assignments > Action Assignment > Action Assignment** タブの **Assigned** ペインでアクションのオプションを構成することで可能です。

Workspace Environment Management™ は、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **クリーンアップアクション**タブに表示されるオプション
2. **Assigned** ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**Assigned** ペインで割り当てられたアプリケーションの **Create Desktop** オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**Cleanup Actions** タブで **Delete Desktop Shortcuts** オプションを有効にしていても、エージェントが更新されたときにショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除する。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンターを削除する。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持する。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持する。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログを有効にする。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードを有効にする。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合でもキャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用する。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化する。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要：**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が有効になるまでには、**Agent Cache Refresh Delay**オプション（**Advanced Settings > Configuration > Service Options**タブ）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics**タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから**Refresh Cache**を選択します。

> **環境設定を更新する**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsシステム設定（例：Windowsエクスプローラーやコントロールパネル）の更新をトリガーします。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新をトリガーします。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
  - **Cleanup Actions**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
  - **Cleanup Actions**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

初期デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

アプリケーションの存在を確認。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出したときの通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**: これは非常に時間のかかるプロセスであり、必要な場合にのみ選択してください。

ブローカーサービスタイムアウト。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが自身のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）の解決のタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサが物理的に許容する最大数のスレッド）、1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の悪いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態の変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制。これらの設定が有効になっている場合、変更が加えられていなくても、エージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てのアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションにより、エージェントホストは更新ごとにフィルターを再処理します。

サービスオプション

これらの設定は、エージェントホストサービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。

SQL設定の更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。

エージェントの追加起動遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが起動される前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmd extra sync delay設定を構成します。詳細については、「WEMエージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべてのエージェントホストに対して詳細なログが有効になります。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEMエージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、エージェントホストサービスはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対しては、Citrix WEMエージェントホストは起動されません。

コンソール設定

禁止されているドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する。有効にすると、割り当てで使用されているドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFrontストアをWorkspace Environment Managementに追加します。その後、**アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開されたアプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細について

は、「アプリケーション」を参照してください。Transformer (キオスク) モードでは、割り当てられたStoreFrontアプリケーションアクションが**アプリケーション**タブに表示されます。StoreFrontストアの詳細については、「StoreFrontのドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. **追加**をクリックします。
2. **ストアの追加**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアのURL。Workspace Environment Managementを使用してリソースにアクセスするストアのURL。URLは、http://hostnameの形式で指定する必要があります。hostnameはストアの完全修飾ドメイン名、portはプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要：**
>
> - 使用するストアのURLは、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、Citrix ADCなどのソリューションの背後にあるものであってはなりません。
> - この機能は、多要素認証を使用するStoreFrontでは動作しません。

> **説明**。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、**編集**をクリックしてストアのURLまたは説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、**削除**をクリックして構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

適用をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントの切り替え

このタブにあるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> **重要：**

エージェントの切り替えは、構成セットレベルで機能します。実行する切り替え操作は、構成セット内のエージェントのみに影響します。

サービスエージェントへの切り替え。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続するCitrix Cloud™ Connectorを指定できます。これは、既存のオンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合に役立ちます。

警告：

オンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合にのみ、このオプションを有効にしてください。この移行は、WEM管理コンソールから元に戻すことはできません。

Citrix Cloud Connectorの構成。Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力して、Citrix Cloud Connectorを構成できます。**追加**をクリックして、Cloud Connectorを一度に1つずつ追加します。高いサービス可用性を確保するために、Citrixは各リソースの場所に少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることを推奨しています。したがって、少なくとも2つのCitrix Cloud Connectorを構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector™の構成をスキップ。グループポリシーを使用してCitrix Cloud Connectorを構成する場合は、このオプションを選択します。

重要：

エージェントの切り替え設定が有効になるまで、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで構成した**SQL設定の更新遅延**設定によって時間がかかる場合があります。

オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントがWEMサービスに接続できない場合があります。その場合、ロールバックが必要になることがあります。そのためには、AgentConfigurationUtility.exeコマンドラインを使用します。例:

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

UIエージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UIモードのエージェントの外観をパーソナライズできます。これらのオプションは、UIエージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

> **注:**
>
> これらのオプションは、UIモードのエージェントにのみ適用されます。CMDモードのエージェントには適用されません。

UIエージェントのオプション

これらの設定を使用すると、ユーザー環境でのセッションエージェント（UIモードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定すると、エージェントの起動時または更新時に、Citrix Workspace Environment Managementロゴの代わりにカスタムスプラッシュ画面が表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200ピクセルの.bmpファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。読み込み円の色をカスタム背景に合わせて変更できます。

テキストラベルの色。読み込みテキストの色をカスタム背景に合わせて変更できます。

UIエージェントスキン。UIエージェントから開くダイアログに使用する事前構成済みのスキンを選択できます。たとえば、**アプリケーションの管理**ダイアログや**プリンターの管理**ダイアログなどです。**注**: この設定はスプラッシュ画面を変更しません。

エージェントスプラッシュ画面を非表示。有効にすると、エージェントのロード中または更新中にスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントスプラッシュ画面を非表示。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面が非表示になります。

管理者のみがエージェントを閉じることができる。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のユーザーのエンドポイントでは、エージェントメニューの**終了**オプションが無効になります。

ユーザーにプリンターの管理を許可する。有効にすると、エージェントメニューの**プリンターの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**プリンターの管理**ダイアログを開き、デフォルトプリンターを設定したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーにアプリケーションの管理を許可する。有効にすると、エージェントメニューの**アプリケーションの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**アプリケーションの管理**ダイアログを開き、以下のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **デスクトップ**。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **スタートメニュー**。スタートメニューフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **クイック起動**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- **タスクバー (P)**。タスクバーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **スタートメニュー (P)**。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**
>
> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除することはできません。 クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ利用可能です。

管理者がエージェントを閉じられないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

アプリケーションショートカットを有効にする。有効にすると、エージェントメニューに**マイアプリケーション**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは**マイアプリケーション**メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理リフレッシュフィードバックを無効にする。有効にすると、管理者が管理コンソールを通じてエージェントの更新を強制した場合でも、このオプションはユーザー環境に通知を表示しません。

ユーザーによるアクションのリセットを許可。エージェントメニューに「**アクションのリセット**」オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。「**アクションのリセット**」オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが「**アクションのリセット**」を選択すると、「**アクションのリセット**」ダイアログが表示されます。ダイアログでは、ユーザーはリセットする内容を詳細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、「**リセット**」をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが削除されます。

注:

- エージェントメニューでは、次の2つのオプションが常に利用可能です: 「**更新**」と「**バージョン情報**」。「**更新**」オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定はすぐに有効になります。「**バージョン情報**」オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが「**ヘルプ**」オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを求めることができるウェブサイトリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに「**サポート**」オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるウェブサイトリンクを入力します。

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに「**キャプチャ**」オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを有効にする。画面キャプチャツールに「**サポートに送信**」オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーンショットとログファイルを指定された形式で、指定されたサポートメールアドレスに直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、「動的トークン」を参照してください。 ユーザーがコメントを入力するオプションは、メールテンプレートに「**##UserScreenCaptureComment## ハッシュタグ**」が含まれている場合にのみ表示されます。

> **SMTPを使用してメールを送信**。有効にすると、MAPIではなくSMTPを使用してサポートメールを送信します。

SMTPのテスト。上記で入力されたSMTP設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時刻に実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

「**管理**」ペインは以下で構成されます。

- **管理者**。Workspace Environment Management™ の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを通じて構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- **ユーザー**。ユーザー統計を表示できます。

- **エージェント**。エージェント統計を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- **ログ**。Workspace Environment Management での管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
    - 構成変更後、問題の診断とトラブルシューティングを行います。
    - 変更管理を支援し、構成を追跡します。
    - 管理アクティビティを報告します。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを通じて構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済み管理者リスト

構成済み管理者のリストで、その権限レベル（**フルアクセス**、**読み取り専用**、または**詳細アクセス**。詳細は以下を参照）が表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。現在編集中のユーザーまたはグループの名前です。

説明。ユーザーまたはグループに関する追加情報です。

グローバル管理者。選択したユーザー/グループをグローバル管理者として指定するには、これを選択します。選択したユーザー/グループをサイト管理者として指定するには、これをクリアします。グローバル管理者の権限は、すべてのサイト（構成セット）に適用されます。サイト管理者の権限は、サイトごとに構成されます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループに対して、次のいずれかのアクセスレベルを指定できます。**注**: 管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定されたサイト（構成セット）のあらゆる側面を完全に制御できます。フルアクセス権を持つグローバル管理者のみが、Workspace Environment Management管理者

の追加/削除を行うことができます。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

読み取り専用管理者はコンソール全体を表示できますが、設定を一切変更することはできません。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

詳細なアクセスは、管理者が次のいずれかまたは複数の権限セットを持っていることを示します。

アクション作成者はアクションを作成および管理できます。

アクション管理者はアクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルター管理者は条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用中のルールは、フィルター管理者によって編集または削除することはできません。

割り当て管理者はリソースをユーザーまたはグループに割り当てることができます。

システムユーティリティ管理者はシステムユーティリティ設定（CPU、RAM、プロセス管理）を管理できます。

ポリシーおよびプロファイル管理者はポリシーおよびプロファイル設定を管理できます。

構成済みユーザー管理者は構成済みユーザーリストからユーザーまたはグループを追加、編集、および削除できます。割り当てられたアクションを持つユーザーまたはグループは、構成済みユーザー管理者によって編集または削除することはできません。

トランスフォーマー管理者はトランスフォーマー設定を管理できます。

高度な設定マネージャーは、高度な設定（アクション処理の有効化または無効化、クリーンアップアクションなど）を管理できます。

セキュリティマネージャーは、セキュリティタブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループが有効か無効かを制御します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはWorkspace Environment Management管理者とは見なされず、管理コンソールを使用できません。

種類。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーかグループかを示します。

グローバル管理者がクリアされている場合、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべてのWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）。

有効。指定されたWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）でこの管理者を有効にするには、選択します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはそのサイトの管理者とは見なされず、アクセスできません。

権限。このインフラストラクチャサービスにアタッチされている各Workspace Environment Managementサイト（構成セット）について、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続したユーザーの概要が表示されます。

ユーザーの概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方で、Workspace Environment Managementライセンスを予約した合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Managementデータベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Managementライセンスを予約しているエージェントの総数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間に追加されたエージェントも報告されます。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、およびエージェントのバージョンが含まれます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

同期状態列では、次のアイコンがエージェントキャッシュとWorkspace Environment Managementデータベースの最終同期の結果を示します。

- 成功（チェックマークアイコン）。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明（疑問符アイコン）。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、または同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗（Xアイコン）。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Managementの健全性ステータス列で、展開におけるProfile Managementの健全性ステータスを表示できます。

Profile Managementの健全性ステータスは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`)。この機能は、毎日またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューから**Profile Management構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Managementの健全性ステータス**列のアイコンは、Profile Managementの健全性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好（チェックマークアイコン）。Profile Managementが良好な状態であることを示します。
- 警告（三角形の感嘆符アイコン）。Profile Managementが最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開におけるProfile Managementのユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側での対応を必要とするものではありません。
- エラー（Xアイコン）。Profile Managementが誤って構成されており、Profile Managementが正常に機能しないことを示します。
- 利用不可（疑問符アイコン）。Profile Managementが見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の経験を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

「**最近接続済み**」列では、次のアイコンは、エージェントが特定の期間内にWorkspace Environment Managementデータベースに統計情報をアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。列のフィールドが空白の場合、エージェントはオフラインであることを示します。

- オンライン（チェックマークアイコン）

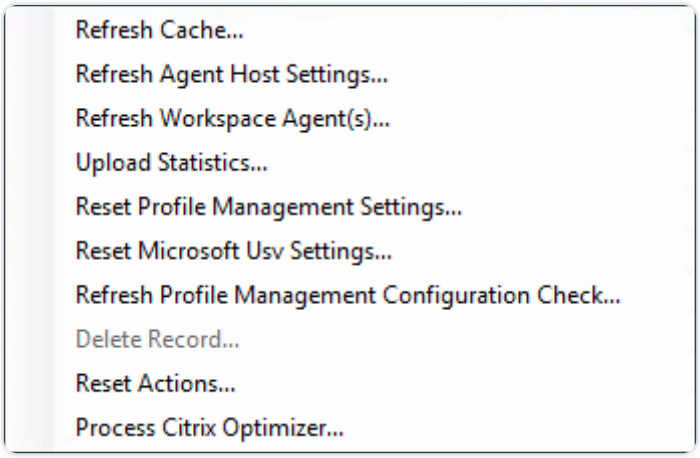
期限切れのレコードをクリア。Workspace Environment Managementデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントを更新するには

エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、Workspace Environment Managementデータベースでエージェントホストの**ID**を検証します。

1. **更新**をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション



キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

Workspace Agent の更新。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

重要：

- **Workspace Agent の更新**オプションは、UIモードで自動的に起動されるエージェント（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されないエージェント）でのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計情報のアップロード。統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

「**プロファイル管理設定のリセット**」。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、「**プロファイル管理設定のリセット**」をクリックします。このオプションが利用可能になるには、「**更新**」をクリックする必要がある場合があります。

注:

WEM管理コンソールから「**プロファイル管理設定のリセット**」を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてはCTX219086を参照してください。

「**Microsoft USV設定のリセット**」。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、「**Microsoft USV設定のリセット**」をクリックし、次に「**更新**」をクリックします。

「**プロファイル管理構成チェックの更新**」。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

「**レコードの削除**」。データベースからエージェントレコードを削除できます。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

「**アクションのリセット**」。適用可能なマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることで、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

「**Citrix Optimizerの処理**」。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、設定をエージェントに適用します。

登録

このページには、データベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要：**

> エージェントは1つの構成セットのみに登録する必要があります。

> 次の情報が報告されます。

「**マシン名**」。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

「**状態**」。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を示す以下の説明で示されます。

「**エージェントがどのサイトにもバインドされていません**」。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

「**エージェントが1つのサイトにバインドされています**」。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）に必要なマシン依存の設定をエージェントに送信しています。

エージェントが複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- コンピューターが1つのサイト（構成セット）のみにバインドされるように、Workspace Environment Management階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション）を編集します。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWorkspace Environment Management設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログは手動で更新されるまで空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにこの操作が実行されたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Managementエージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。**更新**をクリックするまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログインとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。さまざまな形式ですべてのレポートを**エクスポート**できます。

日次レポート

日次ログインレポート。このサイトに接続しているすべてのユーザーのログイン時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続しているすべてのデバイスの起動時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザー傾向

ログイン傾向レポート。このレポートは、選択した期間における各日の全体的なログイン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間における各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続しているリストされている各オペレーティングシステムのデバイスの数を日別に表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーおよびデバイスレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのディスク使用量を常に把握し、プロファイルコンテナが機能しない原因となる問題を特定します。

概要

ドーナツグラフが2つ含まれています。

- **使用済み領域**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナの領域使用量を示します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションに対するプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。

期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**をクリックしてグラフを更新します。

使用済み領域が次より多い場合、高 (GB)。プロファイルコンテナの領域使用量を「高」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

使用済み領域が次より少ない場合、低 (GB)。プロファイルコンテナの領域使用量を「低」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高しきい値は、低しきい値よりも大きい必要があります。
> - 高しきい値と低しきい値を指定した後、**更新**をクリックして**使用済み領域**グラフを更新します。
> - 高しきい値と低しきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**ボタンをクリックしてレコードをフィルタリングします。

選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。これを行うには、ステータスレコードを右クリックし、**更新**を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェントホストにタスクがすぐに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェントホストで使用されている場合はステータス関連データを収集します。次に、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまで時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**ボタンをクリックします。

ステータス列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` のMicrosoftドキュメントを参照してください。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、値が報告されない最小**起動時間**と**ログイン時間**（秒単位）を指定することもできます。

参照

特定のタスクを実行するには、次の記事を使用してください。

- CMDおよびUIモードのエージェント
- 一般的なコントロールパネルアプレット
- 動的トークン
- 環境設定レジストリ値
- フィルター条件
- FIPSサポート
- Citrix ADCによる負荷分散
- ログパーサー
- ポート情報
- ログファイルの表示
- WEM整合性条件リストマネージャー
- XMLプリンターリスト構成

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

エージェントをログオン時に実行するように構成する場合、CMDモードで起動するかUIモードで起動するかを制御できます。これを行うには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブにある**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

エージェントをログオン時に自動的に実行するように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシンでエージェントをCMDモードまたはUIモードで起動できます。これを行うには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。

- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードではコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードではエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。
  - **マイアプリケーション**。割り当てられているアプリケーションを表示できます。
  - **画面キャプチャ**。画面キャプチャツールを開くことができます。このオプションを有効にするには、「**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**」タブで「**画面キャプチャを有効にする**」を有効にする必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください。
  - **アクションのリセット**。**アクションのリセット**ツールを開き、環境内でリセットするアクションを指定できます。

  このオプションを有効にするには、「**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**」タブで「**ユーザーによるアクションのリセットを許可する**」を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください。

  - **アプリケーションの管理**。**アプリケーションの管理**ツールを開き、アプリケーションを管理できます。

  このオプションを有効にするには、「**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**」タブで「**ユーザーによるアプリケーションの管理を許可する**」を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください。

- **プリンターの管理**。**プリンターの管理**ツールを開き、デフォルトプリンターを構成し、印刷設定を変更できます。

このオプションを有効にするには、「**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**」タブで「**ユーザーによるプリンターの管理を許可する**」を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください。

- **更新**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **ヘルプ**。ヘルプを求めることができるWebサイトを開きます。

このオプションを有効にするには、「**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**」タブで「**ヘルプリンクアクション**」を指定する必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください。

- **バージョン情報**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **終了**。エージェントを閉じます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用することなく、次のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**アクションのリセット**ツールを開きます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**アプリケーションの管理**ツールを開きます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。「**プリンターの管理**」ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモードの主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントサービス（Citrix WEM Agent Host ServiceまたはCitrix WEM User Logon Service）を構成して、特定の時点（ログオンや再接続など）でCMDエージェントを開始できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。Citrix WEM Agent Host ServiceはUIエージェントを開始または停止します。UIエージェントはエンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動することはお勧めしません。

> **注:**

> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

一般的なコントロールパネルアプレット

Windowsで一般的なコントロールパネルアプレットは次のとおりです。

アプレット名	正規名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイスマネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
ディスプレイ	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリーセーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts

ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIOコンフィギュレーション	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound

音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces
同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
ウィンドウズ トゥ ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
ウィンドウズ アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダー	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

Workspace Environment Management の任意のアクション(/ja-jp/workspace-environment-management/2206/user-interface-description/actions/applications.html)で動的トークンを使用すると、それらをより強力にすることができます。

動的トークンは、次のフィールドで使用できます。

- アプリケーション

    - アプリケーションの種類として **インストールアプリケーション** を使用する場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および **パラメータ**
    - アプリケーションの種類として **ファイル/フォルダ** を使用する場合: **ターゲット**
    - アプリケーションの種類として **URL** を使用する場合: **ショートカットURL**
    - **アイコンファイル**
- プリンター
    - **ターゲットパス**
- ネットワークドライブ
    - **ターゲットパス** および **表示名**
- 仮想ドライブ
    - **ターゲットパス**
- レジストリ
    - **ターゲットパス**、**ターゲット名**、および **ターゲット値**

> **注:**
>
> **ターゲット値** フィールドは環境変数展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに機能しません。

- 環境変数
    - **変数値**
- ポート
    - **ポートターゲット**
- Ini ファイル
    - **ターゲットパス**、**ターゲットセクション**、**ターゲット値名**、および**ターゲット値**

> **注:**

> **ターゲットセクション**、**ターゲット値名**、および**ターゲット値**の各フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

- 外部タスク
  - **パス**および**引数**
- ファイルシステム操作
  - **ソースパス**および**ターゲットパス**
- 特定のフィルター条件
  - 例: 条件タイプが**Active Directory属性の一致**の場合: **テスト済みActive Directory属性**および**一致する結果**

> **注:**
>
> フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

スクリプト内で文字列を操作してドライブをマップしたり、アプリケーションを起動したりする必要がある場合があります。Workspace Environment Management™ エージェントでは、次の文字列操作がサポートされています。

モーダル	説明	例
#左(文字列,長さ)#	指定された数の文字を左から返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#右(文字列,長さ)#	指定された数の文字を右から返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します
#切り詰める(文字列,長さ)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します

モーダル	説明	例
	合、指定された数の文字を左から返します。	
&トリミング(文字列)&	文字列の先頭と末尾のすべての空白文字を削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します
&スペースを削除(文字列)&	文字列のすべての空白を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&Expand(文字列)&	文字列に\%で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string,[splitter],index)\$	[] で囲まれた区切り文字に基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します
#Mid(文字列,開始インデックス)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!Mid(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
!Substring(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#Mod(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、剰余を返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。例: 現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Managementアイテムの処理で広く使用されている置換機能です。ハッシュタグの使用方法を次の例で示します。

.ini ファイルに書き込むには、**.ini** ファイルのパスで **%UserName%** を使用でき、Workspace Environment Management はそれを処理して最終ディレクトリを展開します。ただし、Workspace Environment Management が **.ini** 自体に書き込む値を評価することはより複雑です。**%UserName%** を文字通り書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##** がハッシュタグとして存在します。これにより、値に **%UserName%** を使用すると文字通り書き込まれ、**##UserName##** を使用すると展開された値が書き込まれます。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory のユーザー名のイニシャルを返します	JC

モーダル	説明	例
##UserAppData##	特殊フォルダー「RoamingAppData」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダー「Documents」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDocuments##	特殊フォルダー「ドキュメント」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダー「デスクトップ」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダー「お気に入り」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Favorites
##UserTemplates##	特殊フォルダー「テンプレート」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates
##UserStartMenu##	特殊フォルダー「スタートメニュー」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダー - プログラムの実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##UserLocalAppData##	特殊フォルダー - LocalAppData の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特殊フォルダー - ミュージック の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特殊フォルダー - ピクチャ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Pictures

モーダル	説明	例
##UserVideos##	特殊フォルダー - ビデオ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Videos
##UserDownloads##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - ダウンロード	C:\Users\Jill\Downloads
##UserLinks##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - リンク	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - 連絡先	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - 保存された検索	C:\Users\Jill\Searches
##共通プログラム##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - 共通プログラム	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADSite##	マシンがメンバーであるActive Directoryサイトを返します	NKG
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=ユーザーアカウント,OU=APAC,DC=citrite,DC=net

モーダル	説明	例
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\プログラムファイル (x86)\シトリックス\ワークスペース環境管理エージェント
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**詳細設定** > **UIエージェントのパーソナライズ** > **ヘルプデスクオプション** の下のメールテンプレートに含めることができます。含めると、エージェントのスクリーンキャプチャユーティリティで、スクリーンキャプチャの下にコメントフィールドがユーザーに表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブ ディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するために、WEMは****の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。 は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザー組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは****の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active DirectoryパスはActive Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、 はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークン を使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブパスで動的トークン を直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。

- OUという環境変数を設定し、その値を に設定します。その後、ドライブを `\\Server\Share\%OU%\` としてマップできます。

> **注:**
>
> - OU構造で到達したいレベルに対応する数値で「0」を置き換えることができます。
> - パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダー構造があることを確認してください。

> フィルタリング目的でActive Directory属性を使用することもできます。**管理 > フィルター > 条件 > フィルター条件リスト** タブで、**追加** をクリックすると、新しいフィルター条件ウィンドウを開くことができます。新しいフィルター条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルター条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directory グループの一致
- Active Directory パスの一致
- Active Directory サイトの一致

Active Directory 属性の一致の場合、動的トークンは です。 Active Directory グループの一致には動的トークンは利用できません。この条件タイプはグループメンバーシップの確認に使用されるためです。 Active Directory パスの一致の場合、完全な LDAP パス用の動的トークンは ##UserLDAPPath## です。 Active Directory サイトの一致の場合、動的トークンは ##ADSite## です。

例については、次の表を参照してください。

モード	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します

モード	説明	例
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` の `[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するために、WEM は `[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XML ファイル

XMLファイルで作業する場合、WEMはXMLファイル内の特定のタグ値に`[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]`値を置き換えます。XMLパスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は%で囲む必要があります。例えば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INIファイル

.iniファイルで作業する場合、WEMは`[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]`をキー値に置き換えます。INIパスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は%で囲む必要があります。例えば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表は、テストされた値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを一覧表示します。

条件タイプ	テスト値	一致する結果
コンピューター名の一致	-	はい
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMIクエリ結果の一致	-	はい
XenApp® ファーム名の一致	-	はい
XenApp ゾーン名の一致	-	はい
XenDesktop® ファーム名の一致	-	はい
XenDesktop デスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory 属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
コンピューター名と一致しない	-	はい
クライアント名と一致しない	-	はい
環境変数と一致しない	いいえ	はい
レジストリ値と一致しない	はい	はい
WMIクエリ結果と一致しない	-	はい
XenApp ファーム名と一致しない	-	はい
XenApp ゾーン名と一致しない	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致する結果
XenDesktopファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにない	はい	はい
動的な値が一致する	はい	はい
動的な値が一致しない	はい	はい
ファイルバージョンが一致する	はい	はい
ファイルバージョンが一致しない	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい
ファイル/フォルダーが存在する	-	はい
ファイル/フォルダーが存在しない	-	はい

環境設定のレジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management の環境設定に関連するレジストリ値について説明します。

環境設定のスタートメニュー(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-admin-console-environmental-settings-01.png)

共通プログラムを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoCommonGroups
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スタートメニューからファイル名を指定して実行を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0

管理ツールを非表示にする	
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATE を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

WINDOWS UPDATE を非表示にする	
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_ShowPrinters
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoClose
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

強制ログオフボタン	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	インテリメニュー
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムの一覧をクリアする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu

最近使用したプログラムの一覧をクリアする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	ThemeFile
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Colors`
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	設定された色 (R G B)
無効な値	値が存在しないか、以前に設定された値の場合は0 0 0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	SetVisualStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効値	スタイル値に依存
無効値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	TileWallpaper
値の型	REG_SZ
有効値	スタイル値に依存
無効値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス

環境設定デスクトップ(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-admin-console-environmental-settings-02.png)

マイコンピューターアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD

ごみ箱アイコンを非表示にする	
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートではなくデスクトップに移動	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage`
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableTaskMgr

タスクマネージャーを無効にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableTLcorner
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableCharmsHint
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

環境設定 Windows エクスプローラーの画像(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-admin-console-environmental-settings-03.png)

レジストリ編集ツールへのアクセスを防止	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableRegistryTools
値の型	DWORD
有効な値	サイレント Regedit を無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
親キー	`HKCU\Software\Policies\System`
値の名前	DisableCMD
値の型	DWORD
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にするか？ 2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs`
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

WINDOWSセキュリティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoTrayContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoDrives

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

環境設定コントロールパネル(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-admin-console-environmental-settings-04.png)

コントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1

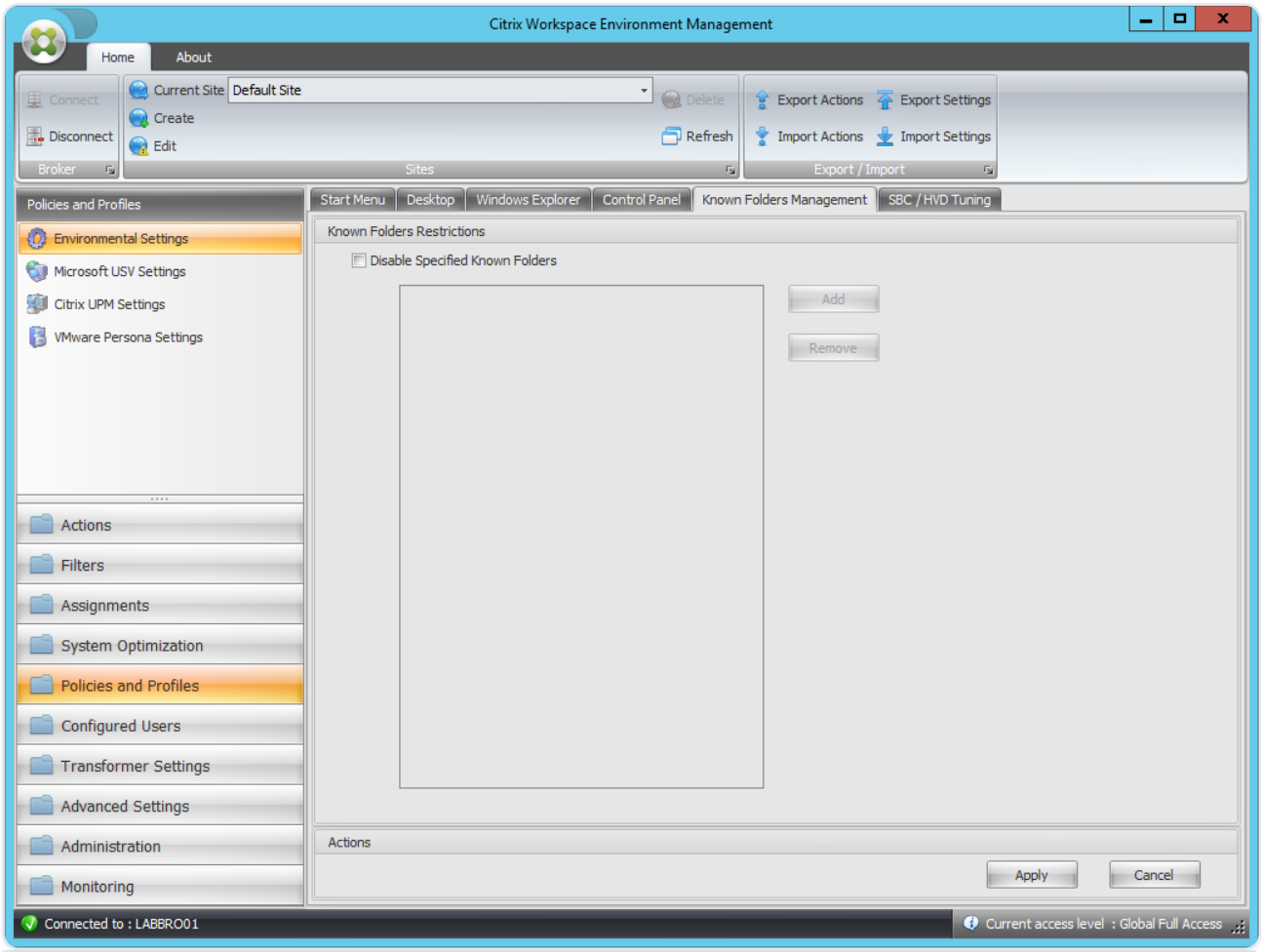
コントロールパネルを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されている各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\RestrictCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

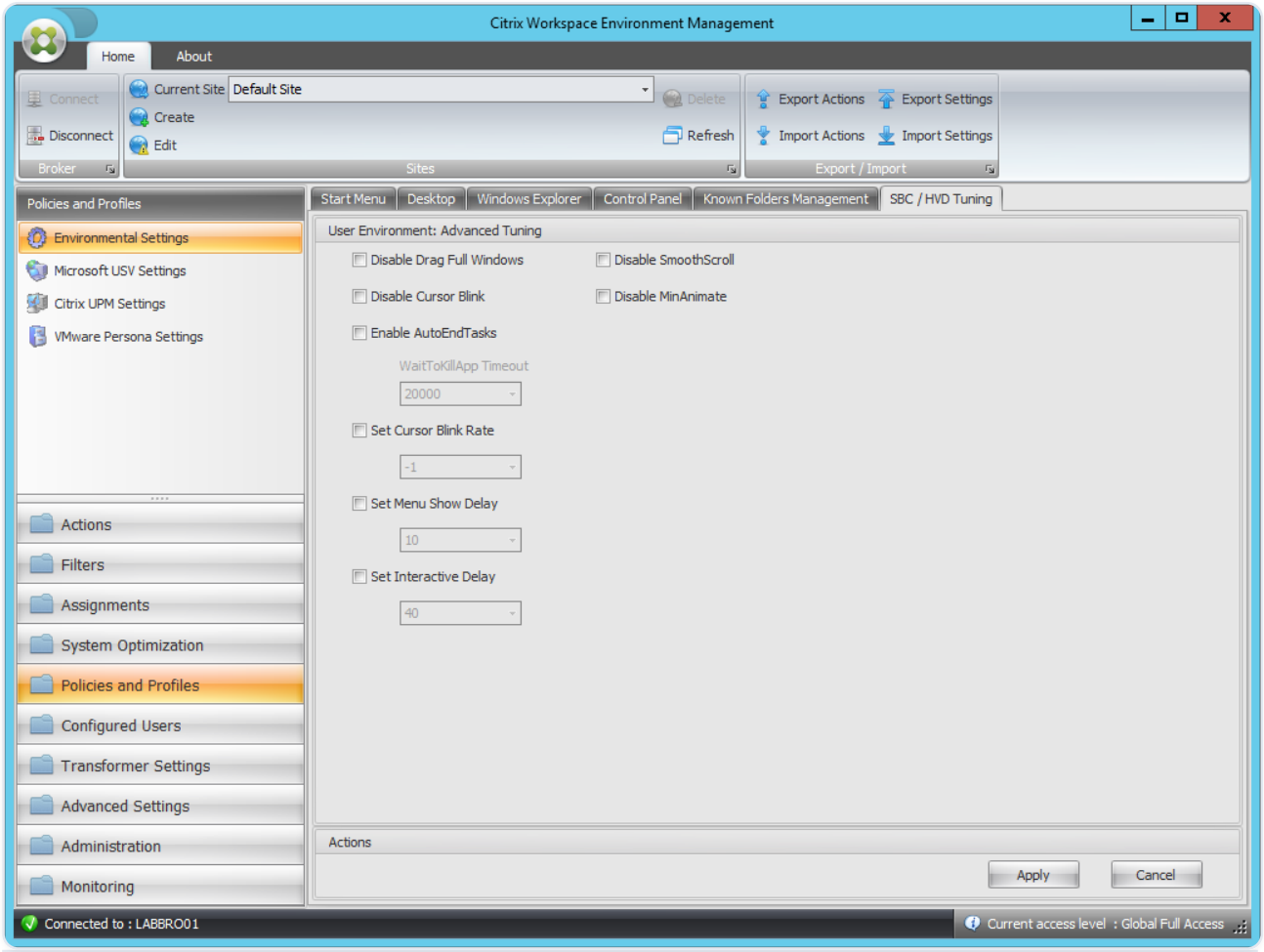
許可されていない各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\DisallowCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス



指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer`
値の名前	DisableKnownFolders
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

無効なフォルダーごとに	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders`

無効なフォルダーごとに	
値の名前	無効なフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス



ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DragFullWindows
値の型	REG_SZ
有効な値	0

ドラッグフルウィンドウを無効にする	
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DisableCursorBlink
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS を有効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	CursorBlinkRate
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MenuShowDelay
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

インタラクティブ遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	InteractiveDelay

インタラクティブ遅延の設定	
値の型	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLLを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATE の無効化	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルター条件が含まれています。管理コンソールでのこれらの条件の使用方法の詳細については、フィルターを参照してください。

次のフィルター条件を使用する際は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	該当なし
予期される構文	該当なし
戻り値	真。

条件名	コンピューター名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	単一名のテスト: Computername 複数のテスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテストされた値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアント名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される値の型	文字列。
期待される構文	単一名のテスト: Clientname 複数のテスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数テスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数でも機能): IpAddress* 範囲 (複数でも機能): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数テスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数でも機能します): ClientIpAddress* 範囲 (複数でも機能します): IpAddress1-IpAddress2

条件名	クライアントIPアドレスの一致
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
予期される構文	Active Directoryサイト名。
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	スケジュール設定
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予期される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	環境変数の一致
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象変数の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象変数の予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値がnullではないテスト: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	レジストリ値の一致
予期される値の型	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
予期される結果の型	文字列。テストされたレジストリエントリの予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値がnullではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	WMIクエリ結果の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーの国の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーのUI ISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	リストから選択。
予期される構文	該当なし
戻り値	ユーザーコンテキスト（公開デスクトップまたはアプリケーション）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	OSプラットフォームタイプ
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームタイプ（x64またはx86）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし

条件名	接続状態
戻り値	接続状態（オンラインまたはオフライン）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョンの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Appsのバージョン。例: 6.5
予期される構文	該当なし
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
期待される結果の種類	文字列。Citrix Virtual Apps Farm 名 (バージョン 6.5 まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ZONE 名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の種類	文字列。Citrix Virtual Apps Zone 名 (バージョン 6.5 まで)。例: Zone。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名(バージョン5まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ。例: Group。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	ドロップダウンリストから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のCitrix Provisioningイメージモードが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントOS
期待される値の型	該当なし

条件名	クライアントOS
期待される結果の型	ドロップダウンリストから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directoryパスの名前。
予期される構文	単一名テスト: 厳密なLDAPパス照合 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数のエントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の照合
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の予期される値。
予期される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る Null ではないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前または値がリストにある
予期される値のタイプ	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果のタイプ	文字列。リスト内で検索する名前/値の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに入力値が見つかった場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	COMPUTERNAMEが一致しない
否定条件の動作	**ComputerName Match** を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ComputerName Match** を参照してください。

条件名	CLIENTNAME が一致しない
否定条件の動作	ClientName Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ClientName Match** を参照してください。

条件名	IPアドレスが一致しない
否定条件の動作	IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **IP Address Match** を参照してください。

条件名	クライアントIPアドレスが一致しない
否定条件の動作	Client IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合

条件名	クライアントIPアドレスが一致しない
	は false)。詳細については、条件 **Client IP Address Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの不一致
否定条件の動作	Active Directoryサイトの一致を実行し、逆の結果 (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse) を返します。詳細については、条件「**Active Directoryサイトの一致**」を参照してください。

条件名	環境変数の不一致
否定条件の動作	環境変数の一致を実行し、逆の結果 (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse) を返します。詳細については、条件「**環境変数の一致**」を参照してください。

条件名	レジストリ値の不一致
否定条件の動作	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果 (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse) を返します。詳細については、条件「**レジストリ値の一致**」を参照してください。

条件名	WMIクエリ結果の不一致
否定条件の動作	WMIクエリ結果の一致を実行し、逆の結果 (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse) を返します。詳細については、条件「**WMIクエリ結果の一致**」を参照してください。

条件名	ユーザーの国が一致しない
否定条件の動作	ユーザーの国の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**ユーザーの国の一致**を参照してください。

条件名	ユーザーのUI言語が一致しない
否定条件の動作	ユーザーのUI言語の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**ユーザーのUI言語の一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSのバージョンが一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsのバージョンの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Citrix Virtual Appsのバージョンの一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ZONE 名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Zone Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Zone Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS FARM 名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの不一致
否定条件の動作	Active Directoryパスの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Active Directoryパスの一致**を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY属性の不一致
否定条件の動作	Active Attribute Path Matchを実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Active Attribute Path Match**を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	名前または値がリストにあるを実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**名前または値がリストにある**を参照してください。

条件名	クライアントリモートOSの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	該当なし

条件名	クライアントリモートOSの一致
戻り値	現在のリモートクライアントのオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントリモートOS不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOS一致を実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **クライアントリモートOS一致** を参照してください。

条件名	動的値一致
予想される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
予想される結果の型	文字列。テストされた式の予想される値。
予想される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の評価結果値が存在し、かつ値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	動的な値の不一致
否定条件の動作	動的な値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**動的な値の一致**」を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし

条件名	トランスフォーマーモードの状態
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOS一致を実行し、逆の結果を返します（偽の場合は真、真の場合は偽）。条件「**クライアントOS一致**」の詳細については、そちらを参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	単一名テスト: グループNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数テスト (OR): Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテスト値と一致する場合は真、それ以外の場合は偽。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directory グループの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory グループの一致** を参照してください。

条件名	ファイルバージョンの一致
予期される値の型	文字列。テストするファイルの完全パスと名前。

条件名	ファイルバージョンの一致
	例: **C:\Test\TestFile.dll**
予期される結果の型	文字列。テスト対象ファイルの予期されるファイルバージョン値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	ファイルバージョンの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**ファイルバージョンの一致**」を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

重要：

フィルター条件タイプとして公開リソース名を使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、アプリケーションのブラウザ名を「**一致する結果**」フィールドに入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、デスクトップの公開名を「**一致する結果**」フィールドに入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予期される構文	単一の名前テスト: 公開リソース名 複数テスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List Managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値のペアに名前の一致がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「名前がリストにある」を実行し、逆の結果 (false の場合は true、true の場合は false) を返します。詳細については、条件「**名前がリストにある**」を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ (ファイルまたはフォルダー) の完全パス。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「ファイル/フォルダーが存在する」を実行し、逆の結果 (false の場合は true、true の場合は false) を返します。詳細については、条件「**ファイル/フォルダーが存在する**」を参照してください。

条件名	DATETIME マッチ
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
予期される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在可能
戻り値	実行日時が指定されたエントリのいずれかに一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	DATETIME 不一致
否定条件の動作	DateTime マッチを実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **DateTime マッチ** を参照してください。

FIPSのサポート

Workspace Environment Management™ (WEM)をFIPS環境で実行できます。WEMの以下の構成はFIPSに関連しています。

- **管理コンソール > アクション > プリンター**内のプリンターの資格情報:

  プリンターの資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/printer-credentials.png)
- **管理コンソール > アクション > ネットワークドライブ**内のネットワークドライブの資格情報:

  ネットワークドライブの資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/network-drive-credentials.png)
- **管理コンソール > アクション > ユーザーDSN**内のユーザーDSNの資格情報:

  ユーザーDSNの資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/user-dsn-credentials.png)
- **管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**内のSMTPの資格情報:

  SMTPの資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/smtp-credentials.png)
- **管理コンソール > Transformer設定 > 全般 > 全般設定**内のパスワードロック解除設定:

  パスワードロック解除設定(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/unlock-password-settings.png)
- **管理コンソール > Transformer設定 > 詳細設定 > ログオン/ログオフと電源設定**内の自動ログオン資格情報:

  自動ログオン資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/auto-logon-credentials.png)

FIPS環境でWEMを実行する場合は、以下の考慮事項に注意してください。

- WEM 2003以前の環境からエクスポートされた場合、以下の項目をWEM環境に復元することはできません。
  - アクション（プリンター、ネットワークドライブ、ユーザーDSN）およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定（エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定）

- 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEMをFIPSモードで実行する場合は、WEMインフラストラクチャサービスと管理コンソールをアップグレードする前に、以下の考慮事項に注意してください。

- 環境で*WEM 2006以降*が実行されている場合、最初に2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替えるか、*その逆*を行うことができます。
- 環境で*WEM 2003以前*が実行されている場合、最初に2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS環境でWEMエージェントを実行するには、エージェントのバージョンが*2006以降*であることを確認してください。

Citrix ADCによる負荷分散

この記事では、すべてのアクティブな負荷分散構成で、2つ以上のインフラストラクチャサーバーを含むWorkspace Environment Management™ (WEM) サーバーグループの展開について説明します。この記事では、WEM管理コンソールとWEMエージェントからの受信要求を負荷分散するようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法の詳細を説明します。

Citrix ADCでこれらのWEMポートをリッスンできます。

- 管理ポート（デフォルトでは8284）
- エージェントサービスポート（デフォルトでは8286）
- キャッシュデータ同期ポート（デフォルトでは8288）

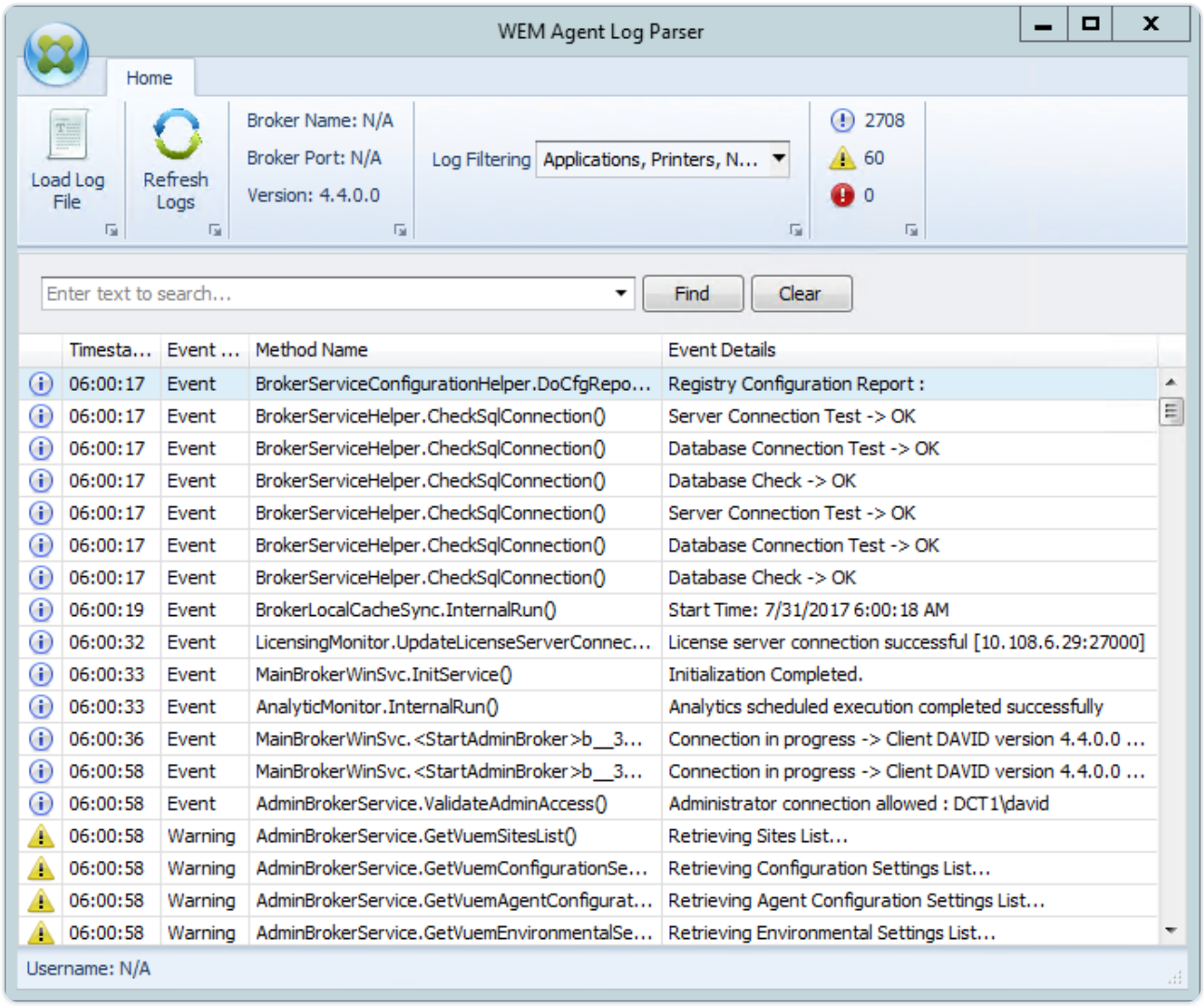
2つのインフラストラクチャサーバー（インフラストラクチャサーバー1とインフラストラクチャサーバー2）を含むWEMサーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します。

1. Citrix ADC管理GUIにログオンし、 をクリックします。
2. **> > >** に移動し、 をクリックしてインフラストラクチャサーバー1を追加します。インフラストラクチャサーバー2を追加するには、この手順を繰り返します。
3. **> >** に移動し、 をクリックして*管理コンソールサービス*のサービスグループを作成します。
    - 。 を選択します。
    - 。 を選択します。

4. 負荷分散サービスグループページで、 をクリックします。
5. サービスグループメンバーの作成ページで、 を選択し、右矢印をクリックして、インフラストラクチャサーバー1を選択します。インフラストラクチャサーバー2についても手順3から5を繰り返します。
    - 。たとえば、管理コンソールには8284と入力します。
6. ステップ3から5に従って、*エージェントサービス*と*キャッシュ同期サービス*のサービスグループを作成します。
    - **ポート**。エージェントサービスポートには8286と入力します。キャッシュデータ同期ポートには8288と入力します。
7. **Traffic Management > Load Balancing > Virtual Servers**に移動し、**Add**をクリックして、*管理コンソールサービス*の仮想サーバーを追加します。
    - **プロトコル**。**TCP**を選択します。
    - **IPアドレスタイプ**。**IPアドレス**を選択します。
    - **IPアドレス**。仮想IPを入力します。詳細については、「Citrix ADCが所有するIPアドレスの構成」(/ja-jp/citrix-adc/13/networking/ip-addressing/configuring-citrix-adc-owned-ip-addresses.html)を参照してください。
    - **ポート**。たとえば、管理コンソールには8284と入力します。
8. 「**ロードバランシング仮想サーバーサービスグループバインディングなし**」をクリックします。
9. サービスグループバインディングページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択して、**Bind**をクリックします。
10. ステップ7から9に従って、エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成します。
    - **ポート**。エージェントサービスポートには8286と入力します。キャッシュデータ同期ポートには8288と入力します。

ログパーサー

Workspace Environment Managementには、エージェントのインストールディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。デフォルトの場所は - `c:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Agent Log Parser.exe` です。



WEMエージェントログパーサーを使用すると、任意のWorkspace Environment Management™エージェントログファイルを開き、検索およびフィルタリング可能にすることができます。パーサーは、イベント、警告、例外の総数を要約します (リボンの右上)。また、ログファイルに関する詳細 (最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、およびエージェントのバージョンとユーザー名) も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ は、次のポートを使用します。

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャサービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェント

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				ホスト上のリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャサービス	TCP	8284	「管理ポート」。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャサービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。
エージェントキャッシュ同期プロセス	インフラストラクチャサービス	TCP	8288	「キャッシュデータ同期ポート」。Workspace Environment Management 1912以降に適用。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換える。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				同期するためのポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrixライセンスサーバーポート」。Citrixライセンスサーバーがリッスンし、インフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrix License Server内の専用Citrixコンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。
監視サービス	インフラストラクチャサービス	TCP	8287	「WEM監視ポート」。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリッスンポート。

ログファイルの表示

Workspace Environment Management™ (WEM) に関連するログを収集して表示できます。ログを使用して自分で問題をトラブルシューティングしたり、Citrixテクニカルサポートに支援を求める際にログを提供したりできます。次のログを収集できます。

- WEMエージェント(#logs-related-to-the-agent)

- WEMインフラストラクチャサービス(#logs-related-to-the-infrastructure-service)
- WEM管理コンソール(#logs-related-to-the-administration-console)
- WEMデータベース(#logs-related-to-the-wem-database)

エージェント関連のログ

WEMエージェントに関連するログを収集できます。WEMエージェントがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **WEMエージェントログ**
  - **Citrix WEM Agent Init.log**。CMDまたはUIモードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる初期化ログです。このログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントが起動に失敗した場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは*例外*として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMDまたはUIモードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる主要なログです。このログには、エージェントが処理した命令が一覧表示されます。アクションが現在のユーザーに割り当てられない場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは*例外*として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、**［管理コンソール］>［詳細設定］>［構成］>［エージェントオプション］**に移動し、［エージェントログの有効化］**設定を構成します。詳細を表示するには、**［エージェントオプション］**タブで**［デバッグモード］**を有効にします。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

    Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

    名前: AgentDebugModeLocalOverride

    種類: DWORD

    値: 0

    ログファイルを有効にするには値を1に設定し、無効にするには0に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

    > **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**。Citrix WEM Agent Host Service の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にあります。ログを有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > Configuration > Service Options** タブで、関連する構成セットの **Debug Mode** を必ず有効にしてください。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

  Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

  名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

  種類: DWORD

  値: 0

  ログファイルを有効にするには値を 1 に設定し、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動してください。デフォルトでは、ログは無効になっています。

  > **注意:**
  >
  > レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Windows イベントログ**。Windows イベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Agent Service** ペインで表示します。

- **Windows Communication Foundation (WCF) トレース**。WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEM インフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Windows イベントログ**。Windows イベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > Norskale Broker Service** ペインで表示します。
- **Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**。Citrix WEM インフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\ Norskale\Norskale Infrastructure Services` にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にしてください。

  a. スタートメニューから **WEM Infrastructure Service Configuration Utility** を開きます。
  b. **Advanced Settings** タブで、**Enable debug mode** を選択します。
  c. **Save Configuration** をクリックし、**Yes** をクリックしてサービスを開始し、変更を適用します。
  d. **WEM Infrastructure Service Configuration Utility** ウィンドウを閉じます。

- **WCF トレース**。WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM 管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM Console Trace.log**。WEM 管理コンソールの問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。ログを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

a. スタートメニューから **WEM Administration Console** を開き、**Connect** をクリックします。

b. **New Infrastructure Server Connection** ウィンドウで情報を確認し、**Connect** をクリックします。

c. **About** タブで **Options** をクリックし、**Enable Debug Mode** を選択します。

d. **Apply** をクリックして変更を適用します。

- **WCF トレース**。WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

WEM データベースに関連するログ

WEM データベースに関連するログを収集できます。データベースの作成またはアップグレードに WEM データベース管理ユーティリティを使用すると、ログが作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log**。WEM データベースの問題のトラブルシューティングに役立つログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services` にあります。

ウィンドウズ コミュニケーション ファンデーション トレース

Windows Communication Foundation (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信
- WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信(#troubleshoot-communications-related-to-the-wem-infrastructure-service)
- WEM管理コンソールに関連する通信(#troubleshoot-communications-between-the-wem-administration-console-and-the-wem-database)

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEMエージェントがWEMインフラストラクチャサービスと適切に通信しない場合は、VUEMUIAgent.exeサービスのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。

2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあるVUEMUIAgent.exe.configファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>`と`</configSections>`マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダ（C:\Trace）を作成します。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exeプロセスを終了します。
8. `C:\Trace`にある`vuemUIAgent-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

Citrix.Wem.Agent.Service.exeサービスのWCFトレースを表示することもできます。次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM Agent Host Service を終了します。
4. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある Citrix.Wem.Agent.Service.exe.config ファイルを見つけて、そのファイルのバックアップコピーを作成します。
5. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`</configSections>` マーカーの直後の4行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService-
Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>
```

```
</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM Agent Host Service という Windows サービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. `C:\Trace` にある `NorskaleAgentHostService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker Service の WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Norskale Infrastructure Service を終了します。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Infrastructure Services` にある Norskale Broker Service.exe.config ファイルを見つけて、そのファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
```

```
                initializeData= "c:
\trace\NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEM インフラストラクチャサービスマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Norskale Infrastructure Service を開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信のトラブルシューティング

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale Administration Console.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM 管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM 管理コンソールを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Administration Console` にある Norskale Administration Console.exe.config ファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに追加します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"
```

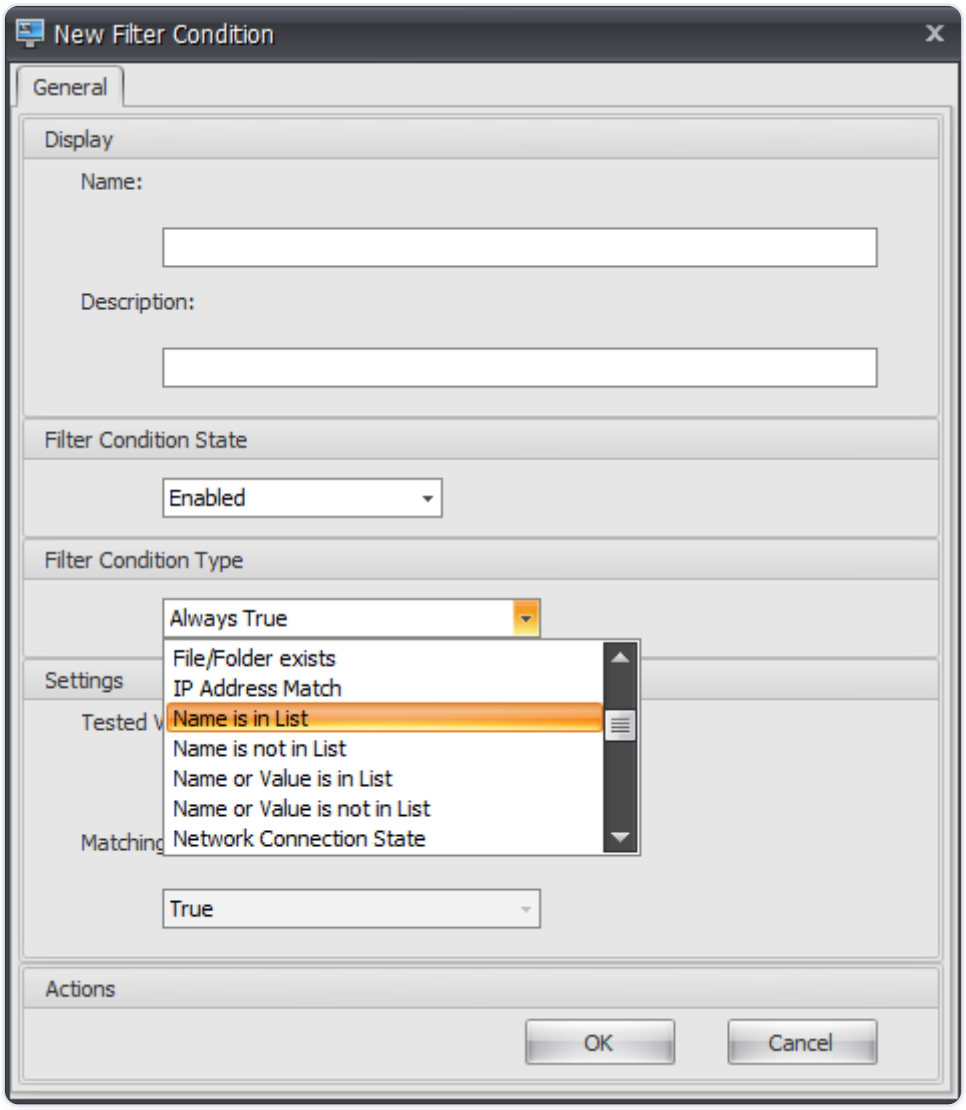
```
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
            <add name="traceListener"
                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
                initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog" />
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. WEM 管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `WEMConsole-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

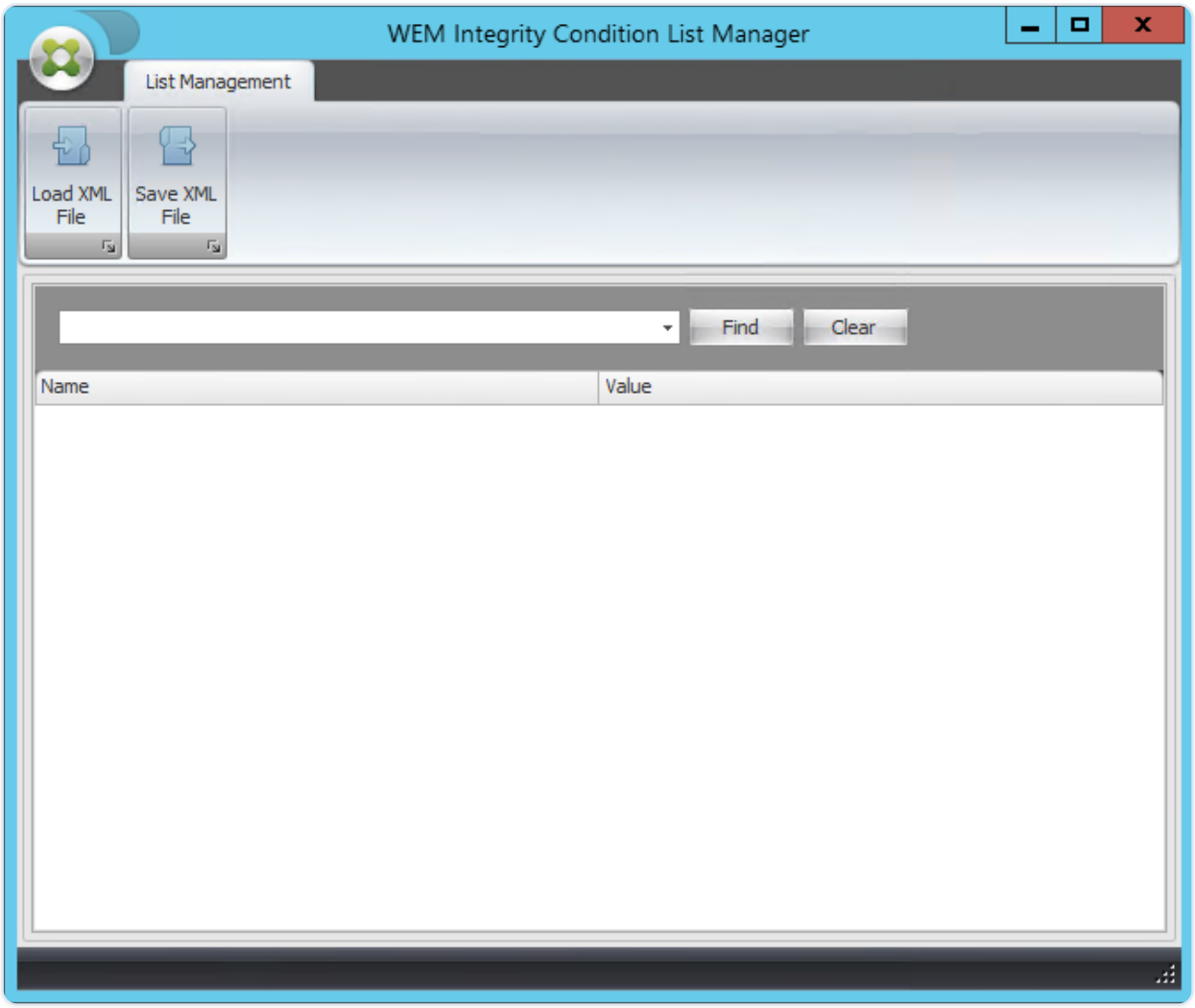
WEMインテグリティ条件リストマネージャー

WEMインテグリティ条件リストマネージャーは、フィルタリング用のXMLファイルの作成に役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルター条件タイプで使用されます: **名前がリストにある**、**名前がリストにない**、**名前または値がリストにある**、および**名前または値がリストにない**。これらの条件を管理コンソールで使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

この記事では、フィルタリング用のXMLファイルを作成するためにWEMインテグリティ条件リストマネージャーを使用する方法について説明します。たとえば、「**名前がリストにある**」と組み合わせてWEMインテグリティ条件リストマネージャーを使用してアクションをフィルターするとします。

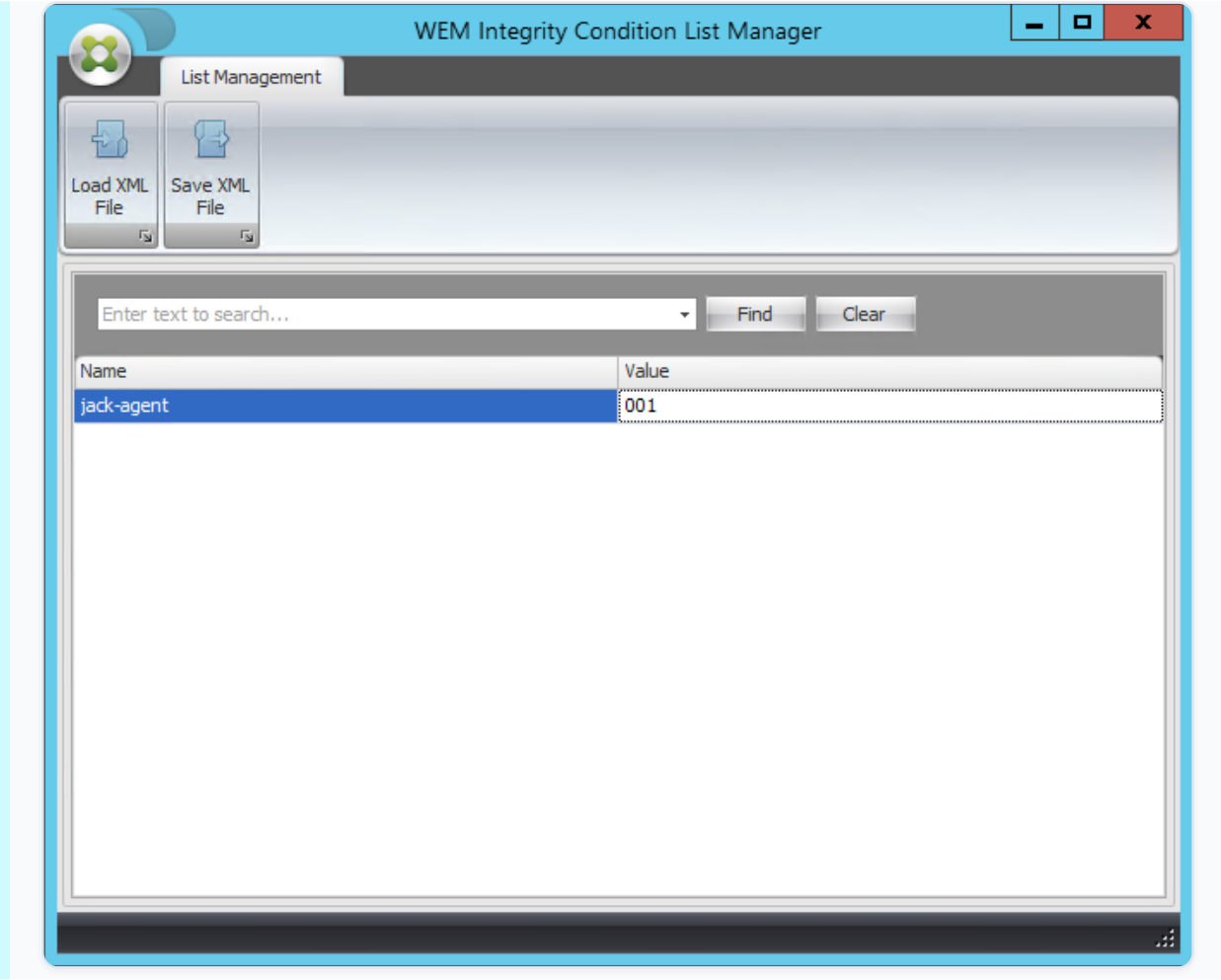


1. WEMインテグリティ条件リストマネージャーを開きます。

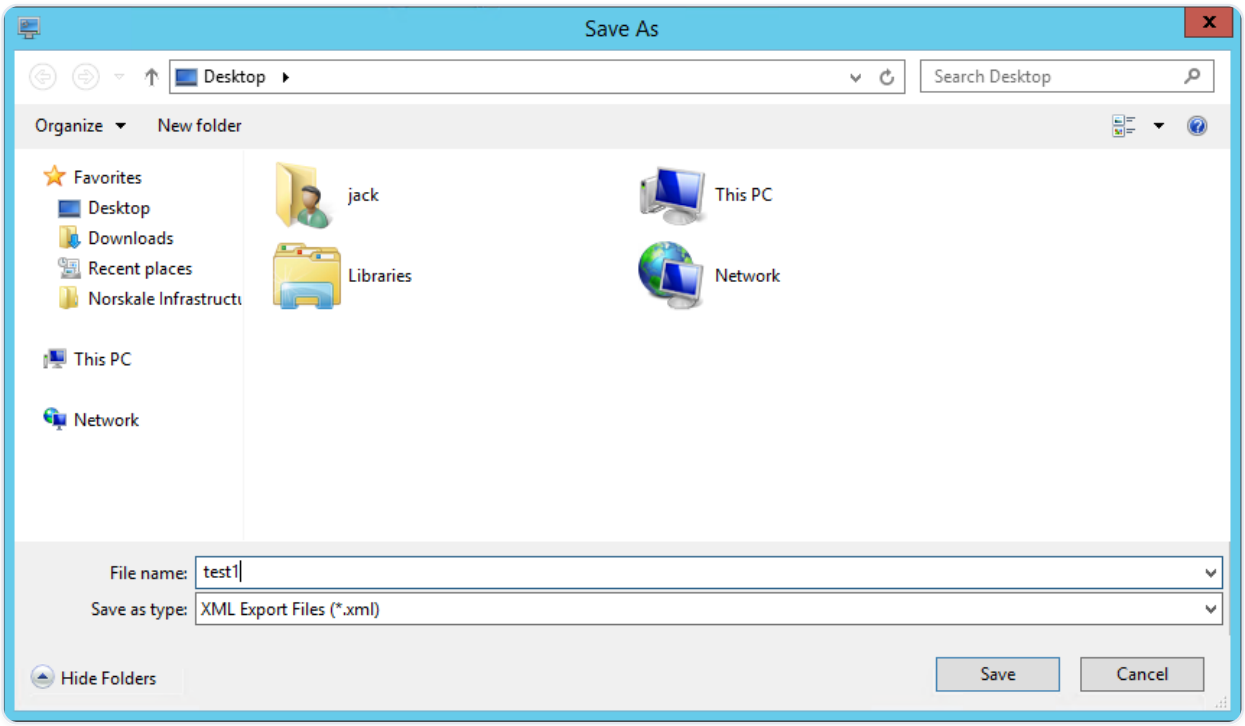


2. 空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで「**追加**」を選択します。
3. 「**名前**」フィールドに名前を入力します。

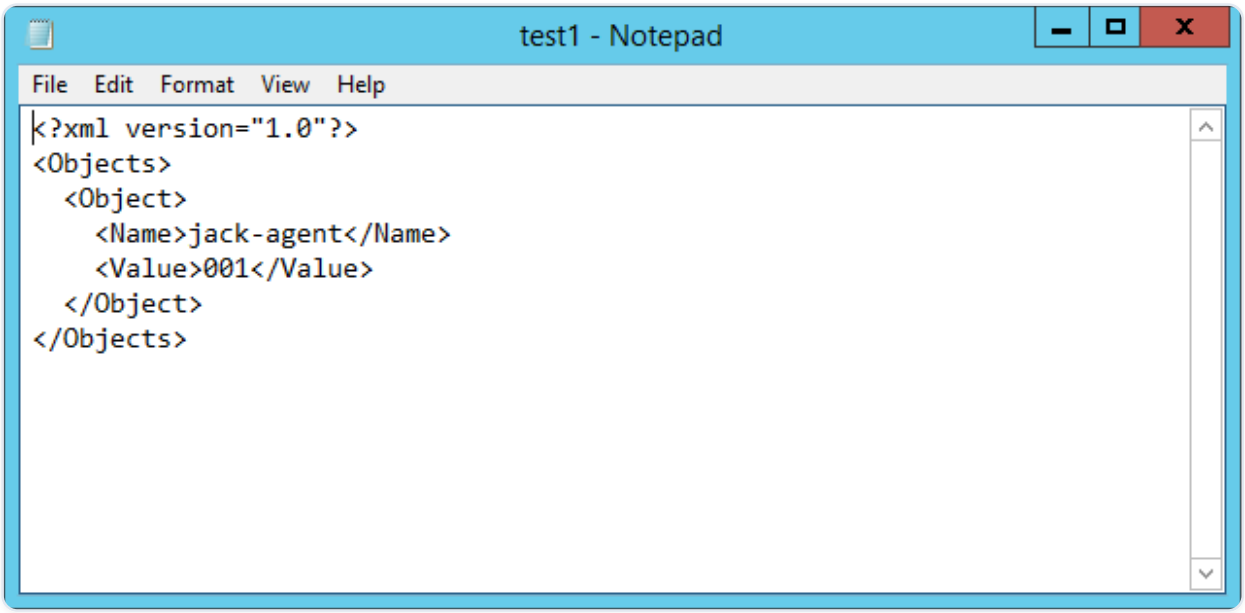
> **注:**
>
> WEMエージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力します。



4. 「**XMLファイルの保存**」をクリックし、目的のフォルダーを参照して、「**保存**」をクリックします。



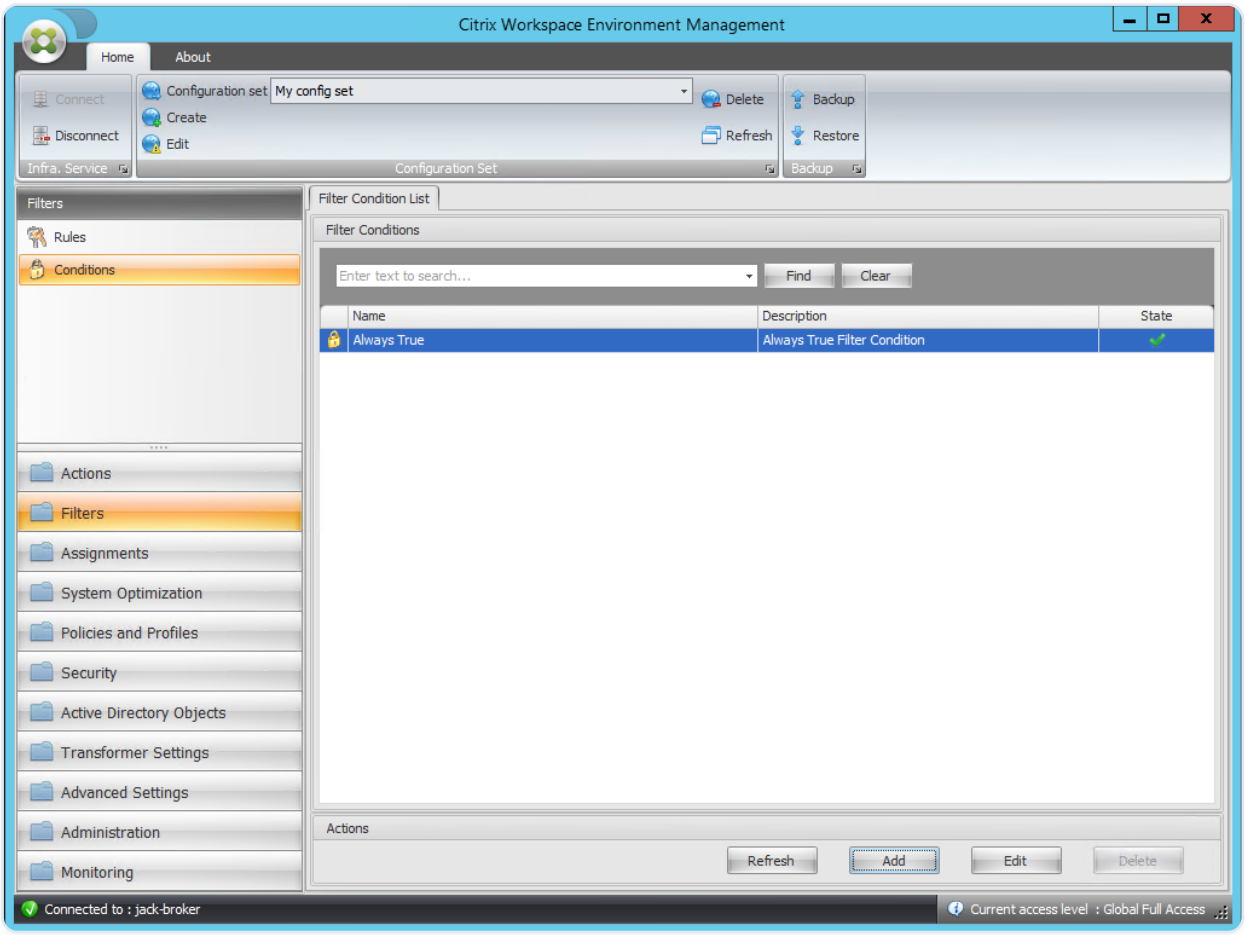
5. 保存したXMLファイルを開き、提供した情報が正しく保存されていることを確認します。



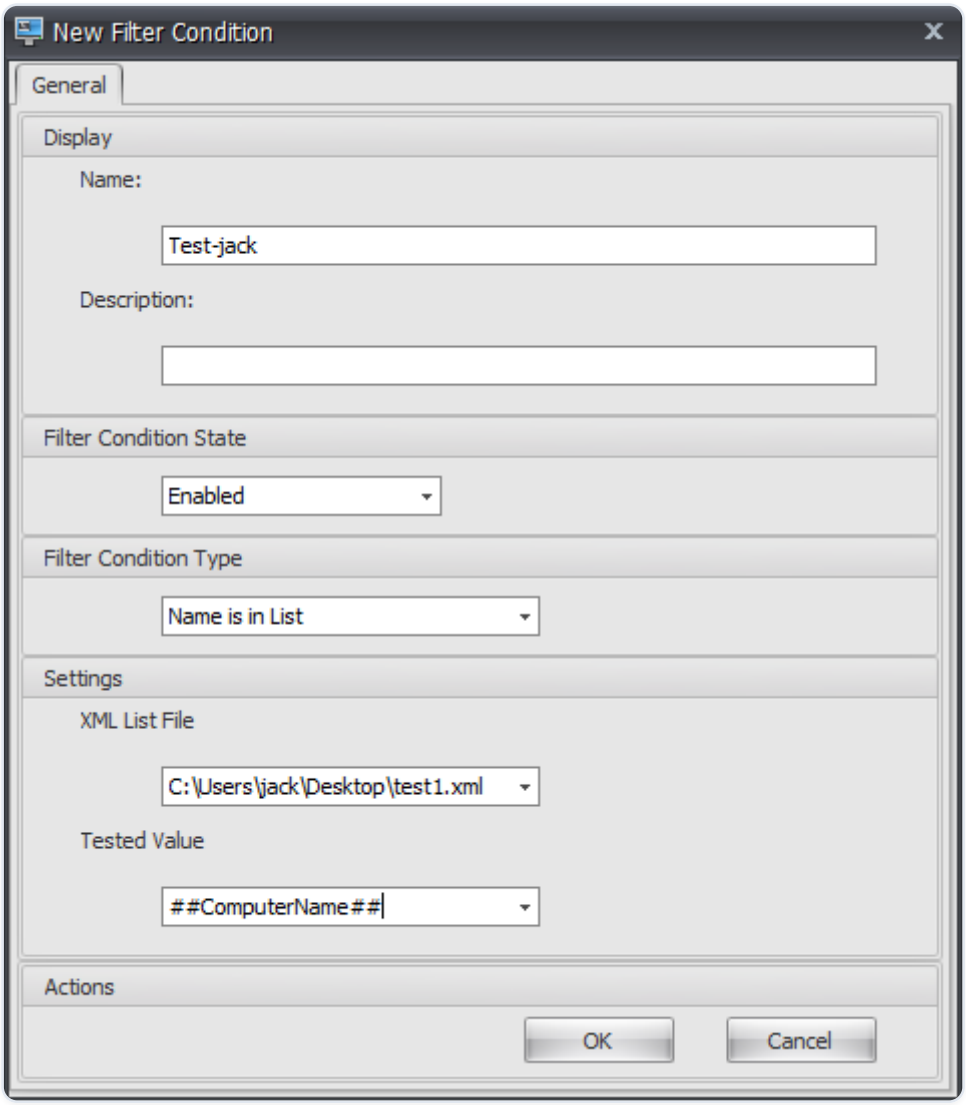
6. 保存したXMLファイルをエージェントホスト上のフォルダーにコピーします。

> **注:**
>
> この機能は、XML ファイルを管理コンソールマシンに保存した場合、動作しません。

7. **管理コンソール \> フィルター \> 条件 \> フィルター条件リスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。



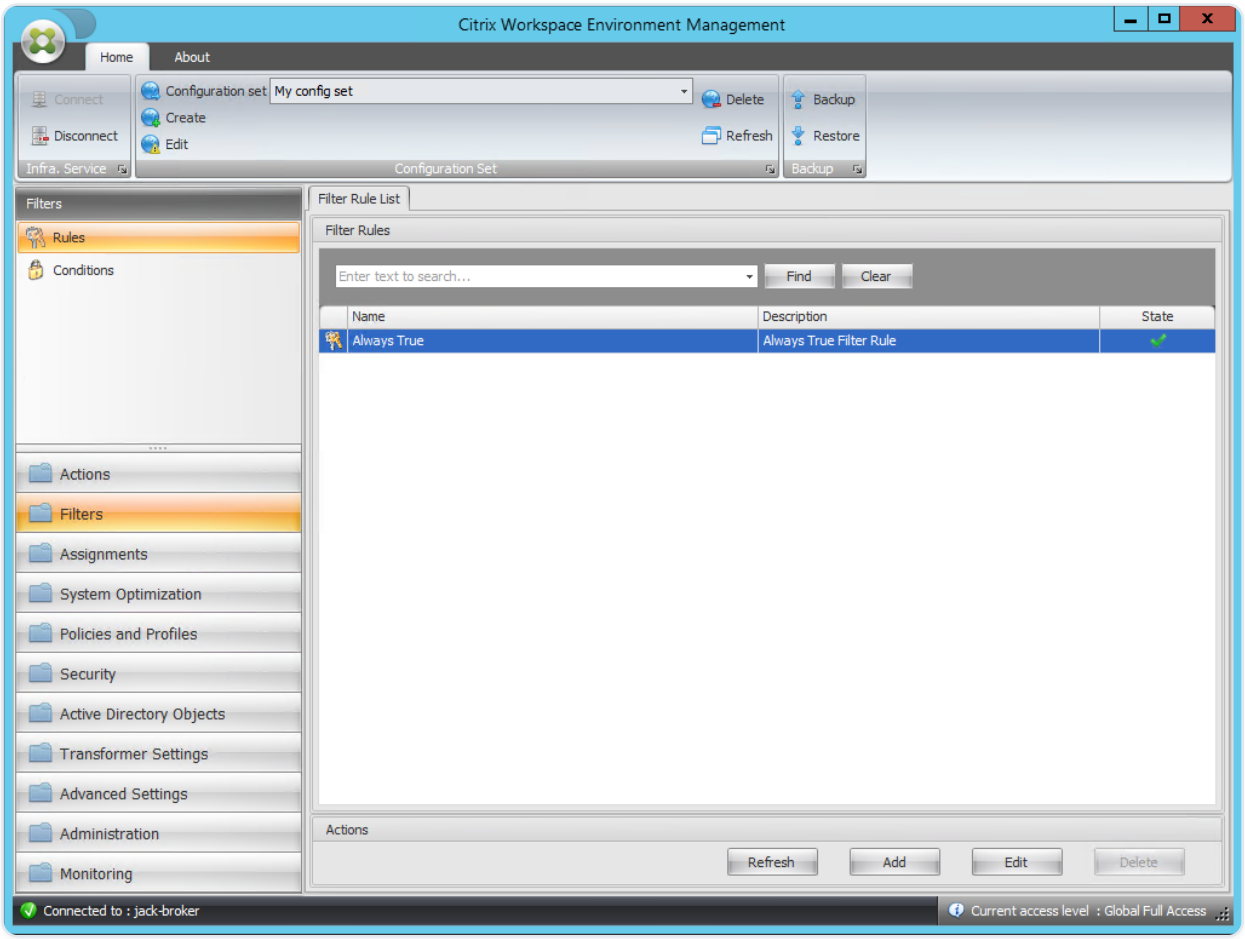
8. 情報を入力し、**OK**をクリックします。



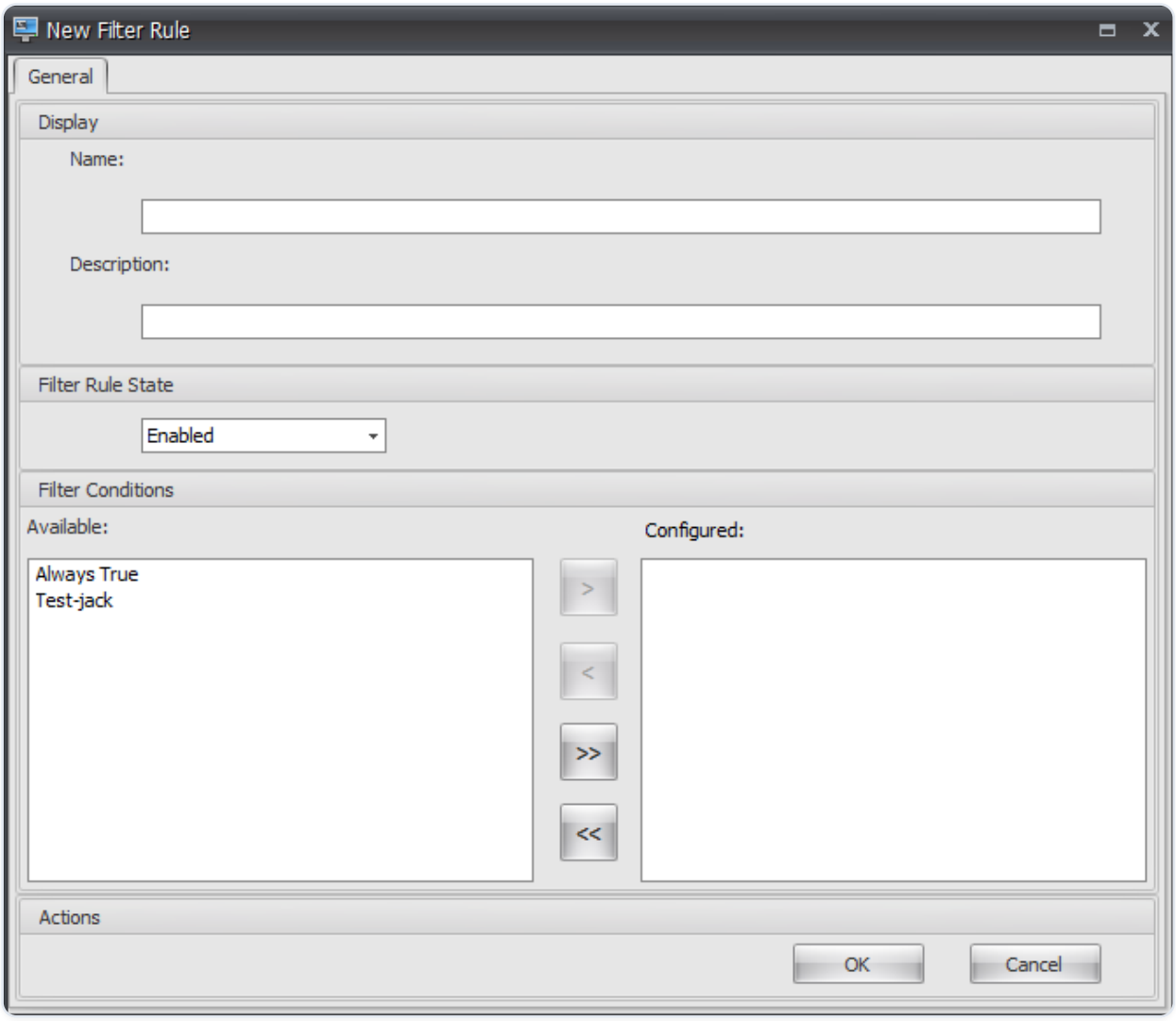
注:

- **フィルター条件の種類**。「**名前がリストにある**」を選択します。
- **XML リストファイル**: `C:\Users\<user1>\Desktop\test1.xml` (エージェントホスト上のファイルアドレス)
- **テスト値**。WEM Integrity Condition List Manager の**名前**フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」を使用する必要があります。動的トークンの使用方法について詳しくは、「動的トークン」を参照してください。

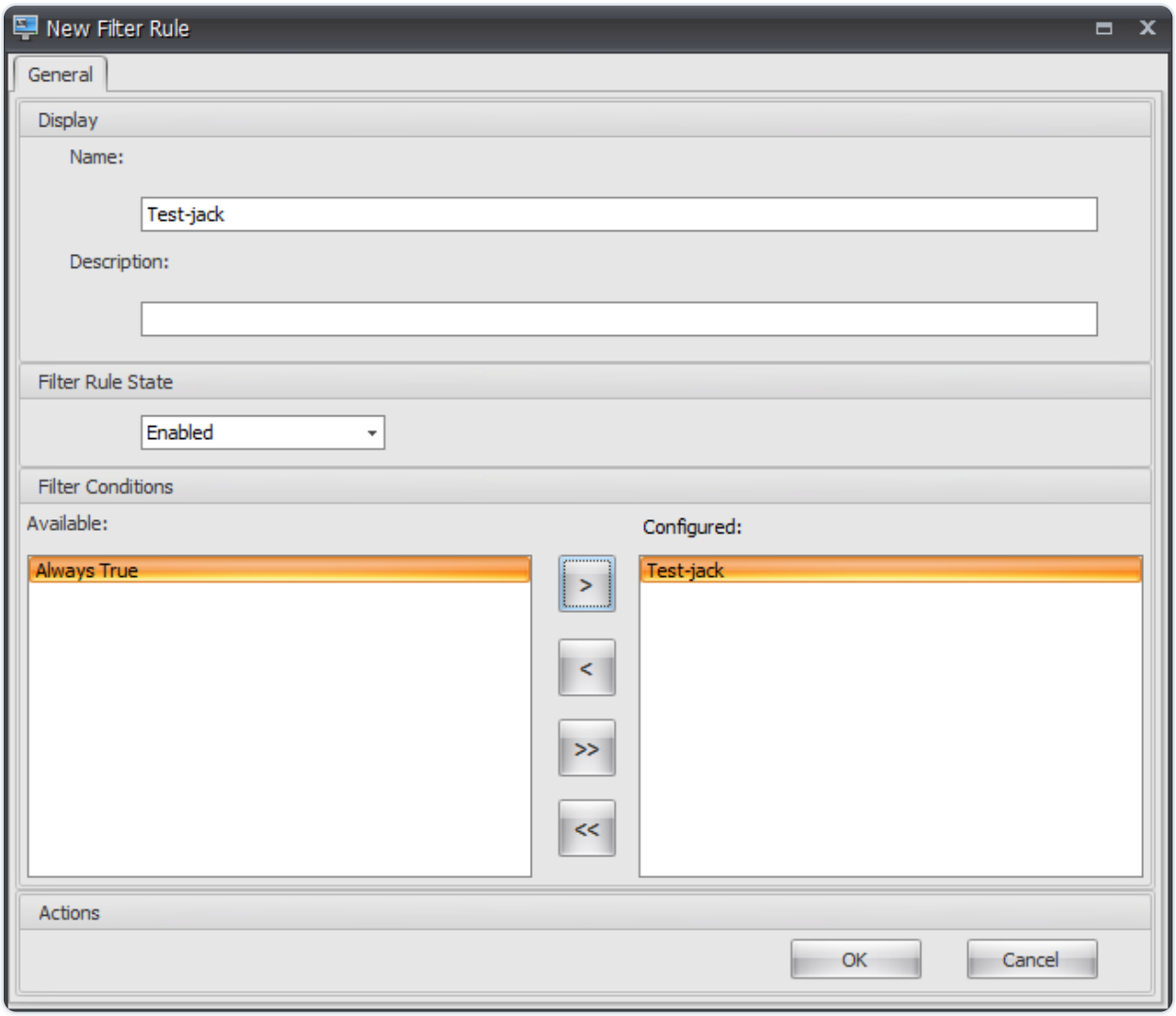
9. **管理コンソール \> フィルター \> ルール \> フィルター規則リスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。



10. **名前**フィールドにフィルター名を入力します。



11. 設定済みの条件を**利用可能**ペインから**設定済み**ペインに移動し、**OK**をクリックします。



12. **管理コンソール \> アクション \> アプリケーション \> アプリケーションリスト**タブに移動し、アプリケーションを追加します。

    「管理コンソール 3」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-11.png)

13. **管理コンソール \> 割り当て \> アクション割り当て** タブに移動します。

    「管理コンソール 4」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-12.png)

14. 目的のユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします (この例では、エージェントホストを選択します)。

    「管理コンソール 5」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-13.png)

15. アプリケーションを **利用可能** ペインから **割り当て済み** ペインに移動します。

「フィルターの割り当て 1」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-14.png)

16. フィルターを選択し、**OK** をクリックします。

「フィルターの割り当て 2」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-15.png)

17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします (この例では、**デスクトップの作成** と **タスクバーにピン留め** を有効にします)。

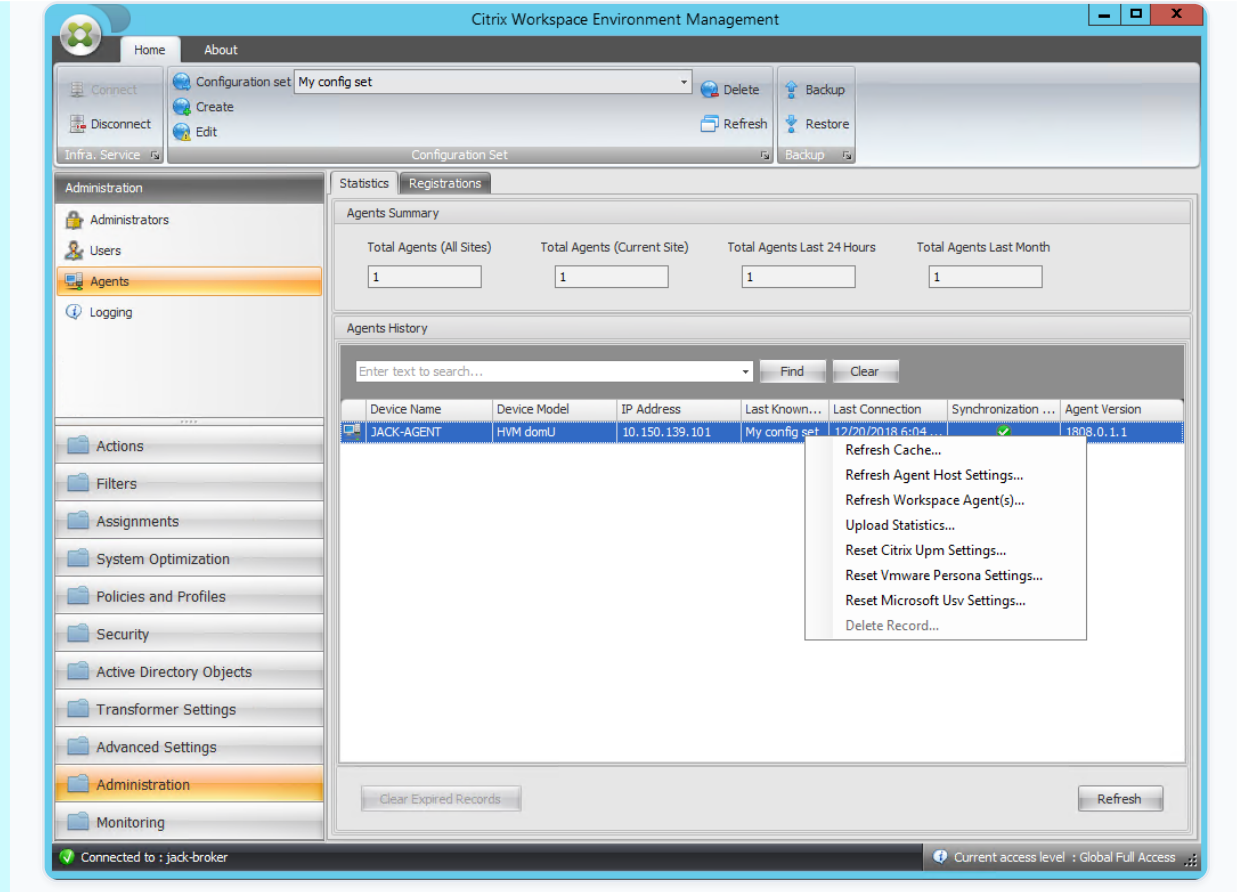
「管理コンソール 6」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-16.png)

18. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計** タブに移動し、**更新** をクリックします。

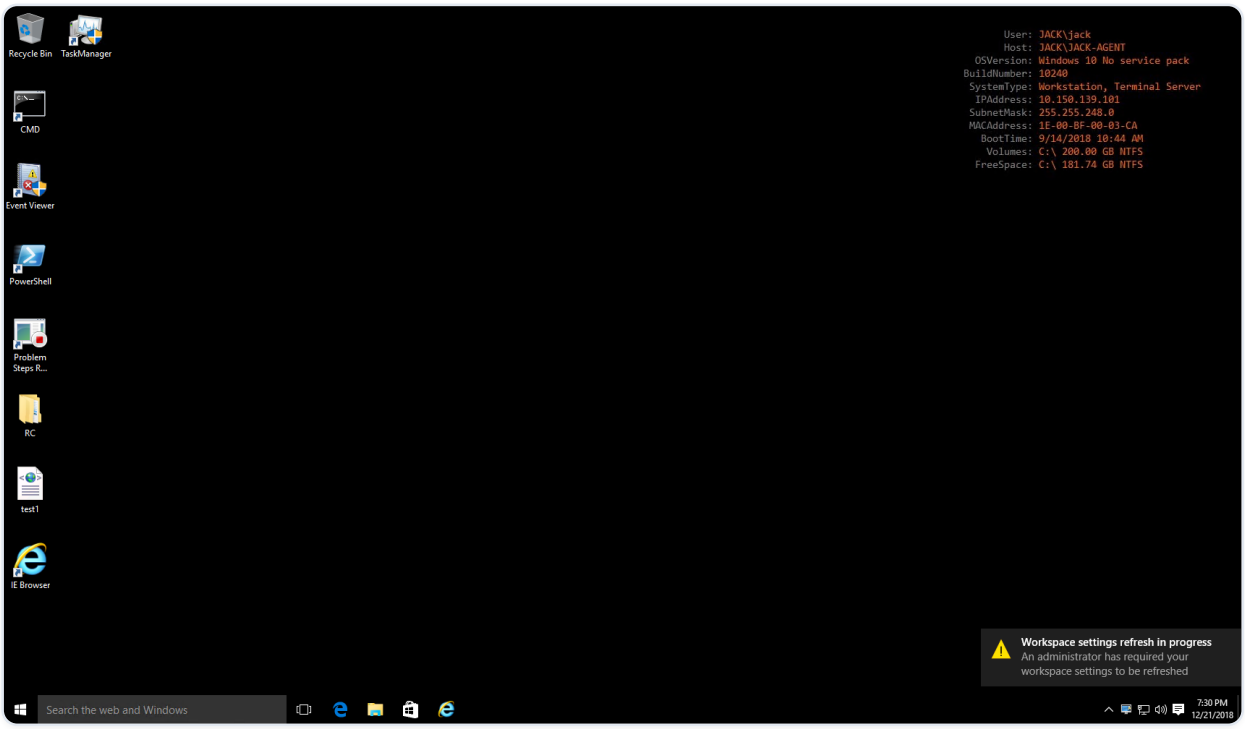
「管理コンソール 7」(/en-us/workspace-environment-management/2206/media/wem-integrity-condition-list-manager-17.png)

19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで **Workspace Agent(s) の更新** を選択します。

> **注:**
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動し、Citrix WEM Agent を更新することもできます。



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動し、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられました。デスクトップに作成され、タスクバーにピン留めされました。

XML プリンターリストの構成

Workspace Environment Management™ には、XML プリンターリストファイルを使用してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XML プリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで **Action Type** オプションを **Use Device Mapping Printers File** に設定して、プリンターアクション を作成します。

> **注:**
>
> 特定の Windows 資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされます。

XML プリンターリストファイルの構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされており、次の基本的な XML 構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...

    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連付けられたデバイスは、次のタイプのオブジェクトで表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>

               ...

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

各デバイスブロックは、特定のクライアントまたはコンピューター名と一致している必要があります。**\<Key>** タグには関連する名前が含まれます。**\<Value>** タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターと一致する **VUEMUserAssignedPrinter** オブジェクトのリストが含まれます。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

            <Key>DEVICE1</Key>

            <Value>

                <VUEMUserAssignedPrinter>

             ...

                </VUEMUserAssignedPrinter>

            </Value>

        </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMUserAssignedPrinter タグの構文

各構成済みプリンターは、次の属性を使用して **\<VUEMUserAssignedPrinter>** タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>。これは、構成済みプリンターの Workspace Environment Management プリンター ID です。各プリンターは異なる ID を持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management 管理コンソールで構成された XML プリンターリストアクションも、独自の ID を持つプリンターアクションであり、XML リストで個別に構成されたプリンターの ID とは異なる必要があります。

\<IdSite>。関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれます。これは、既存のサイトの ID と一致する必要があります。

\<State>。プリンターの状態を指定します。1 はアクティブ、0 は無効です。

\<ActionType>。常に 0 である必要があります。

\<UseExtCredentials>. 0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>. 1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>. 常に1である必要があります。

\<RevisionId>. 常に1である必要があります。プリンターのプロパティが後で変更された場合、エージェントホストに通知し、プリンターアクションが再処理されるように、この値を1増やしてください。

\<Name>. これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白に**できません**。

\<Description>. これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にできます。

\<DisplayName>. これは使用されず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>. これはプリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>. 接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>. 接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>. これには詳細設定が含まれています。**いかなる方法でも**変更しないでください。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/
Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復をアクティブにするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、強調表示されている**0**の値を**1**に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター**DEVICE1**に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNCパス`\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series`上の**HP LaserJet 2200 Series**（デフォルトプリンター）
- **Canon C5531i Series** プリンター（UNC パス `\\server.example.net\Canon C5531i Series` 上）

また、クライアントまたはコンピューター DEVICE2 にアクティブなプリンターを 1 台割り当てます。

- **HP LaserJet 2200 Series**（UNC パス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上）

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                <IdPrinter>1</IdPrinter>
                <IdSite>1</IdSite>
                <State>1</State>
                <ActionType>0</ActionType>
                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                <isDefault>1</isDefault>
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                <RevisionId>1</RevisionId>
                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
                <Description />
                <DisplayName />
                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>
                <ExtLogin />
                <ExtPassword />
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>
            </VUEMUserAssignedPrinter>
        </Value>
```

```
      <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                <IdPrinter>2</IdPrinter>
                <IdSite>1</IdSite>
                <State>1</State>
                <ActionType>0</ActionType>
                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                <isDefault>0</isDefault>
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                <RevisionId>1</RevisionId>
                <Name>Canon C5531i Series</Name>
                <Description />
                <DisplayName />
                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>
                <ExtLogin />
                <ExtPassword />
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>
            </VUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE2</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
```

```
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。